I-O DATA

GV-DVC2/PCI

取扱説明書

80204-01

弊社は、お客様が以下の【使用許諾条件】および【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。

【使用許諾条件】

1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器と提供者の著作物です。
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本サポートソフトウェアの使用にあたっては、バックアップ保有の目的に限り、各1部だけ複写できるものとします。
3) 本サポートソフトウェアに含まれる著作権等の知的財産権は、お客様に移転されません。
4) 本サポートソフトウェアのソースコードについては、如何なる場合もお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや、逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを禁止します。
5) 書面による事前承諾を得ずに、本サポートソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。
6) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
7) お客様は、本サポートソフトウェアを一時に1台のパソコンにおいてのみ使用することができます。
8) お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません

【ご注意】

1) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
2) 本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。
3) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
4) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
5) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関る設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
6) テレビやビデオの映像は著作権法により保護されています。これらの映像は個人で楽しむ以外に利用しないでください。。

●I-O DATAは、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。
●Microsoft,Windows,WindowsNTは、米国 Microsoft Corporationの登録商標です。
●VAIO、i.LINKならびにi.LINKのロゴは、ソニー株式会社の商標です。
●Sonic DVDit!はSonicSolutions社の登録商標です。
●DigiOnSoundは株式会社デジオンの登録商標です。
●その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

GV-DVC2/PCI 取扱説明書
2000.Sep.12　80204-01
発　行　　株式会社アイ・オー・データ機器
〒920-8512 石川県金沢市桜田町3丁目10番地

©2000 I-O DATA DEVICE,INC. All rights reserved.
本製品及び本書は著作権法により保護されておりますので
無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。

ここにＶｅｒシールをお貼りください。

Ｖｅｒシール

このたびは、PCIバス搭載デジタルビデオキャプチャボード『GV-DVC2/PCI』をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用の前に、本書を良くお読みいただき、正しいお取り扱いをお願いします。

本製品を使ったビデオ編集の流れ

取り付けとインストール
【ステップ１】

DVworksによるキャプチャ
【ステップ２】

シーン検出キャプチャ
撮影時の録音ボタンON/OFFを自動判断して、検出したシーンを一括キャプチャ

タイムコードキャプチャ
キャプチャの開始点・終了点を指定して、一括キャプチャ

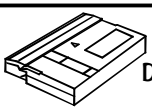
見ながらキャプチャ
映像を見ながら、好きなところだけをキャプチャ

音声キャプチャ
映像に録音された音声だけをキャプチャ

静止画キャプチャ
映像の１コマを静止画としてキャプチャ

MediaStudio Proによるビデオ編集
【ステップ３】

DVworksによる書き戻し
【ステップ４】



DVテープへの録画

MediaStudio Proによる保存
【ステップ４】

高圧縮のMPEG形式でハードディスクに保存

目　次

はじめに

使う前の確認

箱の中身を確認しよう…… 2

ユーザー登録しよう…… 4

GV-DVC2/PCIの特徴…… 5

対応しているパソコンとOS …… 7

- 対応しているパソコンとOS …… 7
- 本製品を使用するために最低限必要なパソコン環境 … 8
- 動作確認済みのDV機器一覧 …… 9
- 添付ソフトウェアの動作環境 …… 10

サービス添付品のお問い合わせ先 …… 11

ステップ1 使う前の準備

1 取り付け前の確認 …… 14

- IRQの空きの確認 …… 14
- DMAの確認 …… 16

2 ボードを取り付ける …… 20

3 ドライバを インストールする …… 22

- Windows 98編 …… 23
- Windows Me編 …… 31
- Windows 2000編 …… 32

4 『DVworks』を インストールする …… 34

5 『MediaStudio Pro』を インストールする …… 39

ステップ2 映像をキャプチャしよう

1 DV機器を接続しよう…… 44

- DV機器を接続する …… 44
- 確認しよう(Windows 98編) …… 46
- 確認しよう(Windows Me編) …… 48
- 確認しよう(Windows 2000編) …… 50

2 DV機器をパソコン上から操作してみよう …… 52

- DV機器を準備する …… 52
- 『DVworks』を起動する …… 53
- 『DVworks』でDV機器の接続を確認する …… 56
- 『DVworks』でDV機器を操作する … 57

3 ビデオ映像をキャプチャしよう … 60

- シーン検出でキャプチャする …… 62
- タイムコードでキャプチャする … 71
- 映像を見ながらキャプチャする … 75
- 音声だけをキャプチャする …… 78
- 静止画をキャプチャする …… 81

ステップ3　ビデオ作品を作ろう

1 『MediaStudio Pro』を起動しよう …… 84

2 映像を編集しよう …… 87

- シーンをカット編集する …… 88
- 特殊効果でシーンをつなぐ …… 94
- 編集内容を確認する …… 96
- タイトルを入れる …… 98
- 編集状況（プロジェクト）を保存する …… 100

3 ＢＧＭやナレーションを入れよう …… 101

4 編集した作品を保存しよう（レンダリング） …… 106

ステップ4 ビデオ作品を楽しもう

1 編集した作品を DV機器で録画しよう ····· 112

2 編集した作品を MPEG形式で保存しよう ··· 117

- プラグインのインストール ····· 118
- MPEG形式で保存する ····· 119

付録

付録１　正常に動作しない場合 ・・・・・・・・・・・ 124

- DV機器接続時 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・126
- プレビュー時 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・128
- DV機器コントロール時 ・・・・・・・・・・・・・132
- キャプチャ時、書き戻し時 ・・・・・・・・・135
- DV機器全般の問題 ・・・・・・・・・・・・・・・・141
- リソースの変更方法 ・・・・・・・・・・・・・・・142

付録２　DVworksリファレンス ・・・・・・・・・・・ 144

- DVworksの画面構成 ・・・・・・・・・・・・・・・145
- プレビューウィンドウ ・・・・・・・・・・・・・146
- 情報表示パネル ・・・・・・・・・・・・・・・・・・149
- コントロールウィンドウ ・・・・・・・・・・・150
- ファンクションパネル
  （DVキャプチャ） ・・・・・・・・・155
- ファンクションパネル
  （DV書き戻し） ・・・・・・・・・・・161
- ファンクションパネル
  （DV静止画キャプチャ） ・・・165
- ファンクションパネル
  （DV音声キャプチャ） ・・・・・167
- メディアビュー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・169
- メニュー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・173

**付録３　DV機器からの映像を
なめらかに表示するには ・・・・176**

付録４　2G以上のAVIファイルを
扱うには ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・177
● DVworksの設定と
作成されるAVIファイルの関係 ・・・・ 179
● GigaAVIファイルの確認方法 ・・・・・・ 188
● GigaAVIファイルを削除する場合 ・・ 189
● MediaStudio Proでの注意事項 ・・・・ 191
付録５　用語解説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・194
付録６　仕様・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・199

サポートセンターへのお問い合わせ ・・・・・・・・・ 200
サポートソフトウェアのバーションアップ　・・ 201
保証について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 202
修理について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 203

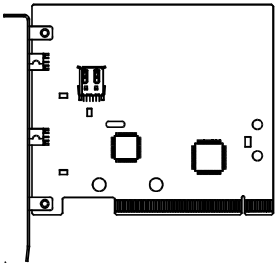
はじめに

使う前の確認

箱の中身を確認しよう

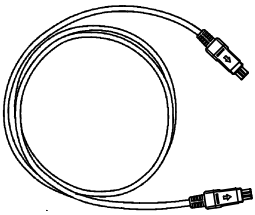
箱の中には以下のものが入っています。

☐にチェックをつけながら、ご確認ください。



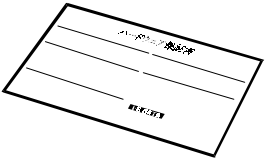
☐ デジタルビデオキャプチャボード
［GV-DVC2/PCI］

☑ 取扱説明書

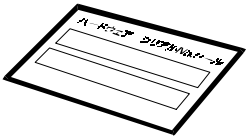


☐ DVケーブル
［4ピン⇔4ピン（1.5m）］

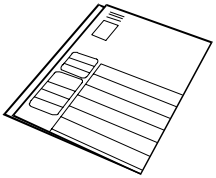
☐ サポートソフト
［CD-ROMディスク］



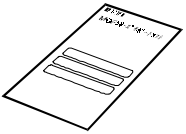
☐ ハードウェア保証書



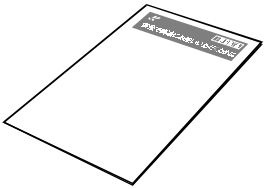
☐ ハードウェアシリアルNo.シール



☐ ユーザー登録カード



☐ Verシール



☐ **[安全で快適にお使い
いただくために]**

＜サービス添付品＞

サービス品に付き、弊社ではサポート致しかねます。お問い合わせ先などについては11ページ【サービス添付品のお問い合わせ先】を参照してください。

☐	CD-ROMディスク ● Ulead MediaStudio Pro 6.0 VE SP （Ulead Cool3D 3 SE含む） ● Ulead PhotoImpact 5 BE ● Sonic DVDit! LE ● DigiOnSound Light ● PowerDVD 2000	5枚
☐	Ulead MediaStudio Pro　取扱説明書	1冊
☐	Ulead 製品お客様保管用カード注)	1枚
☐	Sonic DVDit! LE　ユーザー登録のご案内	1枚
☐	Sonic DVDit! LE インストールガイド注)	1枚
☐	DigiOnSound Light 登録ハガキ注)	1枚
☐	DigiOnSound Light インストールガイド	1枚
☐	PowerDVD 2000　クイックガイド	1冊

注）インストール時やユーザサポート時に必要なシリアルナンバーが記載されております。大切に保管ください。

万一不足品がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

お願い：箱や梱包材は大切に保管し、修理などで輸送の際にご使用ください。

ユーザー登録しよう

弊社では、サポートセンターでソフトウェアのバージョンアップサービスなどを行っておりますが、これらのサービスはユーザー登録を行った方のみが対象となります。
お買い上げいただいた製品ごとに必ず登録を行ってください。

1 添付のVerシールを貼ってください。

ユーザー登録カード、本書の巻末に貼ってください。

2 添付のハードウェアシリアルNo.シールを貼ってください。

ユーザー登録カード、ハードウェア保証書に貼ってください。

3 ●オンライン登録する場合（ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ http://www.iodata.co.jp/）

インターネットに接続できる環境をお持ちの場合はこちらでユーザー登録を行ってください。

I-O DATA ホームページに「オンライン・ユーザー登録」ボタンが用意されています。このボタンをクリックするとオンライン登録の案内が表示されますので、画面の表示にしたがって必要事項を記入して、ユーザー登録を行ってください。

オンライン・ユーザー登録後、お手元のユーザー登録カードには、ユーザー登録番号を記入して大切に保管してください。

●ハガキで登録する場合

必要事項をご記入の上、弊社まで必ずご返送ください。

ユーザー登録の際、必要事項の入力もれ（ユーザー登録カードの場合は、必要事項の記入漏れやシールの貼り忘れ等）があった場合は、ユーザー登録できませんので、必ずご確認ください。

GV-DVC2/PCIの特徴

◎デジタル品質の映像をパソコンとDV機器間でダイレクト転送

OHCI準拠IEEE1394インターフェイスによるデジタル転送方式です。
DV(i.LINK)端子搭載のDV機器とパソコンを１本のケーブルで接続し、双方向の映像データの転送が可能です。

◎オリジナル・キャプチャツール「DVworks」を添付

オリジナルデザインのユーザーインターフェイスにより、AV機器感覚の操作環境を提供し、再生や停止を始めとするDV機器コントロールを行えます。また、フレーム落ちのないキャプチャやAVIファイル再生(シームレス・キャプチャ/再生）を実現し、自動シーン検出やIn/Out点の範囲指定キャプチャなど、豊富な機能を持っています。

◎参照型AVI方式(GigaAVIフォーマット)による長時間キャプチャが可能

松下電器が開発したソフトウェアDVコーデックによる高品質な映像再生と、弊社独自のコーデックドライバ技術を融合した参照型AVI方式(GigaAVIフォーマット)に対応。
参照型AVI方式(GigaAVIフォーマット)では、Video for Windowsの2Gバイトの制限を受けない長時間AVIファイルが可能です。
付属の「Ulead MediaStudio Pro」などの一般のノンリニアビデオ編集ソフトでも2Gバイト以上のAVIファイルの作成が可能です。

◎GV-VCPシリーズやGV-BCTVシリーズと併用すれば、より高品質な表示に

本製品に搭載したソフトウェアDVコーデックでも高品質で高速な映像再生ができますが、弊社製ビデオキャプチャボード「GV-VCPシリーズ」や「GV-BCTVシリーズ」と併用する事でDV機器からのビデオ映像を利用したオーバーレイ表示が行えます。**CPUの負荷を軽減し、フルモーションの表示が可能です。**

◎MPEGプラグインをインストールすれば、MPEG 1/MPEG 2ファイルの作成と編集が可能に

MediaStudio Pro 6.0 VE上でMPEGデータを作成＆編集可能にするMPEGプラグインを標準添付。プラグインをインストールすれば、編集した映像をMPEG 1やMPEG 2形式に圧縮して保存することができます。

◎ユーザーの創作力をサポートするアプリケーションを添付

本格的な映像編集をサポートするため、以下のアプリケーションを添付しています。

- ビデオ編集ソフト 「Ulead MediaStudio Pro 6.0 VE SP」
  ＊当社オリジナルのSpecial版ですので、特殊効果をFull版と同様に制限なく使うことができます。
- DVDオーサリングソフト「DVDit! LE」※
- ソフトウェアDVDプレーヤ「PowerDVD 2000」
- 3Dタイトル作成ソフト「Ulead Cool3D 3 SE」
- 静止画編集ソフト 「PhotoImpact 5 BE」
- 音声波形編集ソフト 「DigiOnSound Light」
- ソフトウェアMPEG2エンコーダ「mpEGG! DVDエンコーダ体験版」※
  （※サポートソフトCD-ROMに収録されています。）

※ Windows Me、Windows 2000には未対応です。

注意

これらのソフトウェアは弊社ではサポートしておりません。
お問い合わせに関しては11ページ【サービス添付品のお問い合わせ先】か、裏表紙を参照してください。
（「mpEGG! DVDエンコーダ体験版」は体験版につき、サポートはしておりません。あらかじめご了承ください。）

対応している
パソコンとOS

対応しているパソコンとＯＳ

機種
PCIバスRevision2.1以降搭載の以下の機種 ・PC98-NXシリーズ ・DOS/Vマシン （SONY VAIOシリーズ等、標準でDV端子を搭載する機種では ご使用いただけません。）

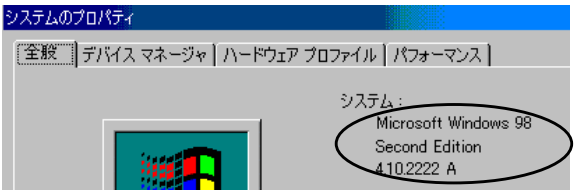
ＯＳ（日本語版）
・Windows 98 Second Edition※ ・Windows Me ・Windows 2000

※ Windows 98をお使いの場合は、Windows 98 Second Editionへのアップグレードが必要です。バージョンを確認してください（確認方法は以下を参照。アップグレード方法に関しては、各パソコンメーカーにご確認ください。）

＜Windows 98 Second Editionの確認方法＞

①[マイコンピュータ]を右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。

②[システム]欄に“**Microsoft Windows 98 Second Edition**”と表示されていることをご確認ください。



本製品を使用するために 最低限必要なパソコン環境

CPU	MMX Pentium200MHz以上（PentiumII 350MHz以上推奨）
メモリ	64Mバイト以上（128Mバイト以上推奨）
ハードディスク	・UltraATA/33以上、UltraWide SCSI以上推奨 ・150Mバイト以上の空き容量（4Gバイト以上推奨） この容量は、ドライバソフト等のインストー ル領域です。この他に静止画および動画ファイル保存用として空き領域が必要です。 ・ 1分間の動画キャプチャには約220Mバイトの空き容量が必要です（2Gの空き容量があれば、約9分30秒の動画キャプチャを行うことができます）。 ・ 静止画1枚につき、1Mバイトの空き容量が必要です。 ※弊社製SCSIインターフェイス推奨 （SC-UWPCI/SC-U2PCI/SC-UPU2/SC-U2PS） ※弊社製ハードディスク推奨 （UWHD-N/HDIS-UW/U2HD/HDIS-U2シリーズ）
グラフィック	DirectDrawのオーバーレイに対応し、解像度800×600ハイカラー以上表示できるグラフィックアクセラレータボード （弊社製GAシリーズ推奨：GA-7408/ZX8/ZXTV8/VDB16/TNT216/TNT232/SV4シリーズ，GE-GF2A）
サウンド環境	音声再生用サウンドボード （Creative社製Sound Blasterシリーズ推奨）
CD-ROMドライブ	アプリケーションソフトのインストール用

注意

1. CPU速度、ハードディスクの転送速度、その他使用状況により動画キャプチャ時にコマ落ち・音飛びが発生する場合があります。
2. IEEE1394対応のハードディスク、MO、CD-ROM等のドライブ機器は接続できません。
3. DVHS、CSチューナー等には対応しておりません。

注意）　SiS530チップセット搭載機種をお使いのお客様へ

SiS530グラフィックチップセットは32bitカラーでのオーバーレイに対応していません。このような環境で本製品をご使用の際は、16bitカラーモードでご使用ください。

《SiS530搭載機種一覧》

メーカー	機種名
NEC	Mate NX R　MA35L/RZ　MA35L/R5　MA35L/R7　MA35L/RH
	VALUESTAR NX R　VR35L/75C,D　VR35L/85D　VR400M/7ZC,7ZD VR400M/77C,77D　VR400M/85D　VR400M/87D
富士通	FMV-DESKPOWER　ME355　ME35B FMV5350ML3
IBM	Aptiva　10J（2165-0J4,0J5）　11J（2165-1J4,1J5） 12J（2165-2J4）　15J（2165-5J4,5J7,5JT） 16J（2165-6J4,6J7,6JT）

動作確認済みのDV機器一覧

対応機種は随時更新いたします。
最新情報は弊社ホームページをご覧ください。

メーカー	種類	DV機種名
Panasonic	DVカメラ	NV-C1, NV-C2, NV-C3, NV-C5, NV-C7, NV-DE3, NV-MG3, NV-DJ100, NV-DS5, NV-DS7, NV-DS9, NV-DS80K, NV-DS200, NV-DB1
	DVデッキ	NV-DV10000, NV-DM1
SONY	DVカメラ	DCR-TRV5, DCR-TRV7, DCR-TRV9, DCR-TRV10, DCR-TRV900, DCR-PC1, DCR-PC3, DCR-PC7, DCR-PC10, DCR-PC100, DCR-TRV310K, DCR-TRV220K, DCR-TRV20, DCR-TRV620K, DCR-TRV820K, DCR-VX2000, DCR-VX1000, DCR-VX9000
	DVデッキ	WV-D10000, GV-D300, DSR-30, WV-DR7
	メディア コンバーター(*1)	DVMC-DA1, DVMC-MS1, DVMC-DA2

メーカー	種類	DV機種名
SHARP	DVカメラ	VL-DC3(*2), VL-DC5, VL-PD1(*2), VL-PD3, VL-PD7, VL-FD1, VL-EF1(*2), VL-G1K, VL-MR1
Victor	DVカメラ	GR-DVL(*2), GR-DVL7, GR-DVY, GR-DVX7, GR-DVL700, GR-DVX9, GR-DVA10
Canon	DVカメラ	MV1, CV11, FV1, FV2, XL1, XV1, PV1, FV10, IXY DV

(*1) 『DVworks』のオプション画面で、[DV機器の状態を無視する]と[カメラデバイス]をチェックしてお使いください（152ページ参照）。

(*2) DV入力に対応していないため、パソコンからDVメディアへの録画はできません。

注意

DV機器によっては、本製品の機能に一部制限があります。

添付ソフトウエアの動作環境

サービス添付のソフトウェアを動作させるには、8ページの最低限必要なパソコン環境に加え、さらに以下の条件を満たす必要があります。（詳細については各ソフトウェアのマニュアル・ヘルプを参照するか、各メーカーへお問い合わせください。）

●Ulead MediaStudioPro 6.0 VE SP
　ハードディスク：70Mバイト以上の空き容量
●Ulead PhotoImpact 5 BE
　ハードディスク：180Mバイト以上の空き容量
●DVDit! LE **（Windows 2000、Windows Meには未対応です。）**
　CPU　　：PentiumⅡ 300MHz以上
　メモリ　　：128MB以上
　グラフィック　：1024×768×16bitハイカラー
　ハードディスク：80Mバイト以上の空き容量
　　（ビデオ・オーディオファイル用に9Gバイト以上の空き容量）
●PowerDVD 2000
　CPU　　：PentiumⅡ 266MHz以上（Windows 2000の場合はPentiumⅡ 400MHz以上）
　ハードディスク：20MB以上
●DigiOnSound Light
　ハードディスク：70MB以上
●mpEGG! DVDエンコーダ体験版
　CPU　　：PentiumⅢもしくはは AMD Athlonプロセッサ
　メモリ　　：256Mバイト以上

サービス添付品のお問い合わせ先

以下のソフトウェアは「サービス添付品」につき、弊社ではサポートしておりません。
製品内容などのお問い合わせ先は以下を参照してください。

※「mpEGG! DVDエンコーダ体験版」は体験版につきサポートはしておりません。

Ulead MediaStudio Pro 6.0 VE SP、Ulead PhotoImpact 5 BE、Ulead Cool3D 3 SEのお問い合わせ先

ユーリードシステムズ（株）ユーザーサポート係
住所：東京都世田谷区用賀4-5-16　TEビル
TEL：03-5491-5662　FAX：03-5491-5663
受付時間：月～金曜日（祝祭日を除く）　10:00～12:00、13:00～17:00
＊「Ulead製品お客様保管用カード」も合わせてご確認ください。

Sonic DVDit! LE　のお問い合わせ先

DVDit! サポートセンター
住所：〒105-0022東京都港区海岸2-6-30 浜松町エメラルドビル5F
　　ソニック・ソルーションズ東京事務所　DVDit!サポートセンター
TEL：　03-5232-5065
受付時間：月～金曜日（祝祭日を除く）　10:00～12:00、13:00～17:00

DigiOnSound Light　のお問い合わせ先

デジオン　サポートセンター
住所：福岡市早良区百道浜2丁目3番8号 RKB放送会館4F
TEL：092-833-6288　FAX：092-833-6278
E-Mail：support@digion.com
受付時間：月～金曜日（祝祭日を除く）　10:00～12:00、13:00～17:00
＊「DigionSound Lightユーザー登録のご案内」も合わせてご確認ください。

PowerDVD 2000 のお問い合わせ先

Cyber Link社　ユーザーサポート係

TEL：03-3662-8076　FAX：03-3662-8009

ホームページ：http://www.cli.co.jp/support/　E-Mail：support@cli.co.jp

受付時間：月～金曜日（祝祭日を除く）　10:00～13:00、14:00～17:00

＊「PowerDVD 2000 クイックガイド」も合わせてご確認ください。

ステップ1

使う前の準備

1 取り付け前の確認

本製品をパソコンに取り付ける前に、以下の確認および設定を行ってください。

IRQの空きの確認

本製品は割り込み(IRQ)を1つ使用します。割り込みの空きがないと本製品は使用できません。本製品を取り付ける前に、割り込みの空きを確認してください。

＜Windows 98/Windows Meの場合＞：下記

＜Windows 2000の場合＞：次ページ

注意

確認後、すべての割り込み(IRQ)番号が使用されている場合は、割り込みの空きがない状態です。使用していない機器等があれば取り外したり無効にし、割り込みの空きを作ってください。(詳細はパソコンメーカーにご確認ください。)

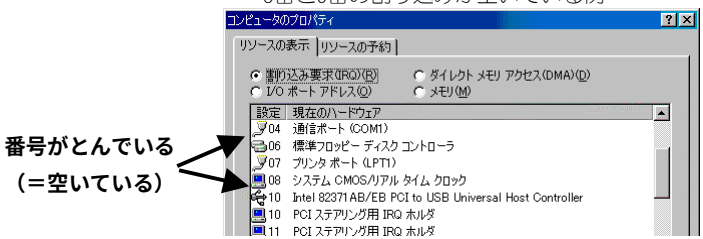
＜Windows 98/Windows Me編＞

①[マイコンピュータ]を右クリックして表示されるメニューから[プロパティ]を選び、[デバイスマネージャ]タブをクリックします。

②一番上の[コンピュータ]をダブルクリックします。

③[リソースの表示]タブをクリック後、[割り込み要求(IRQ)]をチェックします。表示されたIRQのうち、使用されていない（空いている）番号があれば、割り込みが空いていることになります。

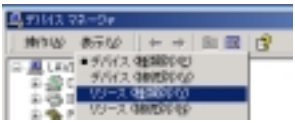
5番と9番の割り込みが空いている例



<Windows 2000編>

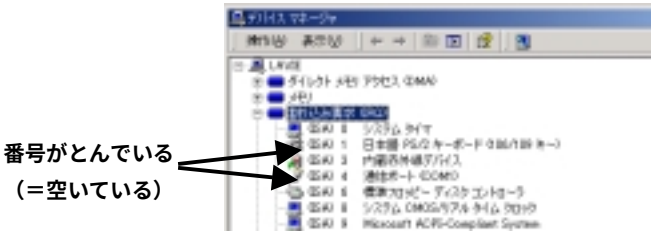
①[マイコンピュータ]を右クリックして表示されるメニューから[プロパティ]を選び、[ハードウェア]タブの[デバイスマネージャ]をクリックします。

②[表示]メニューの[リソース（種類別）]を選びます。



③[割り込み要求(IRQ)]をダブルクリックして表示されたIRQのうち、使用されていない（空いている）番号があれば、割り込みが空いていることになります。

2番と5番の割り込みが空いている例



DMAの確認

内蔵ハードディスクにキャプチャしたビデオ映像を保存する際、ハードディスクにDMAの設定がされていないとコマ落ちが発生する場合があります。以下の手順にて、DMAの設定がされているか確認し、設定されていない場合は設定してください。

＜Windows 98/Windows Meの場合＞：下記
＜Windows 2000の場合＞：18ページ

注意

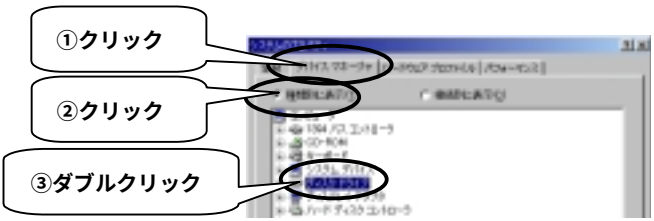
1.　SCSIハードディスクの場合は設定の必要はありません。
2.　パソコンの取扱説明書に以下のような記述がある場合は、DMAはチェックしないでください。
（その場合、コマ落ちが発生する可能性があります。）
- **「ハードディスクはPIOモードで転送する」**
- **「ハードディスクでDMA転送をしない」**

＜Windows 98/Windows Me編＞

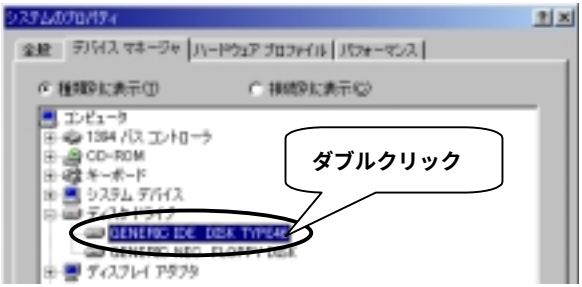
本書の画面はWIndows 98ですが、Windows Meも操作は同じです。

1　[マイコンピュータ]を右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。

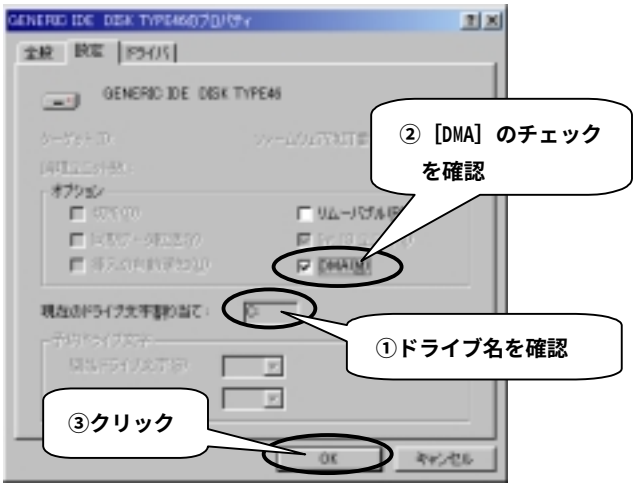
2　[デバイスマネージャ]タブをクリックし、[種類別に表示]を選び、[ディスクドライブ]をダブルクリックします。



3　**「GENERIC IDE DISK ・・・・」をダブルクリックします。**
複数の「GENERIC IDE DISK ・・・・」が表示されている場合は、上から順にダブルクリックしてください。



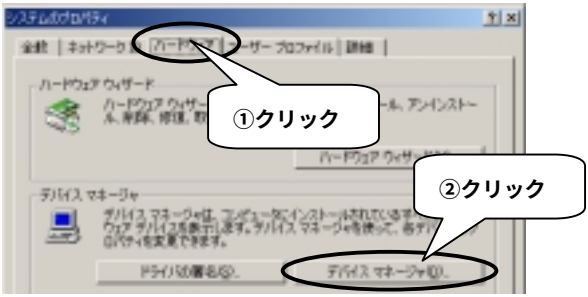
4　**[現在のドライブ文字割り当て]でファイルを保存するドライブ名であることを確認後、[オプション]の[DMA]のチェックが入っていることを確認します。チェックされていない場合はチェックし、［OK］をクリックします。**



<Windows 2000編>

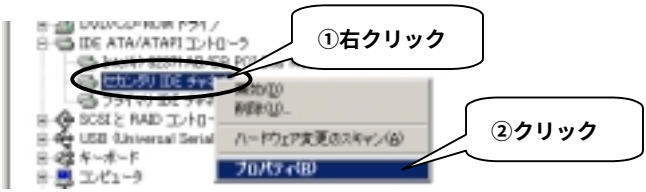
1　**[マイコンピュータ]を右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。**

2　**[ハードウェア]タブをクリックし、［デバイスマネージャ］をクリックします。**

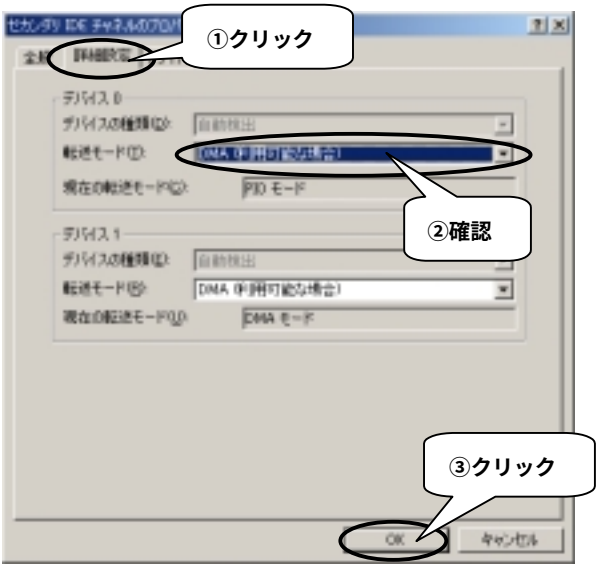


3　**[IDE ATA/ATAPI コントローラ]をダブルクリックします。**

4　**[セカンダリ IDE チャネル]を右クリックし、[プロパティ]をクリックします。**



5　**[詳細設定]タブをクリックし、[転送モード]が[DMA(利用可能な場合)]になっているか確認します。なっていない場合は選択し、[OK]をクリックします。**

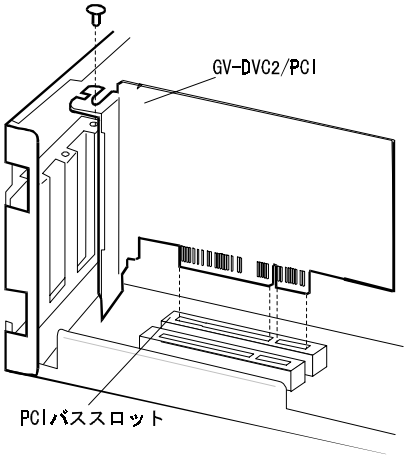


6　**再起動を促す画面が表示されたら、[はい]をクリックします。**

7　**もう１度、手順 *1* から行って、手順 *4* では[プライマリ IDE チャネル]を選択して、DMAの設定を確認してください。**

2 ボードを取り付ける

ここでは、本製品をパソコンのPCIバススロットへ取り付ける手順について説明します。

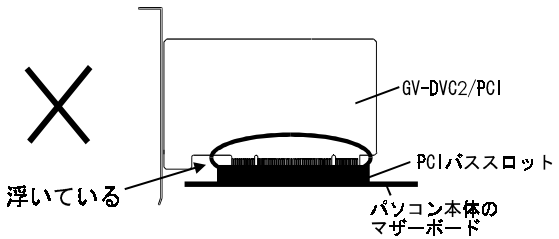


（パソコン内部）

注意

1. **ご使用のパソコンによっては、本製品の部品面を上に向けて差し込む場合や本製品を垂直に差し込む場合等があります。詳細はパソコン本体の取扱説明書をご覧ください。**
2. **ボードのメッキ部分がPCIバススロットからはみ出したり、斜めにならないように、まっすぐに差してください。**

PCIバススロットの奥まで挿入されていない例



《取り付け手順の詳細》

1　パソコンの電源スイッチを切り、電源ケーブルを取り外します。

2　パソコンのカバーを取り外します。

3　空いているPCIバススロットのスロットカバーを取り外します。

4　PCIバススロットに本製品を取り付けます。（前ページ図参照）

本製品がPCIバススロットに確実に装着されることを確認しながら押し込みます。

差し込みが若干固い場合には、スロットに向かって上から垂直に押すような形で力を入れ、取り付けてみてください。

5　スロットカバー用のネジを取り付けます。

本製品がPCIバススロットに確実に固定されるように取り付けます。

6　取り外した電源ケーブルを元に戻します。

3 ドライバをインストールする

ここでは、本製品を使用する上で必要となるドライバソフトのインストールおよびインストール後の確認について説明します。
ご使用のOSによって、必要なページを参照してください。

- Windows 98の場合：【Windows 98編】次ページ
- Windows Meの場合：【Windows Me編】31ページ
- Windows 2000の場合：【Windows 2000編】32ページ

注意

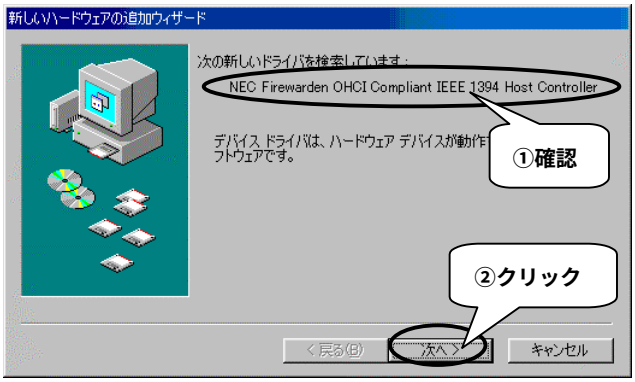
ここではまだDV機器は接続しないでください。本製品のみを取り付けた状態でインストールを行います。

Windows 98編

1　パソコン（Windows 98 Second Edition）を起動します。

2　以下の画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。

「NEC Firewarden OHCI Compliant IEEE 1394 Host Controller」と表示されていることを確認してください。

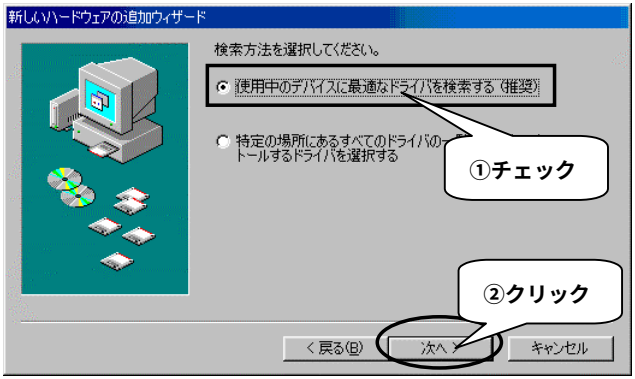


上記の画面が表示されない場合

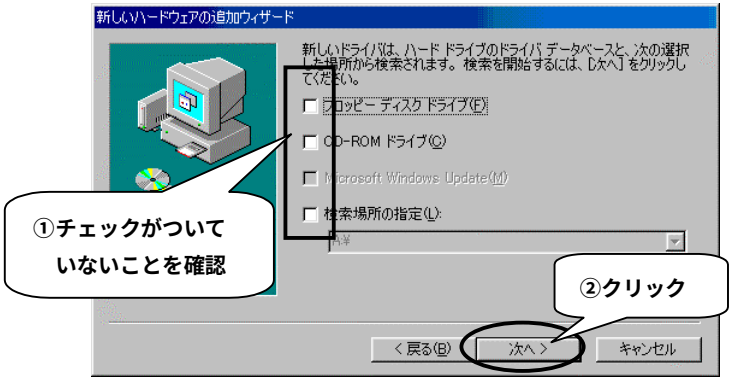
本製品のインストールが正常に終了すると次回から上の画面は表示されません。インストールが終了していない状態なのに、上の画面が表示されない場合は以下の原因が考えられます。Windowsを終了し、パソコンの電源を切ってから、次のことを確認してください。

・本製品がPCIバススロットに正しく取り付けられていない。
　→確実に取り付けられていることを再度ご確認ください。
　→取り付けるスロットを変更してみてください。

3　**[使用中のデバイスに最適なドライバを検索する(推奨)]を選択し、[次へ]をクリックします。**

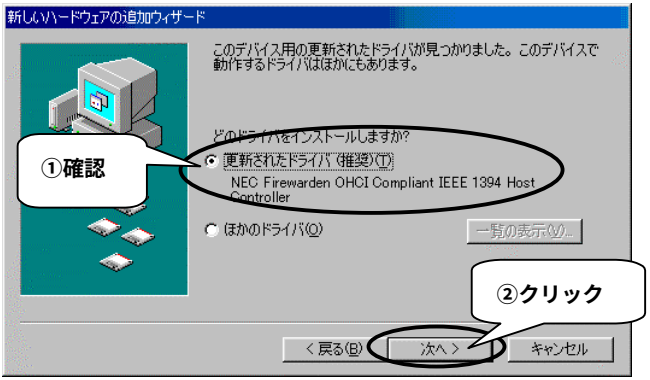


4　**選択肢のチェックをすべて外して、[次へ]をクリックします。**



5 [次へ]をクリックします。

［更新されたドライバ（推奨）］が選択されていることを確認してから［次へ］をクリックしてください。



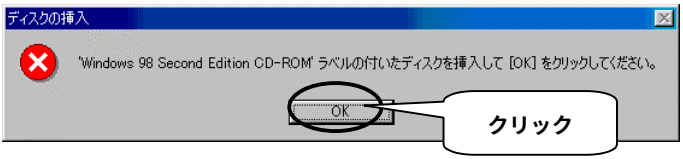
6 [次へ]をクリックします。

ファイルのコピーが始まります。

7　ディスクの挿入画面が表示される場合があります。

表示されない場合は、手順 **9** にお進みください。

表示された場合は、［OK］をクリックします。

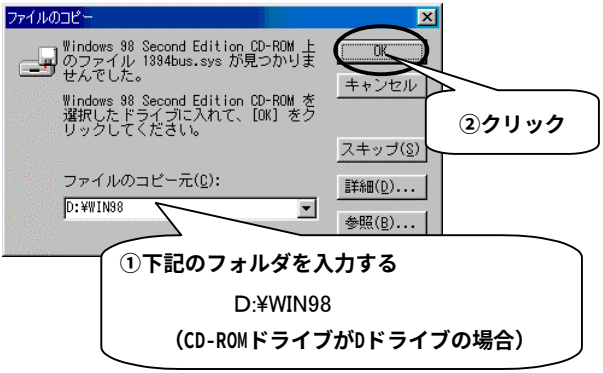


8　ファイルのコピー画面が表示されます。

＜お使いのパソコンがプレインストール版の場合＞

＜お使いのパソコンがプレインストール版でない場合＞

「Windows 98 Second Edition」CD-ROMをCD-ROMドライブに挿入し、WIN98フォルダを指定して、［OK］をクリックします。

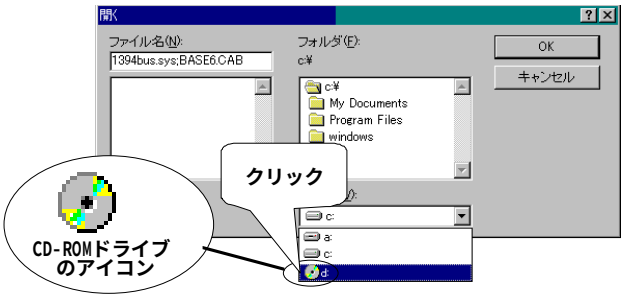


※［参照］をクリックして指定する方法は次ページを参照してください。

Windows 98 Second EditionのCD-ROMのフォルダの指定がわからない場合

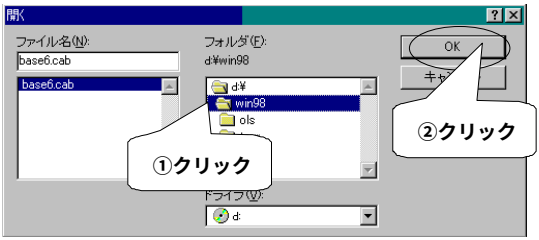
1.「ファイルのコピー」画面の 参照(B)... （参照）ボタンをクリックします。

2.［ﾄﾞﾗｲﾌﾞ］一覧からCD-ROMドライブのアイコンをクリックします。



3.「WIN98」、続けて［OK］をクリックします。

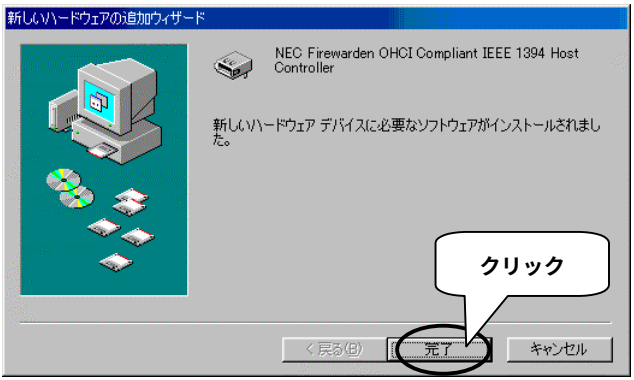
4. 再度「WIN98」、続けて［OK］をクリックすれば、CD-ROMドライブのWIN98 フォルダを指定した画面（手順 8 の画面）となります。



5. 手順 8 の画面で［OK］をクリックします。

同じような方法で、プレインストール版の場合も、フォルダ指定をすることができます。

9　**[完了]をクリックします。**

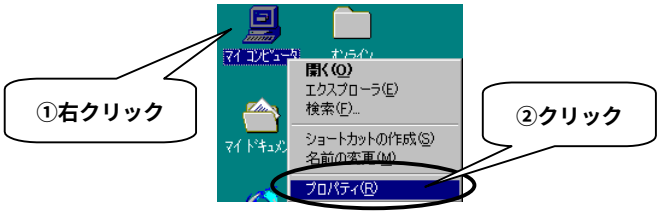


10　**手順8で「Windows 98 Second Edition」CD-ROMを使用した場合は、CD-ROMを取り出します。**

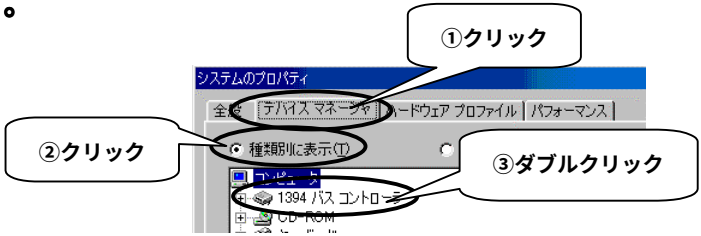
以上で、ドライバのインストールは終了です。
引き続き、インストールが正常に行われたかどうかを確認してください。

インストール後の確認

1　**[マイコンピュータ]を右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。**



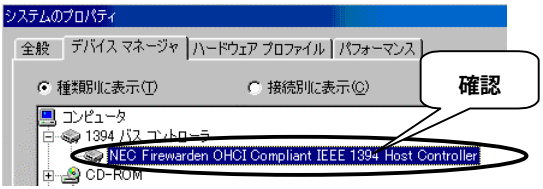
2　[デバイスマネージャ]タブをクリックし、[種類別に表示]を選び、[1394 バスコントローラ]をダブルクリックします。



「1394 バスコントローラ」の表示が無い場合

・パソコンの電源を切り、ボードの装着状態を確認してください。
・パソコンを再起動してみてください。

3　[NEC Firewarden OHCI Compliant IEEE 1394 Host Controller]が表示されていることを確認してください。



4　[NEC Firewarden OHCI Compliant IEEE 1394 Host Controller]の頭に「！」マークや「×」マークがないことも確認してください。

（「！」マークや「×」マークがある場合はインストールが正常に行われていません。次ページにお進みください。

インストールがうまくいかなかった！

「NEC Firewarden OHCI Compliant　・・・・・・・」の頭に「！」マークや「×」マークがある

【リソースの変更方法】(142ページ)を参照してください。

インストールが正常ならば

この後、『DVworks』をインストールします。
【『DVworks』をインストールする】(34ページ)へお進みください。

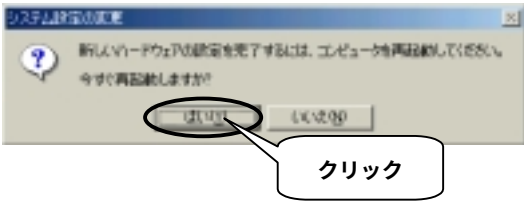
注意

本製品は、パソコンのスタンバイ機能には対応しておりません。本製品を取り付けた状態では、スタンバイ機能を使用しないでください。

Windows Me編

1　パソコン（Windows Me）を起動します。

2　自動的にドライバがインストールされ、下記の画面が表示されるので、[はい]をクリックします。



パソコンが再起動したら、インストール完了です。
正しくインストールされたかどうかの確認方法は、Windows 98と同じなので、28ページ【インストール後の確認】を参照し、必ず確認してください。

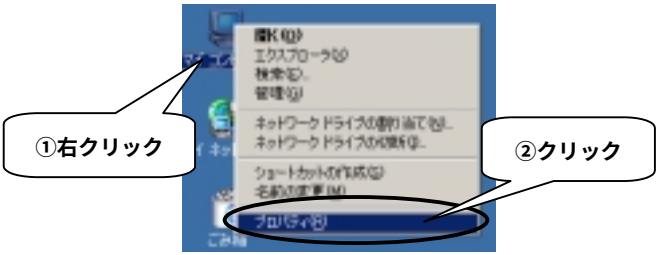
Windows 2000編

Windows 2000では本製品を取り付けた後、パソコンを起動すると、自動的に必要なドライバがインストールされます。ここでは、正しく認識されたかどうかの確認のみを行います。

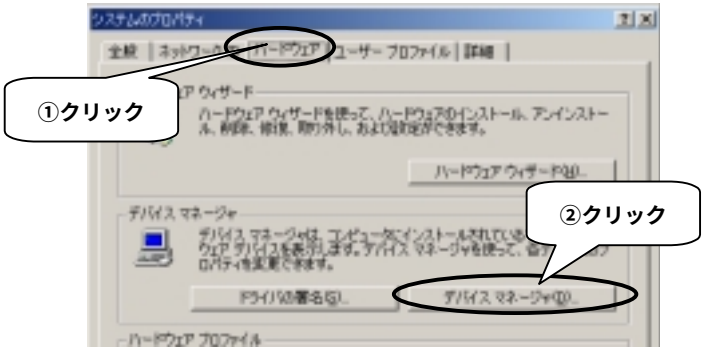
1　パソコン（Windows 2000）を起動します。

必要なドライバが自動的にインストールされます（インストール中の画面は何も表示されません）。

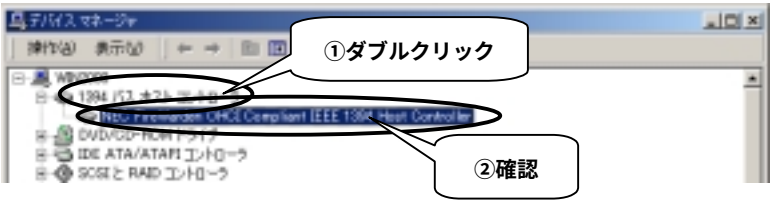
2　[マイコンピュータ]を右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。



3　[ハードウェア]タブをクリックし、[デバイスマネージャ]をクリックします。



4 [1394 バス ホスト コントローラ]をダブルクリックし、[NEC Firewarden OHCI Compliant IEEE 1394 Host Controller]が表示されていることを確認してください。



「1394 バス ホスト コントローラ」の表示が無い場合

・パソコンの電源を切り、ボードの装着状態を確認してください。
・パソコンを再起動してみてください。

5 [NEC Firewarden OHCI Compliant IEEE 1394 Host Controller]の頭に「！」マークや「×」マークがないことも確認してください。

「！」マークや「×」マークがある場合はインストールが正常に行われていません。

インストールがうまくいかなかった！

「NEC Firewarden OHCI Compliant ・・・・・・・」の頭に「！」マークや「×」マークがある

【リソースの変更方法】(142ページ)を参照してください。

インストールが正常ならば

この後、『DVworks』をインストールします。
【『DVworks』をインストールする】(34ページ)へお進みください。

4 『DVworks（デーブイ　ワークス）』をインストールする

本製品には、DV機器のテープなどのメディアの映像をディスプレイ上に再生したり、編集した映像を録画するためのソフトウェア『DVworks』が添付されています。
ここでは、『DVworks』のインストール方法について説明します。
（『DVworks』の使用方法については**「ステップ２」43**ページ以降で説明します。）
本書はWindows 98の画面で説明していますが、特に明記のない限り、どのOSでも、インストール方法は同じです。

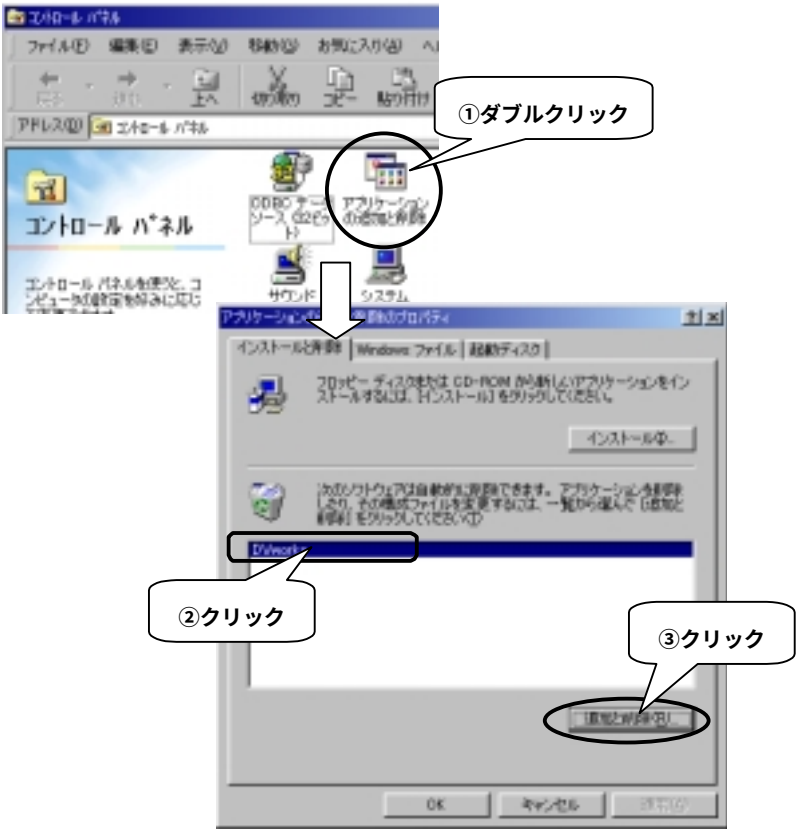
注意

1. **『DVworks』のインストール時には、DV機器は接続しないでください。接続している場合は、いったん取り外してください。本製品のみパソコンに取り付けておいてください（取り付けていないと『DVworks』をインストールできません）。**
2. **以前のバージョンの『DVworks』をお使いの場合は、アンインストールしてから、本製品添付のバージョンをインストールしてください。**
   （手順については次ページ参照）
3. **Windows 2000 をお使いの場合、必ず Administrator 権限でログインしてから『DVworks』をインストールしてください。**

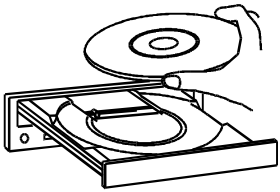
1 以前のバージョンの「DVworks」を削除（アンインストール）します。

（以前のバージョンの「DVworks」をインストールしていない場合は手順 2 へお進みください。）

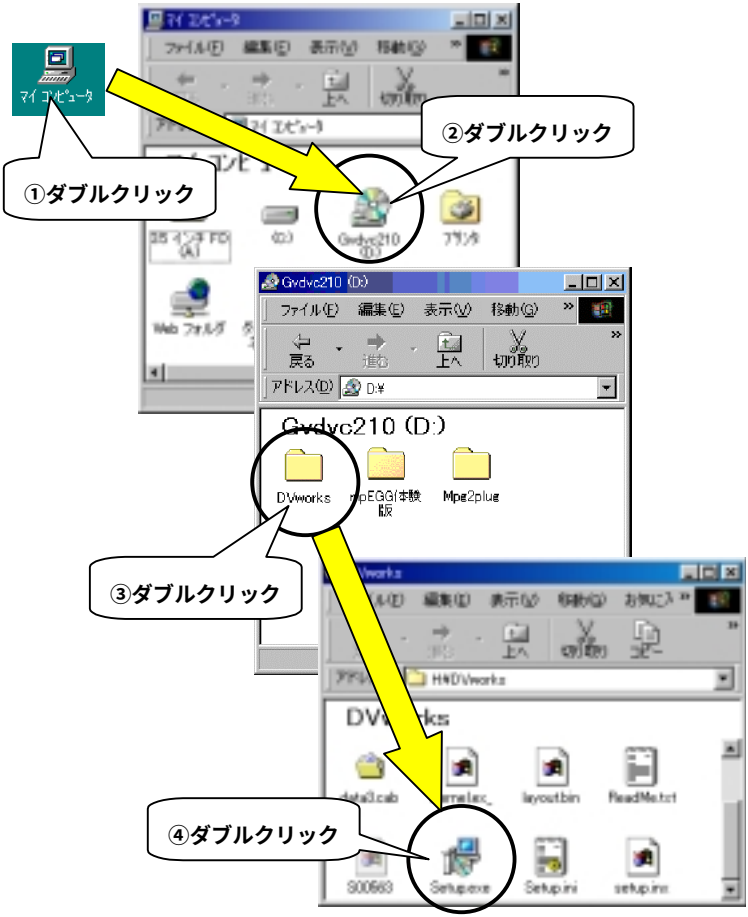
①[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順にクリックし、[アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。
②表示されている[DVworks]をクリックします。
③［追加と削除］をクリックします。
（Windows 2000の場合は[プログラムの変更と削除]をクリック）
後は画面の指示に従ってください。



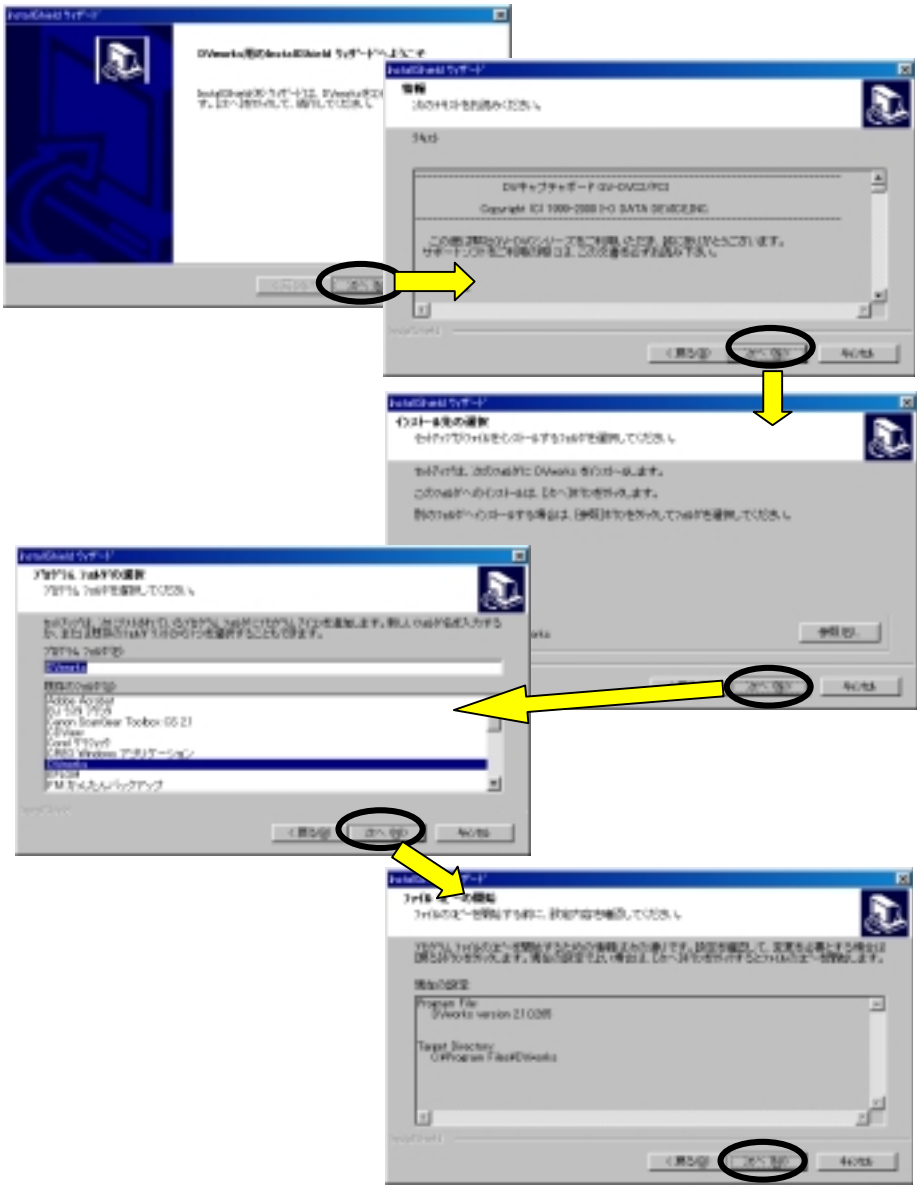
2 サポートソフトディスクをCD-ROMドライブにセットします。



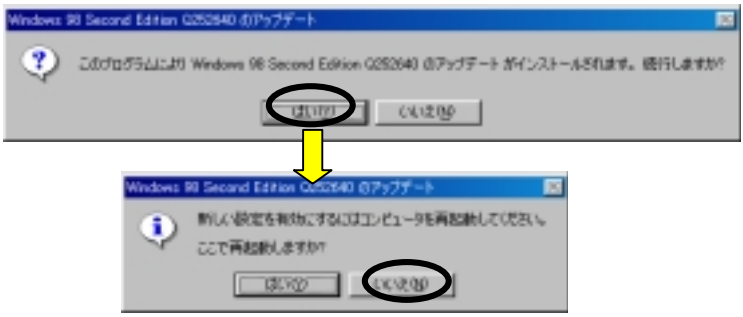
3 [マイコンピュータ]→[CD-ROMドライブ]→[DVworks]→[Setup.exe]を順にダブルクリックします。



4　画面の指示に従って操作を進めます。



5 Windows 98 Second Editionをお使いの場合は、下記の画面が表示されるので、[はい]をクリックします。再起動の画面では[いいえ]をクリックします。



6 セットアップの完了画面で［はい、直ちにｺﾝﾋﾟｭｰﾀを…］を選択し、［完了]をクリックします。

7 パソコンが再起動します。

以上で『DVworks』のインストールは終了です。
この後、【MediaStudio Proをインストールする】(次ページ)へお進みください。

5 『MediaStudio Pro』（メディアスタジオ プロ）をインストールする

本製品には、ビデオクリップ（動画ファイル、AVIファイルともいう）のカット編集や特殊効果、タイトル編集、BGM追加などを行って、楽しいビデオ作品を作るためのソフトウェア『MediaStudio Pro 6.0 VE SP』が添付されています。

ここでは、『MediaStudio Pro』のインストール方法について説明します。（『MediaStudio Pro』の使用方法については**「ステップ３」**83ページ以降で説明します。）

本書はWindows 98の画面で説明していますが、特に明記のない限り、どのOSででもインストール方法は同じです。

注意

1. **Windows 2000 をお使いの場合、『MediaStudio Pro』のインストールは、必ず Administrator 権限でログインしてから行ってください。**
2. **『MediaStudio Pro』はサービス品につき、弊社ではサポートいたしておりません。お問い合わせなどについては、下記を参照してください。**

MediaStudio Proのお問い合わせ先

ユーリードシステムズ株式会社　ユーザーサポート窓口

TEL　03-5491-5662　FAX 03-5491-5663

受付時間：月～金曜日 10：00～12:00　13:00～17:00

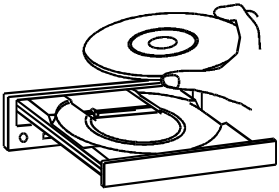
（特定休業日、祝祭日を除く）

サポートE-mail　support@ulead.co.jp

ホームページ　http://www.ulead.co.jp

住所　〒159-0097　東京都世田谷区用賀4-5-16　ＴＥビル

1　**『Ulead MediaStudio Pro 6.0』ディスクをCD-ROMドライブにセットします。**

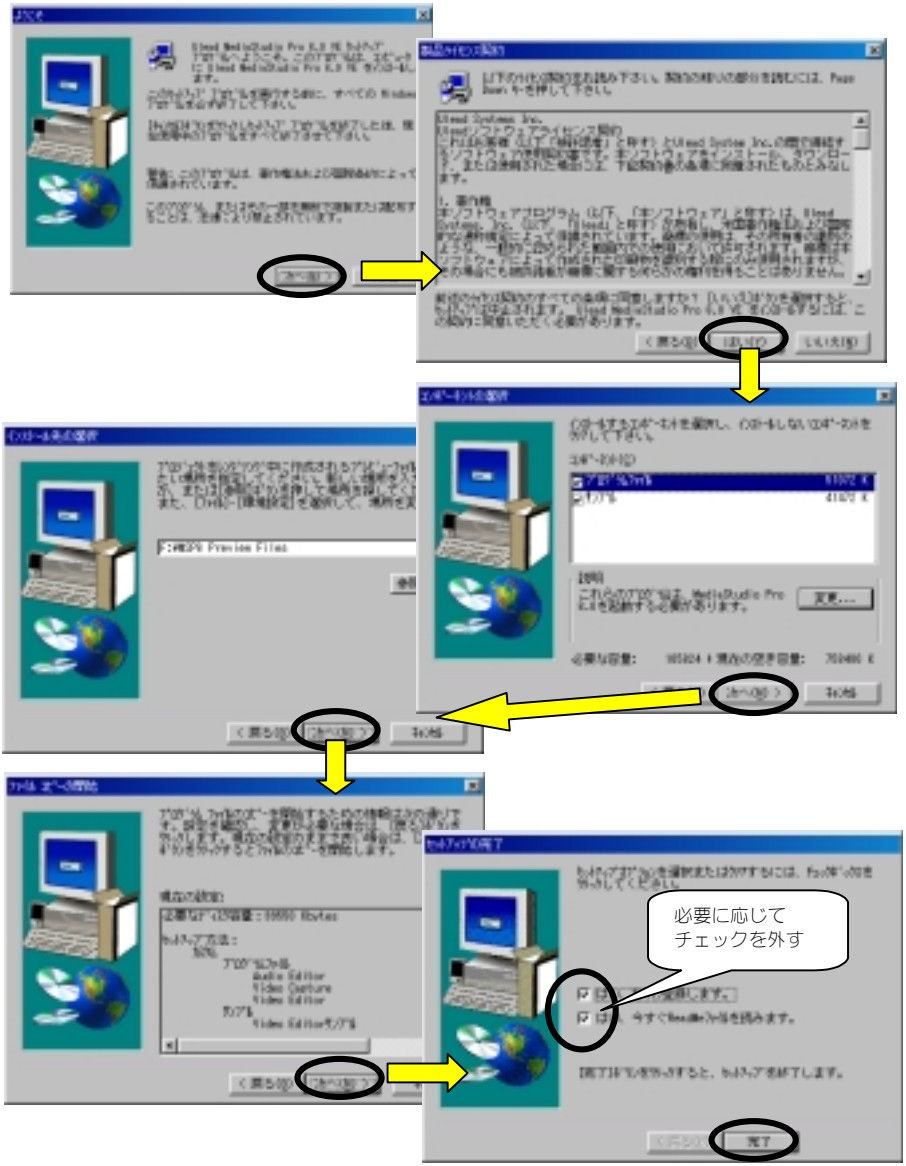


2　**しばらくして下記の画面が表示されたら、[MediaStudio Pro 6.0のインストール]をクリックします。**

この画面が表示されない場合は

［マイコンピュータ］を開き、CD-ROMドライブアイコンをダブルクリックします。表示された［SETUP］アイコンをダブルクリックしてください。

3　画面の指示に従って操作を進めます。



4　この後、ご使用の環境を自動的に判断して必要なソフトウェアのインストールを行います。
画面の指示に従って処理を進めてください。
インストール、その他の機能詳細についてはヘルプや添付のマニュアルを参照ください。

5　手順2の画面に戻ります。

- **Windows Me、Windows 2000をお使いの場合は、[終了]をクリックします。**
- **Windows 98 Second Editionをお使いの場合は、[ドライバのインストール]→[Windows 98 SE DV Update]をクリックし、画面の指示に従ってインストールします。**
  （最後に[Do you want to restart…]と表示されたら、[はい]をクリックしてパソコンを再起動してください）

これで、インストールは終わりです。
次は、パソコンにDV機器を接続して動画をパソコンへ取り込んでみましょう。
【ステップ2】43ページへ進んでください。

ステップ2

映像をキャプチャしよう

1 DV機器を接続しよう

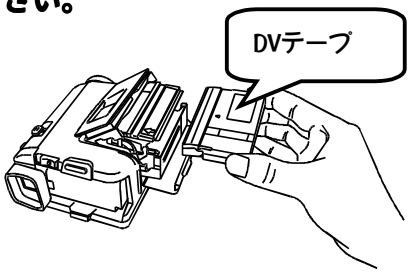
DV機器を接続する

本製品にDV機器を接続します。

1 **お使いのDV機器の電源を入れ、DV機器を「ビデオ（再生）モード」に設定してください。**

DV機器の操作については、各DV機器の取扱説明書を参照してください。

2 **DV機器に録画済みのDVテープなどのメディアを挿入してください。**



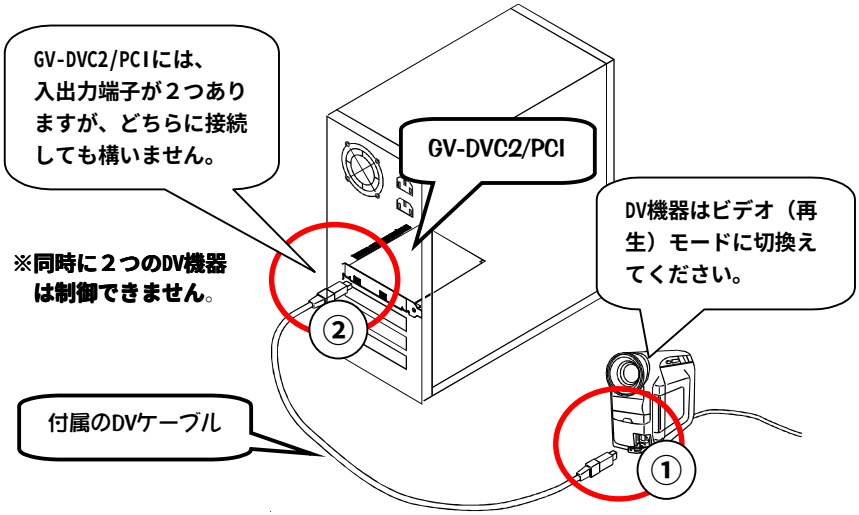
3 **DV機器と本製品を付属のケーブルで接続します。**

（接続図は次ページを参照してください。）

① DV機器にあるDV(i.LINK)端子に付属の「DVケーブル」を接続します。

DV機器側のDV端子の位置については、各DV機器の取扱説明書を参照してください。

② DVケーブルのもう一方をGV-DVC2/PCIに接続します。



4　接続すると、パソコンがDV機器を自動認識します。

- **Windows Me、Windows 2000をお使いの場合**
  自動的にドライバをインストールします。
- **Windows 98 Second Editionをお使いの場合**
  Windows 98 Second EditionのCD-ROMディスクが要求されます。26ページの手順 *7*、*8* を参照して処理を進めてください。

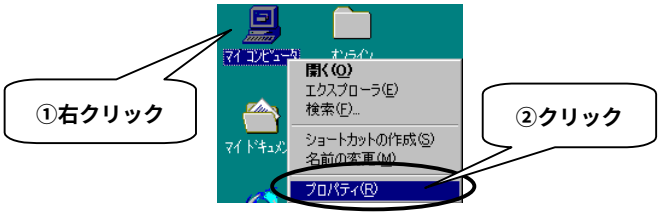
次は、接続したDV機器が正しく認識されたかどうかを確認します。
ご使用のOSによって、必要なページをお読みください。

- **Windows 98 Second Editionの場合：次ページ**
- **Windows Meの場合：48ページ**
- **Windows 2000の場合：50ページ**

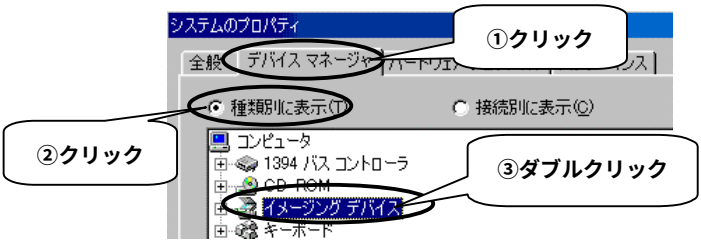
確認しよう（Windows 98編 ）

DV機器が正常に接続されたかを確認します。

1　[マイコンピュータ]を右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。



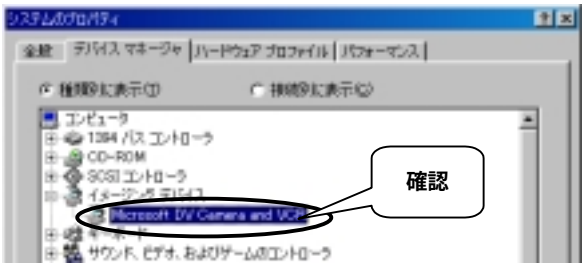
2　[デバイスマネージャ]タブをクリックし、[種類別に表示]を選択します。
[イメージングデバイス]をダブルクリックします。



「イメージングデバイス」の表示が無い場合

・ケーブルを一度抜き差ししてみてください。
・ケーブルがしっかり差し込まれていることを確認してください。
・DV機器の電源が入っているか確認してください。
・パソコンの電源を切り、本製品を別のPCIスロットに挿入し直してみてください。

3　[Microsoft DV Camera and VCR]が表示されていれば正常に接続されています。



「Digital VCR」と表示されている場合は

イメージングデバイスが誤認識されています。

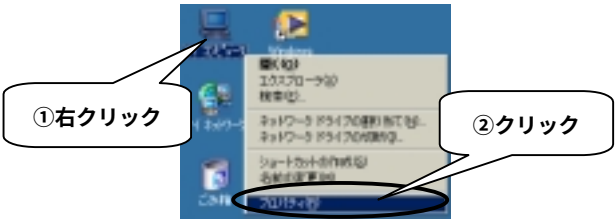
34ページ【『DVworks』をインストールする】をもう１度実行して、DVworksを再インストールしてください。

以上で、接続の確認は終了です。
次に「DV機器をパソコン上から操作してみよう」52ページへ進んでください。『DVworks』でDV機器を操作してみましょう。

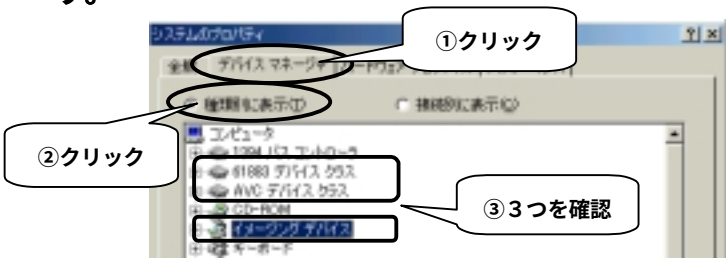
確認しよう（Windows Me編）

DV機器が正常に接続されたかを確認します。

1　[マイコンピュータ]を右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。



2　[デバイスマネージャ]タブをクリックし、[種類別に表示]を選択します。
[61883デバイスクラス]、[AVCデバイスクラス]、[イメージングデバイス]の３つが表示されていることを確認します。

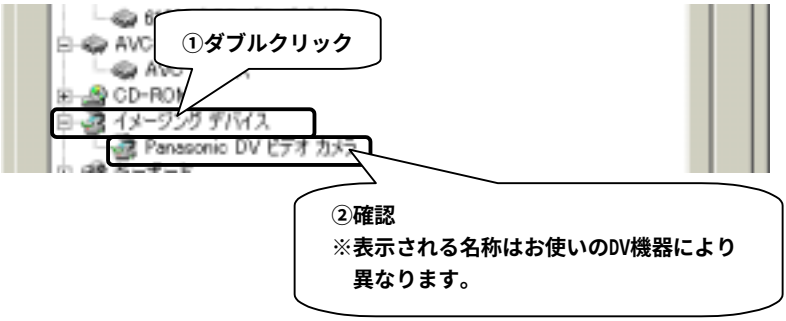


３つのデバイスが表示されない場合

・ケーブルを一度抜き差ししてみてください。
・ケーブルがしっかり差し込まれていることを確認してください。
・DV機器の電源が入っているか確認してください。
・パソコンの電源を切り、本製品を別のPCIスロットに挿入してください。

3　[イメージングデバイス]をダブルクリックして、お使いのDV機器が表示されていれば正常に接続されています。

表示される名称はお使いのDV機器により異なります。

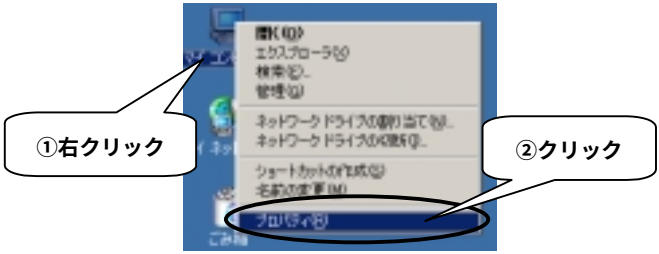


以上で、接続の確認は終了です。
次に「DV機器をパソコン上から操作してみよう」52ページへ進んでください。『DVworks』でDV機器を操作してみましょう。

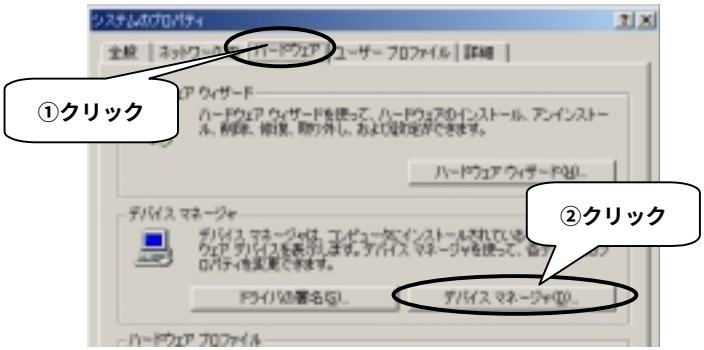
確認しよう（Windows 2000編）

DV機器が正常に接続されたかを確認します。

1　[マイコンピュータ]を右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。



2　[ハードウェア]タブをクリックし、[デバイスマネージャ]をクリックします。



3　[イメージングデバイス]をダブルクリックして、[Microsoft DV Camera and VCR]が表示されていれば、正常に接続されています。

「イメージングデバイス」の表示が無い場合

・ケーブルを一度抜き差ししてみてください。
・ケーブルがしっかり差し込まれていることを確認してください。
・DV機器の電源が入っているか確認してください。
・パソコンの電源を切り、本製品を別のPCIスロットに挿入し直してみてください。

「Digital VCR」と表示されている場合は

イメージングデバイスが誤認識されています。
[Digital VCR]を選択後、[削除]をクリックします。その後で、ケーブルを抜き差しして、DV機器を再認識させてください。

以上で、接続の確認は終了です。
「DV機器をパソコン上から操作してみよう」次ページへ進んでください。『DVworks』でDV機器を操作してみましょう。

2 DV機器をパソコン上から操作してみよう

それでは、DV機器をパソコン上から操作してみましょう。
パソコン上からの操作は、**【ステップ1】**でインストールした『DVworks』で行います。まだインストールしていない場合は34ページ【『DVworks』をインストールする】を参照してください。

注意

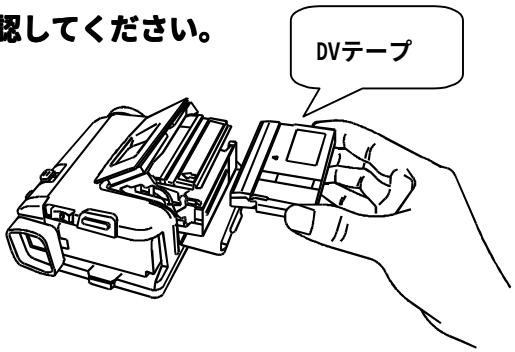
1. **テープの再生などの操作中は、ケーブルの抜き差しを行わないでください。**
2. **DVworks を使用する際は、ディスプレイの省電力設定・スクリーンセーバー、OS の省電力設定を使用しないでください。（設定についてはパソコンメーカーにご確認ください。）**

DV機器を準備する

1 **DV機器の電源が入っていることを確認してください。**

※DV機器がビデオ(再生)モードになっていることも確認してください。

2 **DV機器に録画済みのDVテープなどのメディアが入っていることを確認してください。**

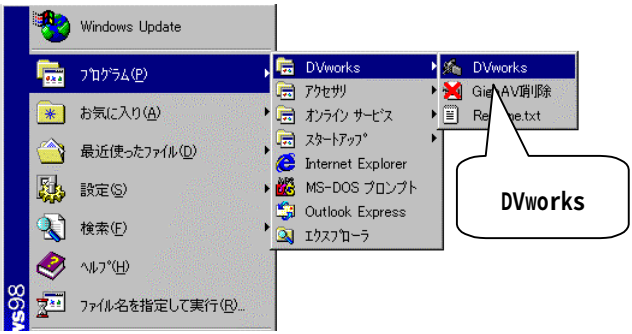


『DVworks』を起動する

インストールした『DVworks』を起動してみましょう。

本書ではWindows 98の画面で説明しますが、特に明記のない限り、どのOSでも操作は同じです。

1　[スタート]→[プログラム]→[DVworks]→[DVworks]を順にクリックします。



2　以下の画面が表示されます。「機器名称」を入力後、［OK］をクリックします。

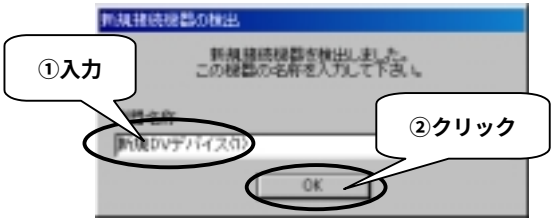
はじめてDVworksがDV機器を認識した場合、以下の画面が表示されます。

DVworksに登録するDV機器の名称（任意）を入力してください。

以後、登録した名前でDVworksはそのDV機器をコントロールします。

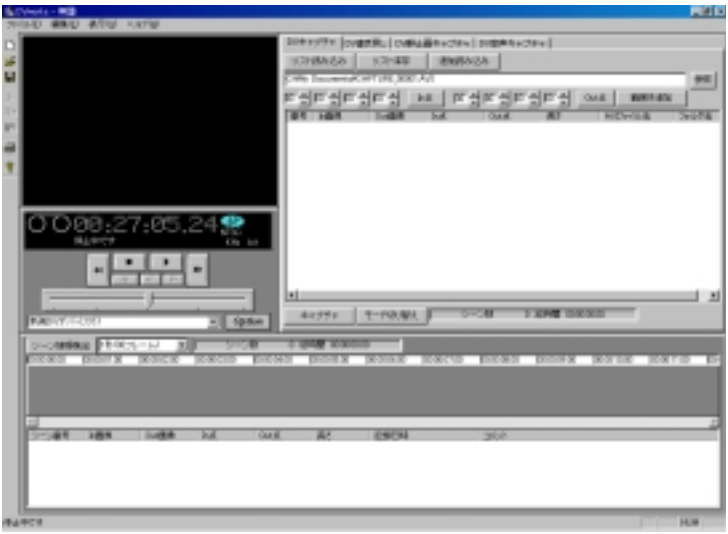
一度登録すると、次回からは表示されません。

また、別のDV機器を接続した場合も以下の画面が表示されます。



3　以下の画面が表示されます。

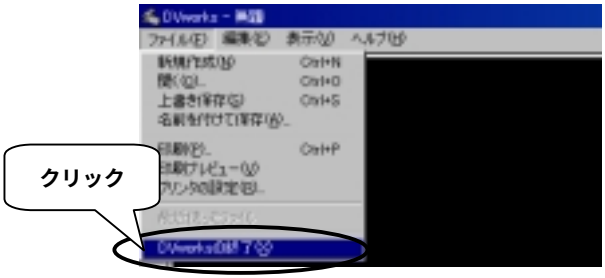
ウィンドウは、起動時にディスプレイー杯に表示されます。
（以下の画面は、画面解像度1024x768時のレイアウトです。）



参考

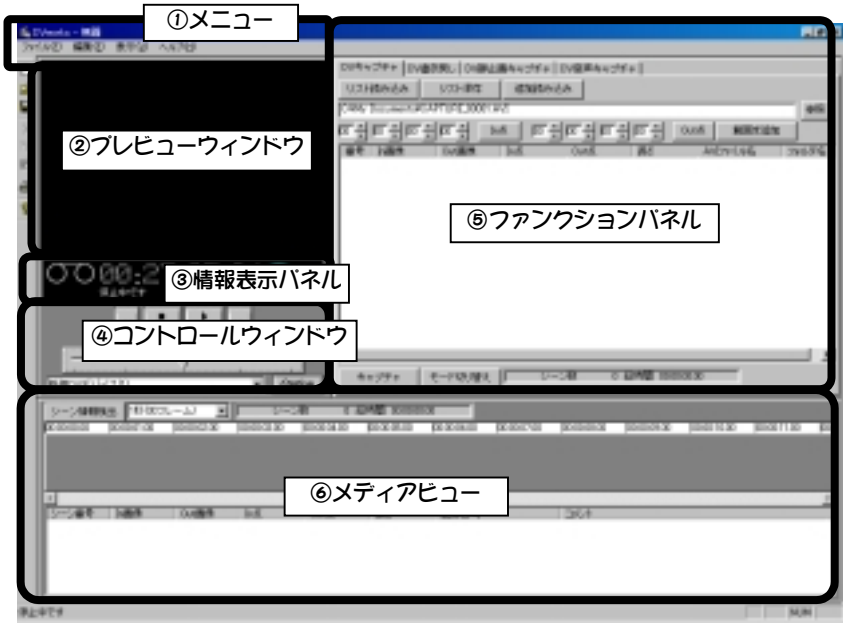
DVworksは起動時にウィンドウを最大化表示します。ウィンドウは、DVworks起動時のディスプレイ解像度とユーザーの指定したプレビューウィンドウサイズに応じて変化します（プレビューウィンドウサイズの指定方法は146ページ参照）。

4　[ファイル]メニューの[DVworksの終了]を選ぶと、DVworksが終了します。



『DVworks』の画面構成

『DVworks』の画面は、以下の６つの部分から構成されています。



No	項目	説明	詳細
①	メニュー	メニューを表示します。プレビューウィンドウの横のツールバーにはよく使うアイコンが並んでいます。	173
②	プレビューウィンドウ	DV機器からの映像や書き戻し時の映像など、プレビュー表示が行われるウィンドウです。	146
③	情報表示パネル	DV機器・メディアに関する情報を表示するパネルです。	149
④	コントロールウィンドウ	DV機器をコントロールするためのボタンが配置されているウィンドウです。ウィンドウサイズは一定の大きさに固定されています。	150
⑤	ファンクションパネル	DVworksの映像・静止画・音声キャプチャ、DVメディアへの書き戻し機能に関する操作を行うためのパネルです。	155
⑥	メディアビュー	DVメディアの内容をシーン毎に情報表示させる領域です。 ※シーンとは、撮影時に録画ボタンのONからOFFにするまで記録される映像のことです。	169

『DVworks』でDV機器の接続を確認する

『DVworks』がDV機器を正常に認識しているか、「③情報表示パネル」で確認しましょう。（表示についての詳細は【情報表示パネル】149ページ参照）

正常に認識されている場合の表示例

エラー表示例

「DV機器を検索中です」と表示されたままとなっている場合

対処

・DV機器の電源が入っているか、ビデオ(再生)モードになっているか確認し、ケーブルを一度抜き差ししてみてください。

「メディアが挿入されていません」と表示されている場合

対処

DVメディアが入っていることを確認してください。

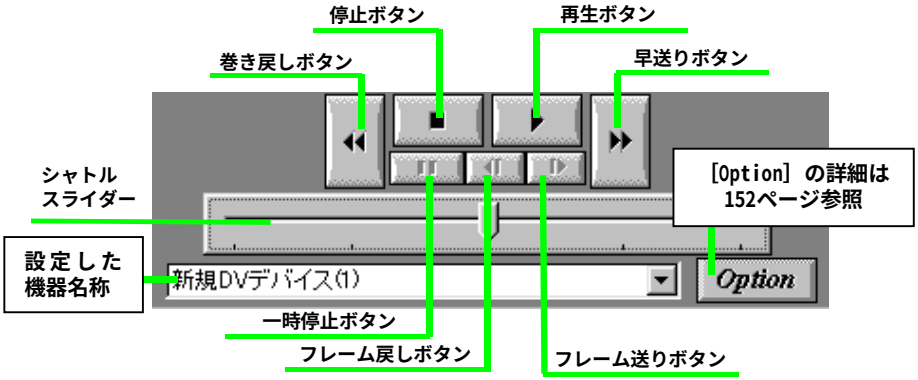
『DVworks』でDV機器を操作する

（再生・停止・早送り・巻き戻し・一時停止・フレーム送り・フレーム戻し・シャトルスライダー）

ここでは、[コントロールウィンドウ]の基本的な操作を行います。

注意

1. **お使いのDV機器により、コントロールできる機能に一部制限があります。**
2. **DVworks 2.1では、［逆再生］ボタンはありません。**
3. **ドロップフレーム表示の場合は、フレーム番号が一部抜ける場合があります。**



再生（ ボタン）

をクリックすると、DV機器側で再生が始まり、しばらくすると[プレビューウィンドウ]に映像が表示されます。

停止（ ボタン）・一時停止（ ボタン）

をクリックすると、再生・早送り・巻き戻し・フレーム送り・フレーム戻しを終了します。

をクリックすると、再生・早送り・巻き戻しを一時停止します。

早送り（ ボタン）・巻き戻し（ ボタン）

をクリックすると、DVメディアの早送りを行います。
をクリックすると、DVメディアの巻き戻しを行います。
再生状態でクリックすると、早送り再生・巻き戻し再生を行います。
一時停止状態でクリックすると、スロー再生・スロー逆再生を行います。

フレーム送り（ ボタン）・フレーム戻し（ ボタ

または をクリックすると再生が一時停止します。
連続してフレーム操作（ ）をクリックすると、映像がフレーム単位（１コマ単位）でコマ送り・コマ戻しを行います。

シャトルスライダー

<シャトル機能>

再生中にスライダーのつまみをドラッグして移動させると、再生速度が変わります。スライダー中央からつまみを右へ動かすほど、DVメディア順方向への速度が速くなり、左へ動かすほどDVメディア逆方向への速度が速くなります。

<ジョグ機能>

ホイールマウスを使用している場合には、ホイールを前に回すと１フレーム戻し、後ろに回すと１フレーム送りを行います。
（ジョグ機能の使い方は、次ページを参照してください。）

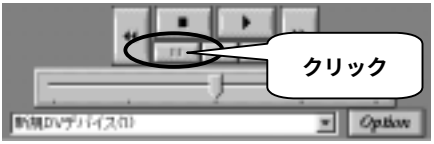
注意

ホイールマウスは、Microsoft製インテリマウスを推奨します。

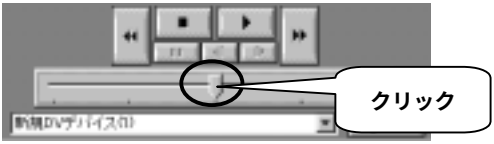
ジョグ機能の使い方

ホイールマウスを利用すれば、ホイールを転がすことで、フレーム送り・フレーム戻しの操作を行うことができます。

1　**（一時停止）をクリックし、映像を一時停止します。**

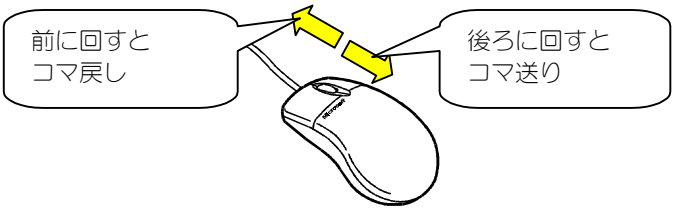


2　**シャトルスライダーのつまみをクリックします。**



3　**マウスのホイールを使ってコマ送り、コマ戻しができます。**

ホイールを前に回すと１フレーム、映像のコマ戻しを行います。
ホイールを後ろに回すと１フレーム、映像のコマ送りを行います。



3 ビデオ映像を キャプチャしよう

ここでは、DV機器にセットされているDVメディアの映像や音声を、パソコン上に取り込んで、ハードディスクに保存してみましょう。この作業を「キャプチャ」といい、『DVworks』では、次のキャプチャ方法があります。

■映像と音声をキャプチャしたいとき

・ キャプチャ後のファイル形式：AVIファイル、または、GigaAVIファイル
（GigaAVIファイルについては次ページの参考をご覧ください。）

方法	特徴	参照
シーン検出して一括キャプチャ	『DVworks』がシーン（撮影時に録画ボタンをON/OFFした間の映像）を自動的に検出します。キャプチャしたいシーンをすべて選んでおき、一括してキャプチャできます。こまめに録画ボタンをON/OFFして撮影した場合におすすめですが、録画ボタンを押したまま長時間撮影した映像には不向きです。	62
タイムコードを指定して一括キャプチャ	キャプチャしたい映像の開始・終了のタイムコードを指定します。キャプチャしたい映像のタイムコードをすべて指定しておき、一括してキャプチャできます。キャプチャしたい範囲の大まかな時間がわかっている場合や、正確な位置でキャプチャしたい場合におすすめです。	71
映像を見ながら随時キャプチャ	映像を再生しながら好きな箇所をキャプチャします。複数箇所の一括キャプチャはできません。録画内容があいまいで確認しながらキャプチャしたい場合やテープの一部分だけをキャプチャしたい場合におすすめです。	75

参考：キャプチャ後のAVIファイルサイズについて

AVIファイルは指定したシーンやキャプチャボタンを押した単位で作成されます。１分間の映像キャプチャには約220Mバイトが必要です。通常のAVIファイルの最大値である2Gの容量がある場合は、約9分30秒のキャプチャを行うことができます。
これ以上のキャプチャを行う場合は、GigaAVIファイルを作成する必要があります（GigaAVIファイルについては、【付録４　2G以上のAVIファイルを扱うには】177ページを参照）

■音声だけをキャプチャしたいとき

- キャプチャ後のファイル形式：WAVファイル
- ビデオ映像に録音されている音声だけをキャプチャします。キャプチャした音声ファイルは、ビデオ編集時に、ナレーションや効果音として別の映像と組み合わせることもできます。
- 参照：78ページ

■静止画としてキャプチャしたいとき

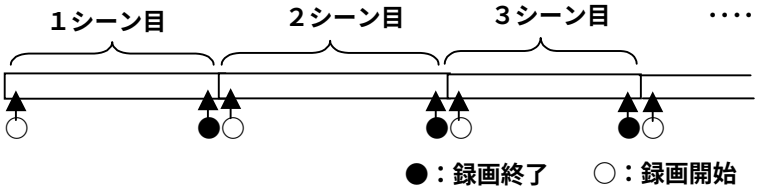
- キャプチャ後のファイル形式：BMPファイル
- ビデオ映像の１フレームを静止画としてキャプチャします。キャプチャした静止画ファイルは、壁紙に使ったり、ペイントなどのソフトウェアで加工することもできます。
- 参照：81ページ

シーン検出でキャプチャする

「DVメディアにどんな内容が録画されているか」をシーンの検出を行うことによって確認することができます。
また、その検出したシーンから、キャプチャしたいシーンだけを選択して、AVIファイルにすることもできます。

参考：シーンについて

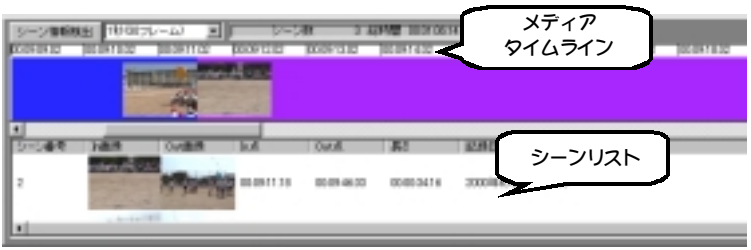
シーンとは、撮影時に録画ボタンをONからOFFにするまでに記録される映像を指します。



注意

1. **シーン情報検出は、DVメディアを再生しながら行うので、録画時間と同じ時間がかかります。**
2. **シーン検出中はプレビューウィンドウに表示される映像が荒くなります。**

以下はシーンを検出した例です。
シーンリストには各シーンの先頭と終了のサムネイル画像（映像の１フレームを縮小表示したもの）、時間などの情報が表示されます。タイムラインにはシーンを検出した位置に、サムネイル画像が表示されます。



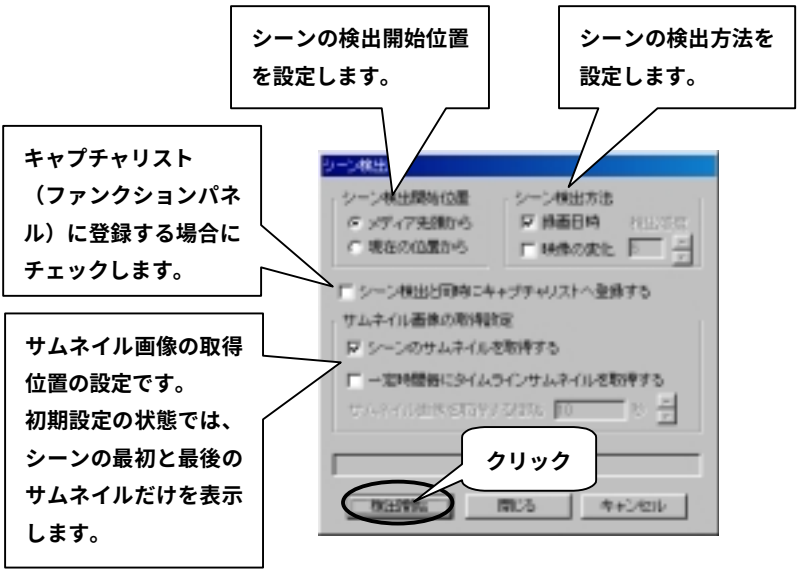
シーン情報を検出する

1 **DV機器を停止状態（テープを再生していた場合は停止する）にします。**

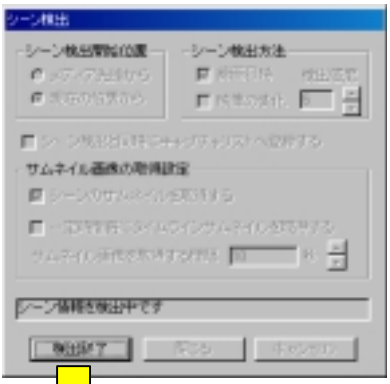
2 **［メディアビュー］の［シーン情報検出］をクリックします。**

3 **シーン検出画面が表示されます。**
設定後、［検出開始］をクリックします。

設定内容の詳細は171ページを参照してください。



4 シーン検出を開始します。



シーン検出中は、プレビュー表示が粗くなりますが、動作に問題はありません。

5 DVメディアのすべてのシーンを検出するか、[検出終了]をクリックすると、シーン検出を終了します。

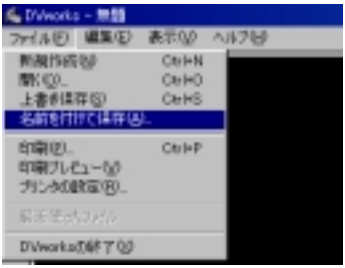
１度検出したシーン情報は、保存しておくことができます。保存しておくと、同じDVメディアから必要なシーンをキャプチャしたいとき、もう１度、シーン検出する時間を節約することができます。次ページの参考をご覧ください。

参考

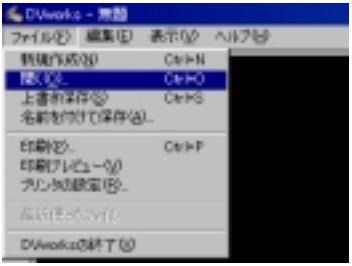
＜シーン情報をファイルにする＞

検出したシーン情報やファンクションパネルに登録したデータすべてをファイル（プロジェクトファイル）にして保存することができます。
プロジェクトファイルを保存しておくと、「シーン検出」を行わなくても、ファイルを開くだけで保存した時の状態のデータを表示させることができます。

・ファイルの保存方法
「ファイル」メニューの「名前を付けて保存」をクリックして保存場所・保存ファイル名を設定できます。
ファイルは、拡張子DVWとして保存されます。



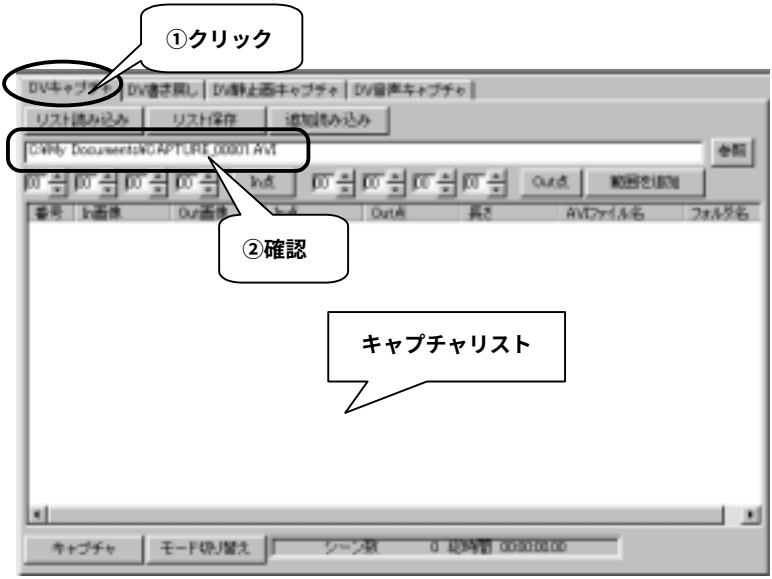
・ファイルの開き方
「ファイル」メニューの「開く」をクリックして、保存しているプロジェクトファイル（拡張子DVW）を指定してください。



キャプチャしたいシーンを選択する

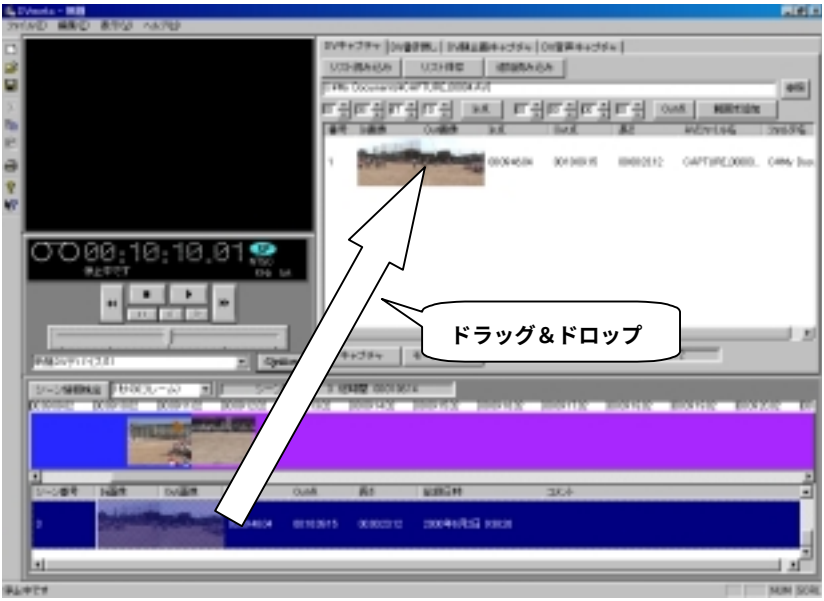
検出したシーンから、キャプチャしたいシーンだけを選択することができます。選択したシーンはファンクションパネルのキャプチャリストに表示されます。この時点ではまだ映像はキャプチャされません。キャプチャ候補のリストを作る段階です。

1 [ファンクションパネル]の[DVキャプチャ]タブをクリックし、表示されているファイル名を確認します。



表示されているファイル名がキャプチャ後のAVIファイル名になります。ファイルの格納フォルダを変更したいときは[参照]をクリックして選択してください。ファイル名を変更したいときは任意のファイル名を入力してください（拡張子は.AVI固定）。

2 シーンリストからキャプチャしたいシーンを選び、キャプチャリストへドラッグ＆ドロップします。



注意

手順 *1* で指定したドライブに十分な空き容量がない場合は、予想ファイルサイズに応じて、空きのあるドライブが自動的に指定されます。キャプチャリストのフォルダ名欄を確認してください。

キャプチャ項目の詳細を確認する

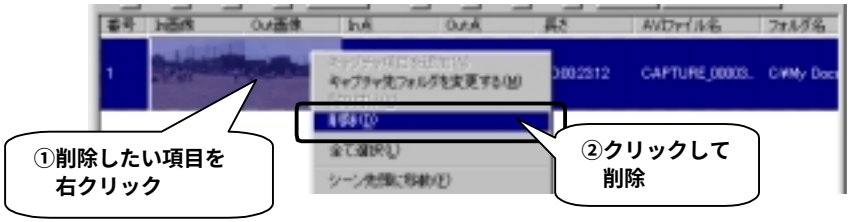
キャプチャリスト項目の予想ファイルサイズを確認したり、キャプチャ開始・終了点、格納フォルダやファイル名の変更ができます。確認したいキャプチャ項目をダブルクリックしてください。

注意

キャプチャ項目のIN点・OUT点のいずれかを変更した場合は、その項目のサムネイルは消去されます。

キャプチャ項目を削除する

キャプチャリスト上の項目を削除したい場合は、キャプチャ項目を右クリックして[削除]を選んでください。

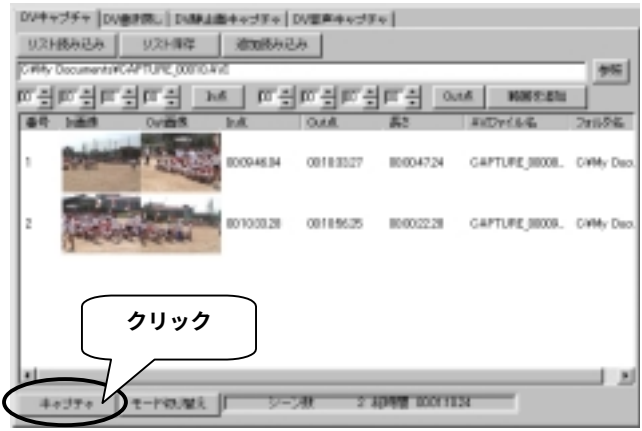


キャプチャ項目を一括キャプチャする

キャプチャしたい項目が選択できたら、実際のキャプチャを行います。

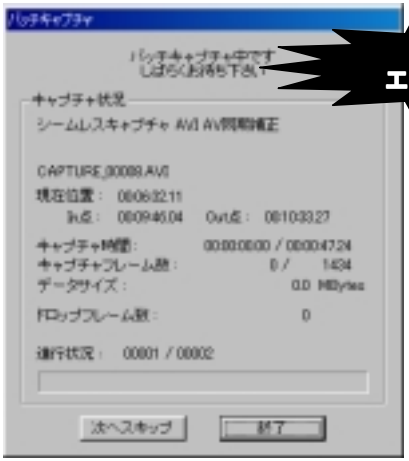
1 [キャプチャ]をクリックします。

キャプチャリストの先頭項目のIn点をDVメディアから検索し、キャプチャを開始します。



2 キャプチャ中、以下の画面が表示されます。

キャプチャ中のシーンをスキップしたい場合は、[次へスキップ]をクリックします。



キャプチャ中にエラーが表示された場合

【正常に動作しない場合】
136ページ参照

3 キャプチャ中の[情報表示パネル]の[…KHz]を確認します。

このKHz表示はお使いのDVメディアによって異なります。この情報は、後で映像を編集するために『MediaStudio Pro』を起動するときに必要になります（85ページ参照）。

4 手順2の画面が消えたら、キャプチャ終了です。

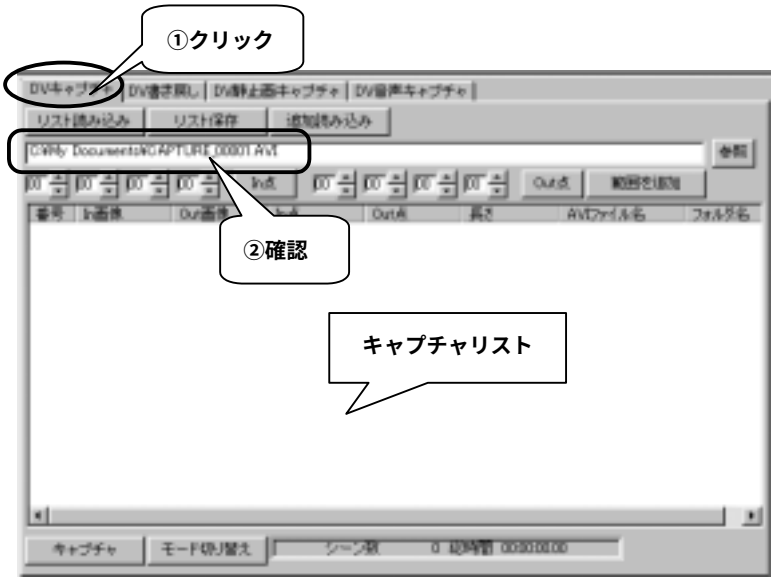
途中で終了したいときは[終了]をクリックします。

タイムコードでキャプチャする

キャプチャしたい映像の開始点、終了点のタイムコードを指定して、一括してキャプチャすることができます。

1 **DV機器を停止状態（テープを再生していた場合は停止する）にします。**

2 **[ファンクションパネル]の[DVキャプチャ]タブをクリックし、**
表示されているファイル名を確認します。



表示されているファイル名がキャプチャ後のAVIファイル名になります。ファイルの格納フォルダを変更したいときは[参照]をクリックして選択してください。ファイル名を変更したいときは任意のファイル名を入力してください（拡張子は.AVI固定）。

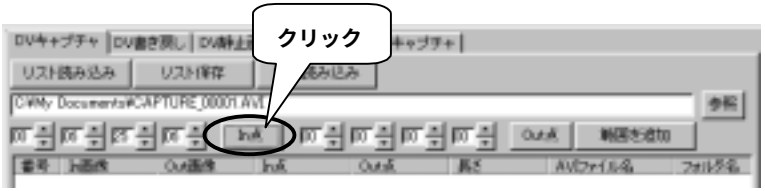
3 **[コントロールウィンドウ]で映像を再生し、キャプチャを開始したい場所で[一時停止]をクリックします。**

映像の再生、一時停止の方法は【『DVworks』でDV機器を操作する】57ページを参照してください。

参考

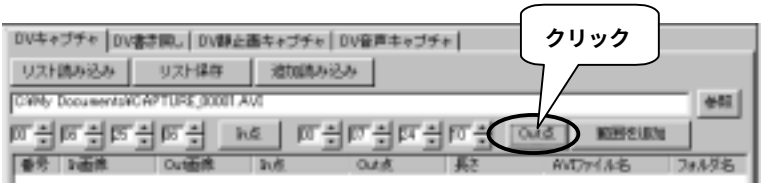
キャプチャしたい範囲のタイムコードが大まかにわかっているときは、開始点、終了点のタイムコードを直接入力することもできます。
ファンクションパネルのIn点、Out点にタイムコードを入力し、手順 7 へ進んでください。

4 [ファンクションパネル]の[In点]をクリックします。



5 [コントロールウィンドウ]で映像を再生し、キャプチャを終了したい場所で[一時停止]をクリックします。

6 [ファンクションパネル]の[Out点]をクリックします。



7 [範囲を追加]をクリックして、キャプチャリストに項目を追加します。

タイムコードによる範囲追加では、ここにはサムネイル画像は表示されません（黒く表示されるだけ）。サムネイル画像が表示されるのは、シーン検出したものを追加したときだけです。

注意

In点の指定によっては、以下のようなメッセージが表示される場合があります。

＜テープ先頭無効領域とは＞

DVテープのメディア先頭は、記録されたデータが乱れる可能性があり、その場合、映像が正常にキャプチャされない場合があります。そのため、DVworksでは、メディア先頭部分を無効領域として設定することができです（初期設定ではテープ先頭から5秒間が無効領域として設定されています）。

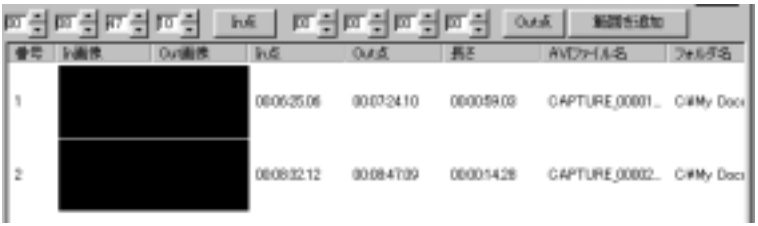
タイムコード指定でこの領域を含んだ場合、上のような警告メッセージを表示します。無効領域の変更方法は153ページの「テープ無効領域」を参照してください。

＜メッセージが表示されたら＞

[いいえ]をクリックし、In点の指定を変更（無効領域を含まない範囲に）することをおすすめします。無効領域を含んでもいい場合は[はい]をクリックしてください（実際にキャプチャするときにエラーになる可能性があります）。

8 複数追加する場合は、手順3～7を繰り返します。

キャプチャリストの使い方は68ページ【キャプチャ項目の詳細を確認する】や【キャプチャ項目を削除する】を参照してください。



9 キャプチャを行います。

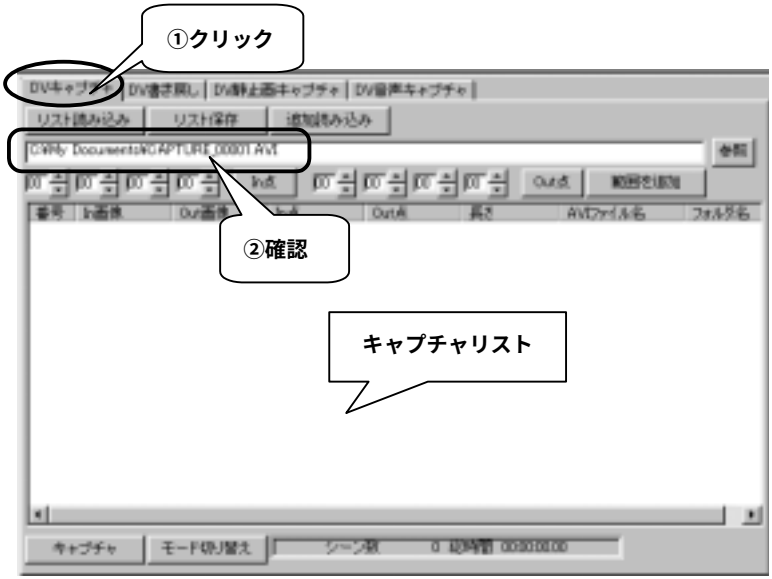
キャプチャ方法は69ページ「キャプチャ項目を一括キャプチャする」を参照してください。

映像を見ながらキャプチャする

[プレビューウィンドウ]に映像を表示しながら、好きな位置でキャプチャすることができます。

1 **[コントロールウィンドウ]の（巻き戻し）などで、キャプチャしたい位置より前にDVメディアを戻します。**

2 **[ファンクションパネル]の[DVキャプチャ]タブをクリックし、**
表示されているファイル名を確認します。



表示されているファイル名がキャプチャ後のAVIファイル名になります。ファイルの格納フォルダを変更したいときは[参照]をクリックして選択してください。ファイル名を変更したいときは任意のファイル名を入力してください（拡張子は.AVI固定）。

3 **「コントロールウィンドウ」の（再生）をクリックし、映像を再生します。**

4 キャプチャしたい映像が表示されたら、[キャプチャ]をクリックします。

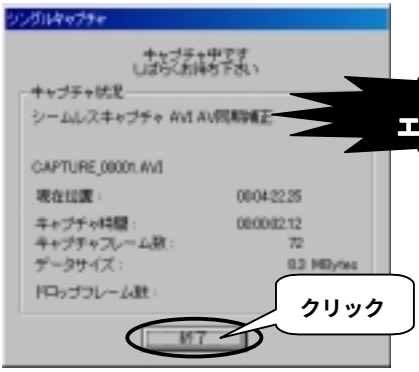
クリック後、しばらくしてから自動的にキャプチャを開始します。

5 キャプチャ中の[情報表示パネル]の[…KHz]を確認し、メモします。

このKHz表示はお使いのDVメディアによって異なります。この情報は、後で映像を編集するために『MediaStudio Pro』を起動するときに必要になります（85ページ参照）。

6 キャプチャを終了する場合は[終了]をクリックします。

自動的にDV機器も停止します。

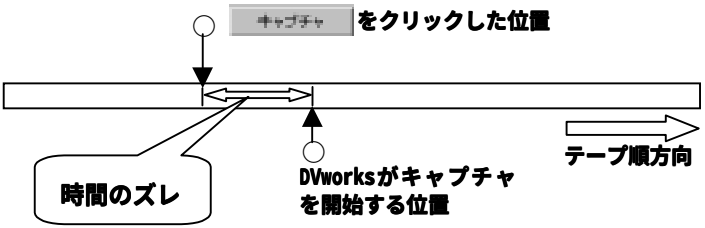


**キャプチャ中に
エラーが表示された場合**

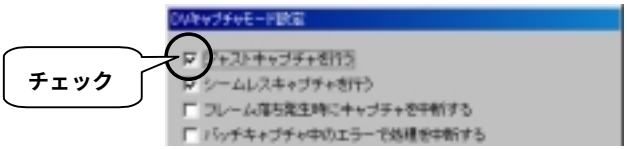
【正常に動作しない場合】
136ページ参照

参考：正確な位置でキャプチャするには

[キャプチャ]ボタンをクリックした時点と、実際にキャプチャを開始する時点とは、時間のズレがあります。このズレを防ぐために「ジャストキャプチャ機能」があります。この機能を使うと、[キャプチャ]ボタンをクリックした時点で、自動的に少し前に巻き戻し、ボタンをクリックした位置から正確にキャプチャをスタートさせることができます。



<ジャストキャプチャの設定方法>
[モード切り替え]をクリックし、「ジャストキャプチャを行う」をチェックしてから、キャプチャを行ってください。



音声だけをキャプチャする

ビデオ映像に録音されている音声だけをキャプチャすることができます。
例えば、ビデオ編集するときに、キャプチャした音声をナレーションや効果音として別の映像と一緒に組み合わせるという使い方ができるようになります。

1 **［コントロールウィンドウ］の（巻き戻し）などで、キャプチャしたい位置より前にDVメディアを戻します。**

2 **［ファンクションパネル］の［DV音声キャプチャ］タブをクリックし、表示されているファイル名を確認します。**

表示されているファイル名がキャプチャ後のWAVファイル名になります。ファイルの格納フォルダを変更したいときは［参照］をクリックして選択してください。ファイル名を変更したいときは任意のファイル名を入力してください（拡張子は.WAV固定）。

3 **「コントロールウィンドウ」の（再生）をクリックし、映像を再生します。**

4 キャプチャしたい音声が聞こえたら、[音声キャプチャ]をクリックします。

クリック後、しばらくしてから自動的にキャプチャを開始します。
音声キャプチャにも「ジャストキャプチャ」機能があります（77ページ「参考」を参照）。この機能を使うときは音声キャプチャを行う前に[モード切り替え]で設定してください。

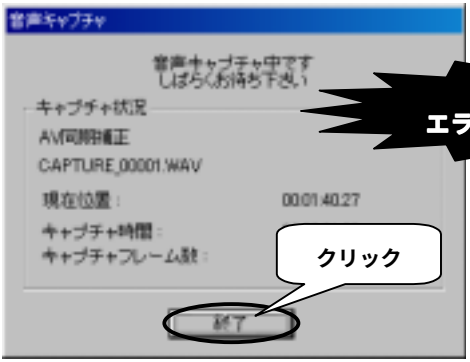
参考：連続してキャプチャするには

ファンクションパネル上で右クリックして、[ファイル名を自動生成する]をクリックしておくと、音声をキャプチャするたびに、ファイル名が自動的に作成されるようになります。

例）
最初にキャプチャしたとき：CAPTURE_00001.WAV
次にキャプチャしたとき　：CAPTURE_00002.WAV
（後半の数値５桁が自動的に加算されていく）

5 キャプチャを終了する場合は[終了]をクリックします。

自動的にDV機器も停止します。



キャプチャ中にエラーが表示された場合

【正常に動作しない場合】
136ページ参照

参考

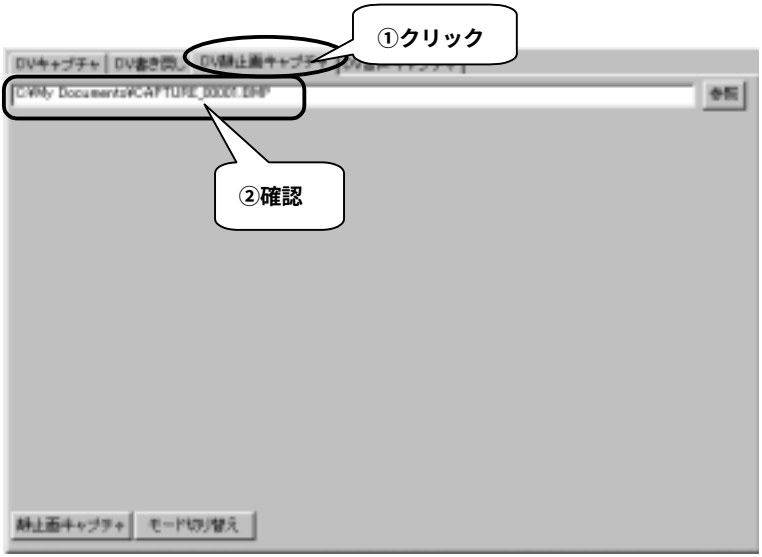
本製品添付の「DigiOnSound Light」を使用すれば、キャプチャした音声を編集することができます。「DighOnSound Light」の使い方については、オンラインヘルプを参照してください。
なお、このソフトウェアはサービス添付品のため、弊社ではサポートいたしておりません。問い合わせ先については、【サービス添付品のお問い合わせ先】11ページか、裏表紙を参照してください。

静止画をキャプチャする

ビデオ映像から静止画ををキャプチャすることもできます。キャプチャした静止画はBMPファイルに保存されるので、壁紙に使ったり、ペイントなどのソフトウェアで加工することもできます。

1 **［コントロールウィンドウ］の（巻き戻し）などで、キャプチャしたい位置より前にDVメディアを戻します。**

2 **［ファンクションパネル］の［DV静止画キャプチャ］タブをクリックし、表示されているファイル名を確認します。**

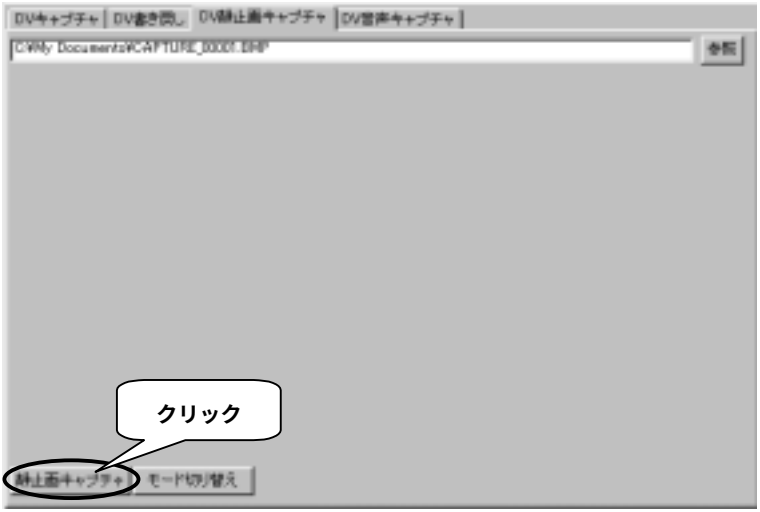


表示されているファイル名がキャプチャ後のBMPファイル名になります。ファイルの格納フォルダを変更したいときは［参照］をクリックして選択してください。ファイル名を変更したいときは任意のファイル名を入力してください（拡張子は.BMP固定）。

3 **「コントロールウィンドウ」の（再生）をクリックし、映像を再生します。**

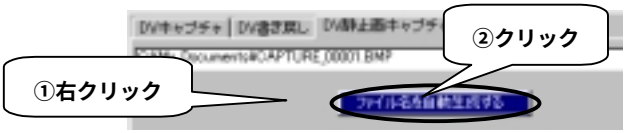
4 キャプチャしたい映像が表示されたら、[静止画キャプチャ]をクリックします。

BMPファイルが保存されます。作成される静止画は、大きさが720×480ピクセルで、24ビットカラー固定です（ファイルサイズは約１Mバイト）。



参考：連続してキャプチャするには

ファンクションパネル上で右クリックして、[ファイル名を自動生成する]をクリックしておくと、静止画をキャプチャするたびに、ファイル名が自動的に作成されるようになります。



例）

最初にキャプチャしたとき：CAPTURE_00001.BMP

次にキャプチャしたとき　：CAPTURE_00002.BMP

（後半の数値５桁が自動的に加算されていく）

ステップ3

―『MediaStudio Pro』を使って―

ビデオ作品を作ろう

1 『MediaStudio Pro』を起動しよう

『MediaStudio Pro』を使えば、本格的な映像編集を行うことができます。インストール方法は【『MediaStudio Pro』をインストールする】39ページを参照してください。
なお、本書では『MediaStudio Pro』の基本的な操作のみを説明します。詳しくは『MediaStudio Pro』の取扱説明書またはオンラインヘルプを参照してください。

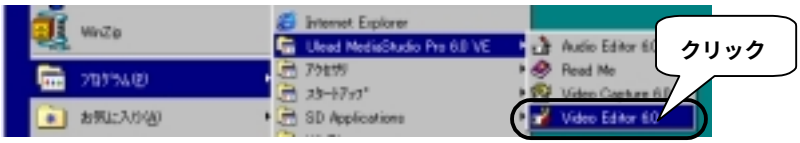
参考

DV機器からのキャプチャ/書き戻しに関しては、「MediaStudio Pro」の「Video Capture6.0」の機能もご使用頂けますが、より高機能で使いやすい「DV Works」のご使用を推奨いたします。

注意

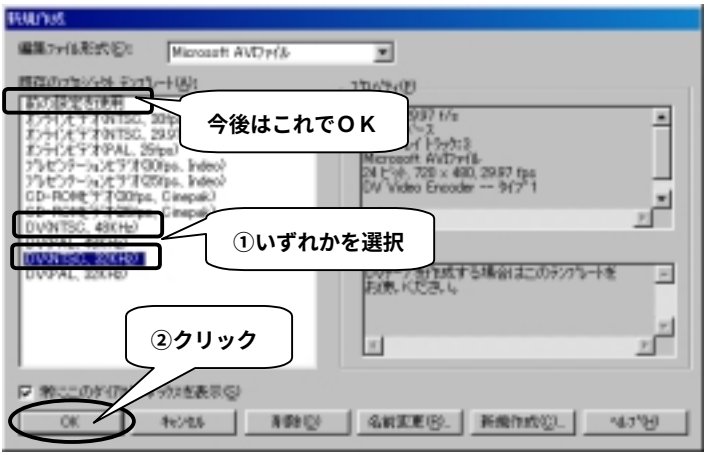
ここで説明する『MediaStudio Pro 6.0 VE SP』は、弊社ではサポートしておりません。サポート先に関しては【サービス添付品のお問い合わせ先】11 ページか、裏表紙を参照してください。

1 [スタート]→[Ulead MediaStudio Pro 6.0 VE]→[Video Editor 6.0]の順にクリックします。



2 [DV(NTSC,48KHz)]または[DV(NTSC,32KHZ)]のいずれかを選択し、[OK]をクリックします。

編集したいAVIファイルをキャプチャしたときに確認した、KHz（70、76ページ参照）に合わせたものを選択してください。
今後は[前の設定を使用]を選択すればOKです。



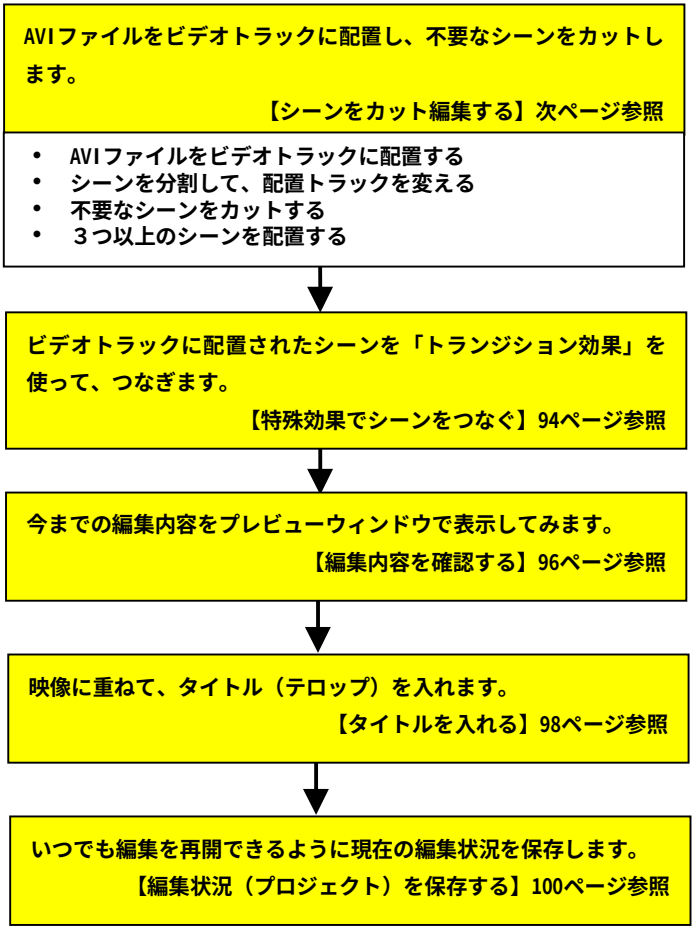
3　初期画面が表示されます。

お使いの環境によって表示されるレイアウトは異なります。下記は1024×768の場合です。

ウィンドウ名	主な用途
プレビュー	編集した結果を表示します。
ソース	使用するAVIファイルの映像を表示します。
プロダクション ライブラリ	特殊な映像効果を集めた作品集です。このライブラリを使えば特殊効果を簡単に実現できます。
タイムライン	実際に編集を行う作業領域です。 • Va、Vb：編集したいAVIファイルを配置 • Fx：シーン切替の特殊効果を配置 • V1～Vn：タイトルなどを配置 • Aa、Ab:Va、Vbに配置したAVIファイルの音声が配置 • A1～An：その他のオーディオを配置

2 映像を編集しよう

ここでは、【ステップ2】でキャプチャしたAVIファイルを使って次のような編集を行う過程を例に、基本的な映像編集の方法を説明します。



シーンをカット編集する

キャプチャしたAVIファイルをビデオトラックに配置し、シーンを分割したり、不要なシーンをカットしてみましょう。

AVIファイルを配置する

まずは編集したいAVIファイルをビデオトラック（VaまたはVb）に配置します。

1　タイムラインの をクリックして、編集したいAVIファイル（ビデオファイル）を選択します。

2 VaまたはVbトラックの任意の位置に、カーソル（手のマークになっている）を合わせてクリックします。

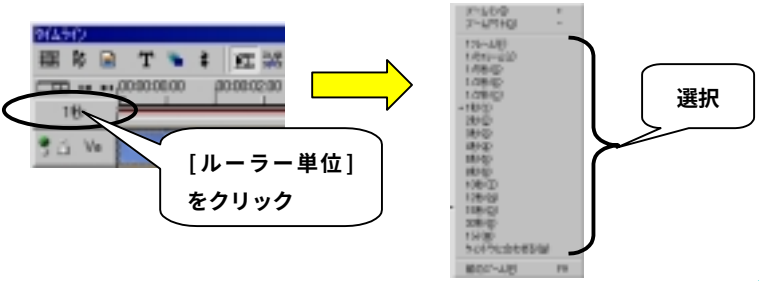
この場合はVaトラックの先頭をクリックします。

3 指定したトラックに映像が配置されます。

同時にビデオファイルの音声もオーディオトラックに配置されます。

参考

映像が長かったり短かった場合は[ルーラー単位]を変更すると映像が確認しやすくなります（標準は１秒単位）。



シーンを分割して、配置トラックを変える

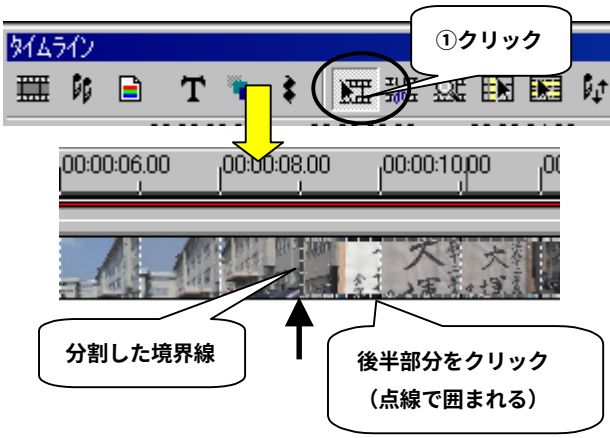
ここでは、Vaトラックの映像を２つに分割し、後半をVbトラックへ移動します。

1　タイムラインの をクリックし、カーソル（はさみマーク）を分割したいところに合わせて、クリックします。

クリックすると、グレーの境界線が引かれます。また、その映像に対応したオーディオトラックにも同様に境界線が引かれます。

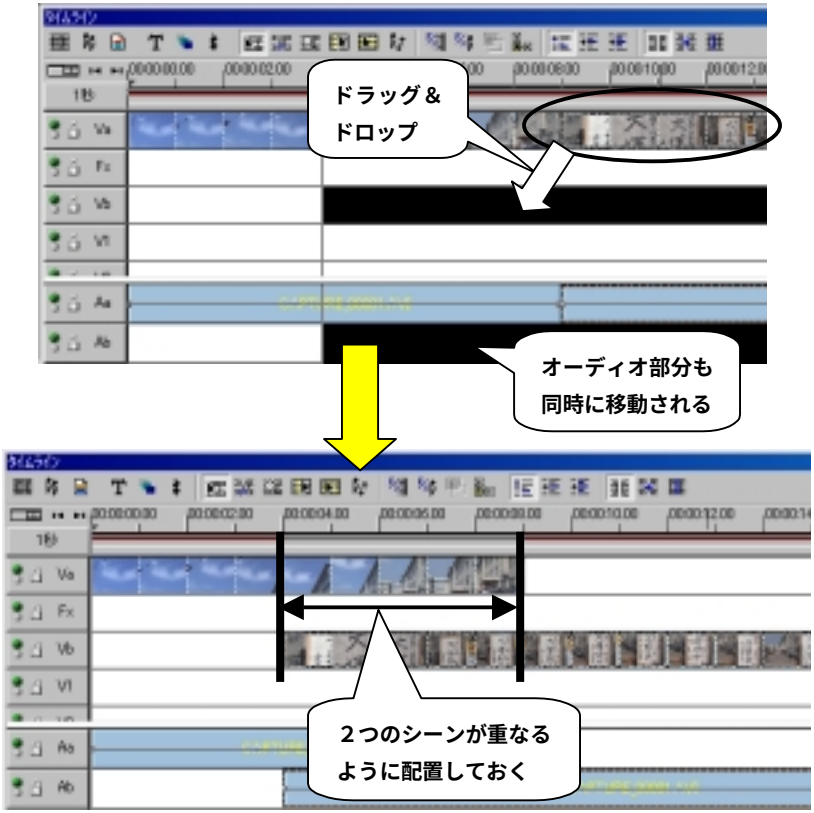
2　タイムラインの をクリックし、分割した映像の後半部分をクリックします。

先ほど分割したので、分割した境界線から後の部分だけが点線で囲まれます（クリップ選択状態）。対応する音声も点線で囲まれます。



3 後半部分をVbトラックへドラッグ＆ドロップします。

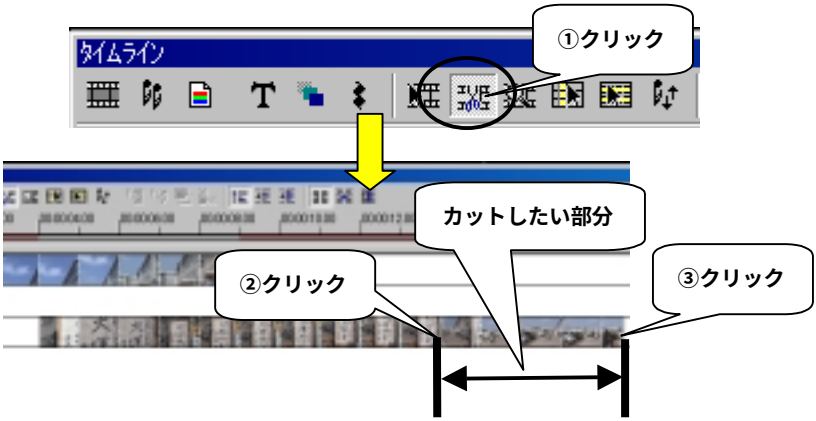
VaトラックとVbトラックのシーンは後で特殊効果を使ってつなぐので、Vbトラックは２つの映像が重なる位置にドラッグしておきます。



不要なシーンをカットする

ここでは、Vaトラックの最後の映像をカットします。

1　タイムラインの をクリックし、カーソル（はさみマーク）を不要な部分の先頭と最後をクリックします。

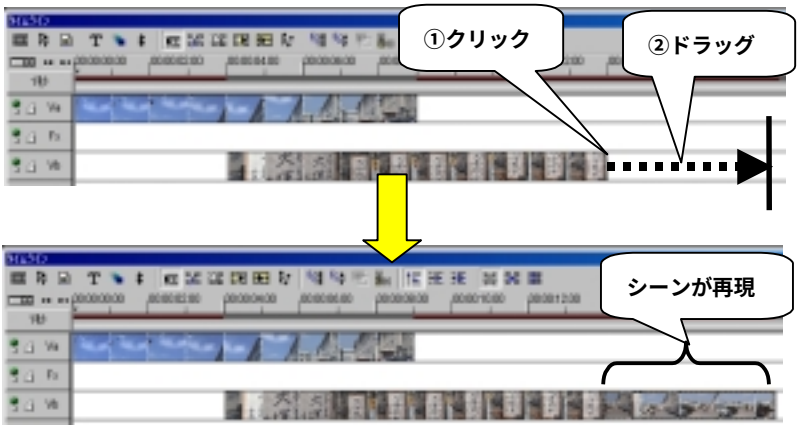


2　タイムラインの をクリックし、不要な部分をクリックして、[DEL]キーを押します。

シーンが削除されます。カットシーンの後に映像がある場合は、後の映像をドラッグして、カットシーンの前の映像とつなげておいたり、カット部分に別の映像を挿入することもできます。

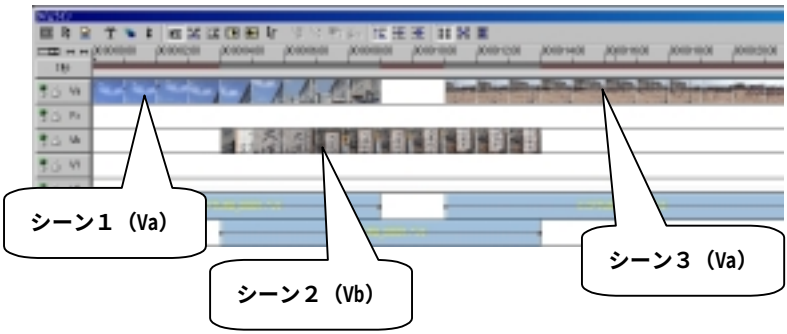
参考

シーンをカットしたからといって、元のAVIファイルからそのシーンが削除されるわけではありません。あくまでもタイムライン上のシーンがカットされるだけです。シーンの右端をマウスでつまんで、右方向にドラッグすればカットしたシーンを再現することができます。



3つ以上のシーンを配置する

ビデオトラックはVaとVbの２つですから、３つ以上のシーンを配置するには、Va→Vb→Va→Vbのように交互に２つのトラックを使っていきます。



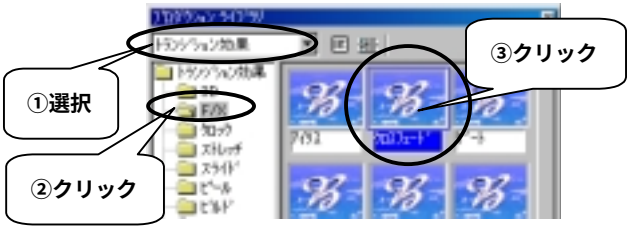
３つのシーンを配置した例

特殊効果でシーンをつなぐ

プロダクションライブラリに登録されている特殊効果を使って、シーンをつないでみましょう。シーンをつなぐには「トランジション効果」を使います。数あるトランジション効果のうち、ここでは「クロスフェード効果」と「ターンページ効果」を使ってみます。

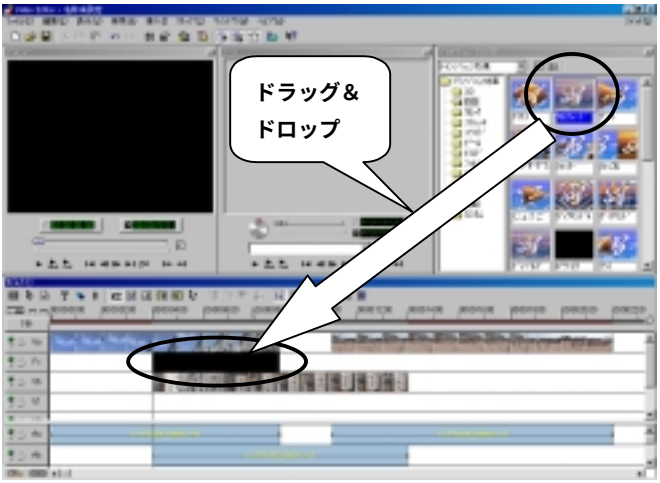
1　プロダクションライブラリの[トランジション効果]を選び、使いたい特殊効果をクリックします。

ここでは[F/X]フォルダに入っている[クロスフェード効果]をクリックします。



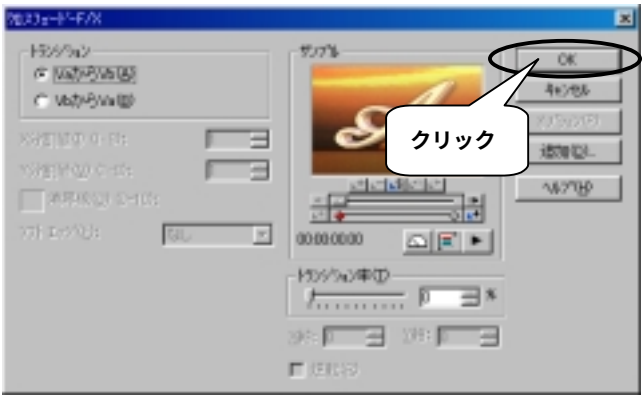
2　選択した特殊効果を、タイムラインのFxトラックへドラッグ＆ドロップします。

ドロップ位置はシーンのつなぎ目になります。



3 位置を決めてクリックすると、詳細設定画面が表示されるので、[OK]をクリックします。

設定内容については[ヘルプ]をクリックしてください。



4 特殊効果が挿入されました。

矢印はシーンの切替順（VaからVbへの切替）を示します。

同様に、VbとVaを[ピール]フォルダにある[ターンページ]を使ってつないでみましょう。矢印が上向きになっていることを確認してください。

もう１度、別の特殊効果をプロジェクトライブラリから選んでドラッグ＆ドロップすると、選択した特殊効果を変更することができます。また、効果の設定を変えたいときは、Fxトラック上の特殊効果をダブルクリックしてください。

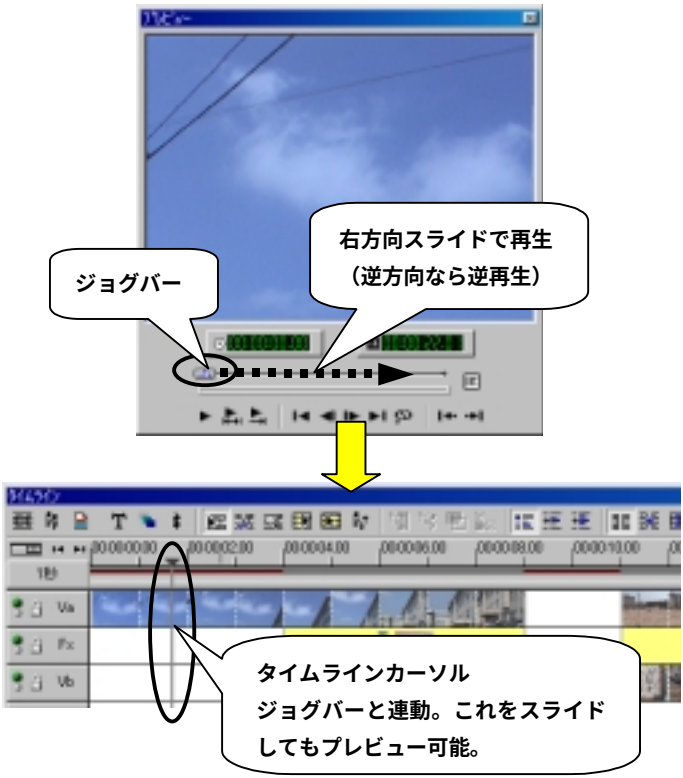
編集内容を確認する

今までの編集で映像がどのようになっているか、プレビューウィンドウを使って確認してみましょう。

1　プレビューウィンドウの[ジョグバー]をマウスでつまみ、右方向にゆっくりスライドします。

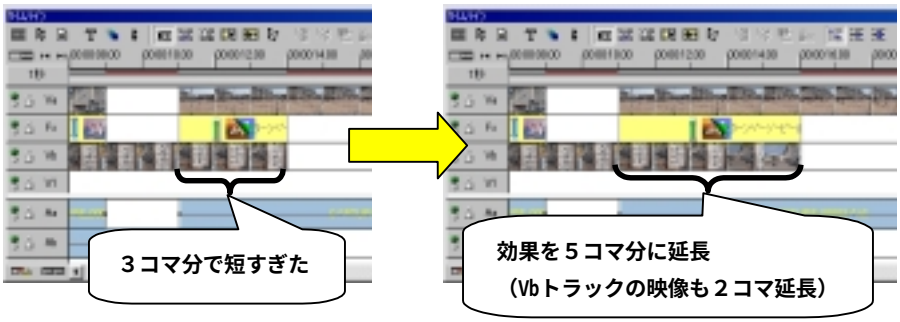
マウスをスライドする速度に合わせて、プレビューウィンドウに編集結果の映像が再生されます。

タイムライン上でも同時にカーソルが移動し、どの辺の映像が再生されているか、確認することができます。



確認後の修正例として、ターンページ効果をもう少し長くする方法を見てみましょう。
こういった修正は、シーンをドラッグ＆ドロップすることで簡単にできます。

修正前　　修正後

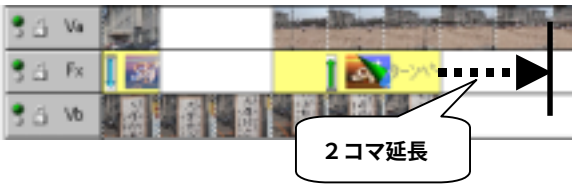


1　タイムラインの が選択されていることを確認します。

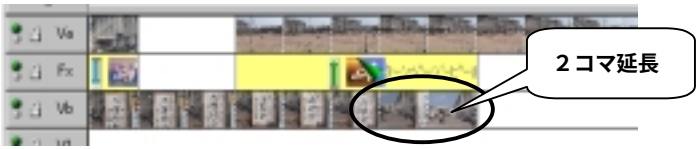
2　ターンページ効果をクリックし、点線部分の右端にカーソルを合わせます。

カーソルが ⇨⇦ になることを確認します。

3　広げたい位置までドラック＆ドロップします。



4　同様に、Vbトラックの映像もドラック＆ドロップで広げます。



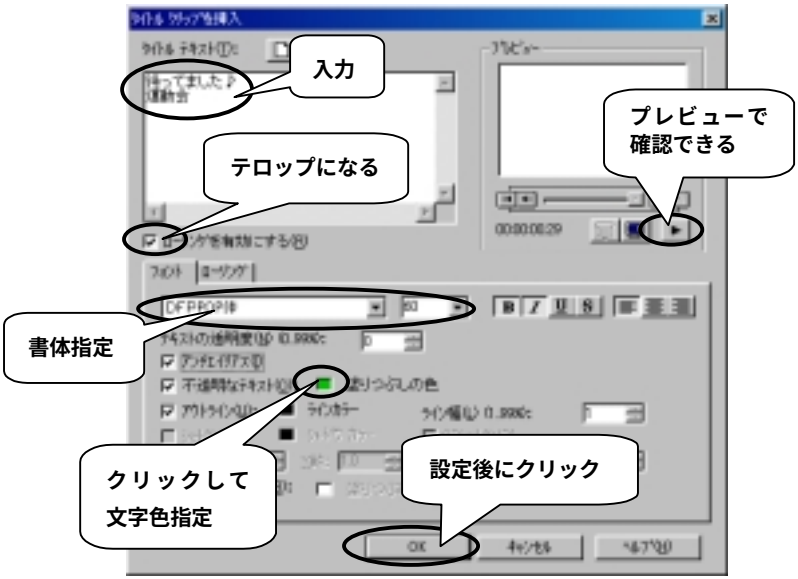
タイトルを入れる

作品の先頭にタイトルを入れてみましょう。映像に重ねて文字が流れる「テロップ式」のタイトルも簡単に入れることができます。

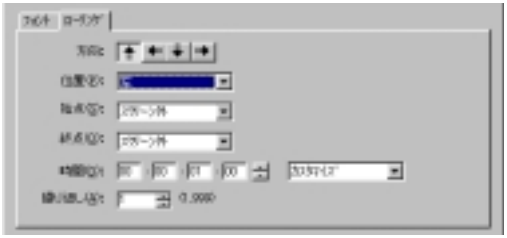
1　タイムラインのTをクリックします。

2　タイトルや書体などを指定し、[OK]をクリックします。

[ローリングを有効にする]をチェックするとテロップになります。[ローリング]タブをクリックして詳細設定を行うこともできます。
詳しい設定内容については[ヘルプ]をクリックしてください。

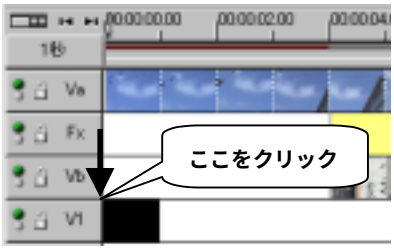


[ローリング]タブを
クリックすると…



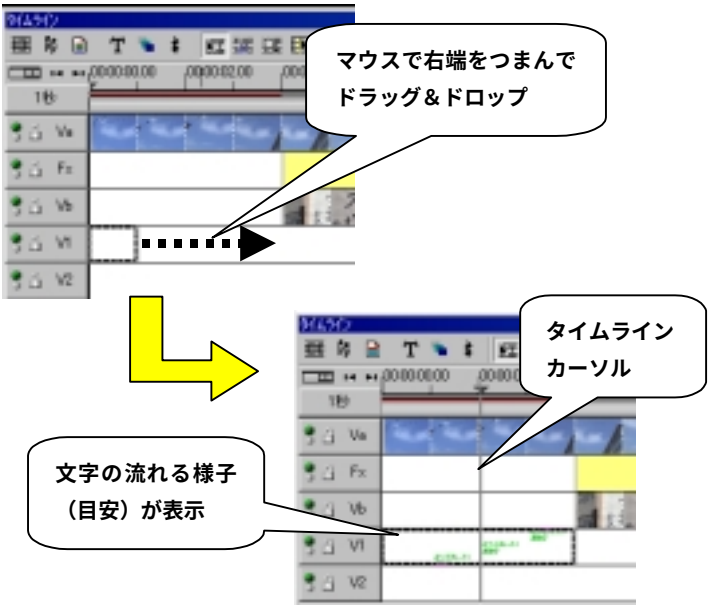
3 V1トラック上の挿入したい位置にカーソル（手のマーク）合わせ、クリックします。

タイトルクリップはV1～V3トラックへ挿入します。ここでは先頭をクリックします。



4 テロップの長さをドラッグ＆ドロップで調節します。

ジョグバーまたはタイムラインカーソルを動かしてプレビューウィンドウで確認しながら調節してください（96ページ【編集内容を確認する】参照）。



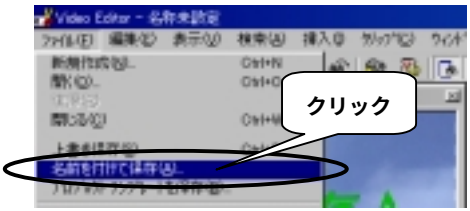
編集状況(プロジェクト)を保存する

これまでの編集状況をプロジェクトファイルとして保存しておくことができます。プロジェクトファイルを保存しておけば、編集の途中で中止した場合も、すぐに再開することができます。

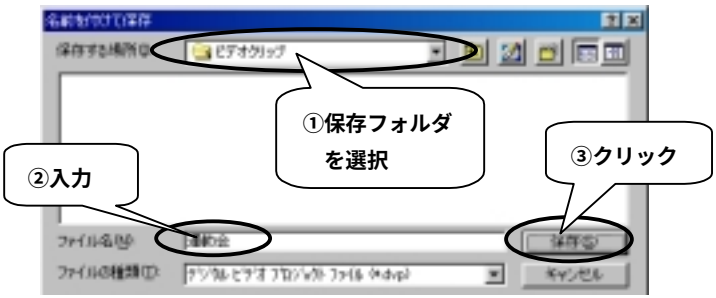
注意

ここで保存するのは編集状況であって、編集した結果の映像ではありません。したがって、編集状況を保存した後でも、編集に使っている AVI ファイルなどは必要ですので、削除したり、フォルダを移動したりしないでください。

1　[ファイル]メニューの[名前を付けて保存]を選びます。



2　保存フォルダおよびファイル名を指定して、[保存]をクリックします。（拡張子は.dvp）



保存したファイルを開く

[ファイル]メニューの[開く]を選び、開きたいファイルを指定します。

3 BGMやナレーションを入れよう

『MediaStudio Pro』のオーディオトラックには、AVIファイルの音声のほか、WAVファイルやMPEGファイルのオーディオデータを配置することもできます。

ここでは、【ステップ2】でキャプチャした音声をナレーションとして配置してみましょう。ナレーションでもBGMでも用意するオーディオデータの内容が異なるだけで、手順はまったく同じです。

主な手順は次のようになります。

不要になる音声をカットするために、まず、映像と音声を分離します（分離させないと音声をカットすると同時に映像もカットされます）。

↓

不要になる音声をカットします。

↓

配置したいオーディオデータを選び、オーディオトラックに配置します。

↓

音声の出力レベルを調節します。
２つのオーディオトラックを使い、出力レベルの調整を行うことで、音声のフェードイン・フェードアウトを簡単に指定することができます。

1 不要になる音声をクリックします。

ここではAaトラックの音声をカットします。

2 選択した音声トラック上で右クリックし、[分離]を選びます。

ビデオトラックとオーディオトラックが分離するので、どちらか一方だけのカットや移動ができるようになります。

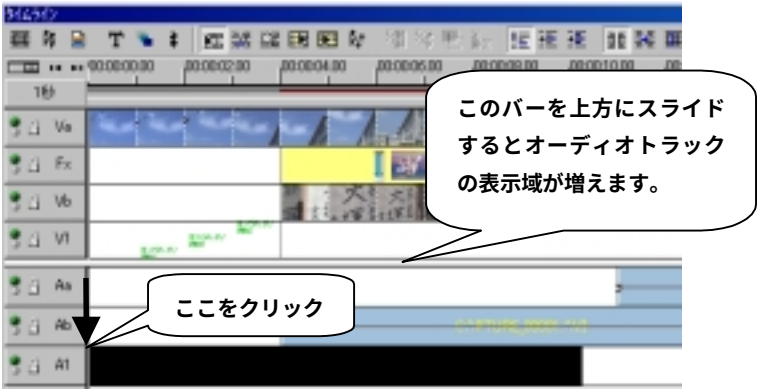
3 不要な部分をクリックし、[DEL]キーを押します。

音声部分だけが消えます。

4 タイムラインの をクリックし、配置したいオーディオデータを選択し、[開く]をクリックします。

をクリックするとオーディオデータを再生します。

5 A1トラック上の挿入したい位置にカーソル（手のマーク）を合わせ、クリックします。

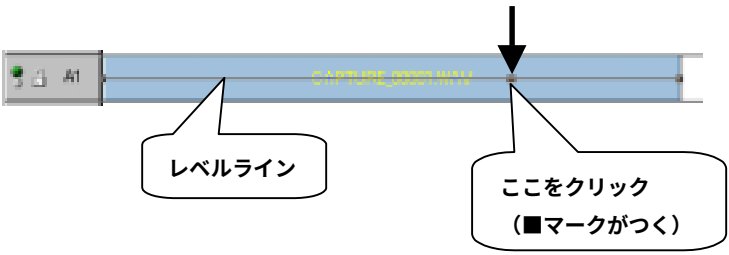


音声の出力レベルを調節する

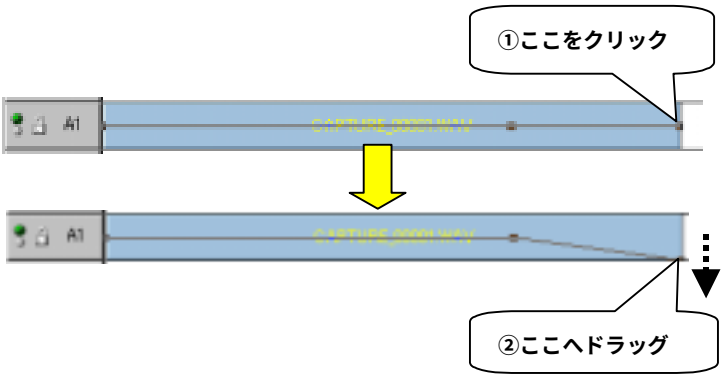
音声の出力レベル（ボリューム増減）とそのポイントを指定してみましょう。ここでは、A1トラックの後半をだんだん下げ（フェードアウト）、Aaトラックの開始をだんだん上げていく（フェードイン）例を説明します。

1 オーディオトラックのレベルラインのうち、出力レベルを変更したいポイントをクリックします。

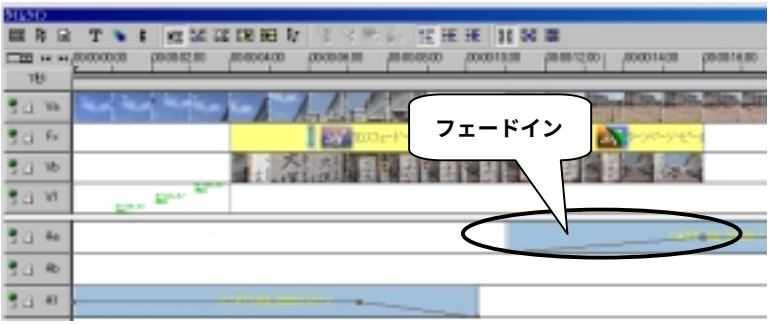
クリックした時点に■マークがつきます。



2 トラックの終わりにある■マークをマウスでつまみ、トラック下方へドラッグ＆ドロップします。



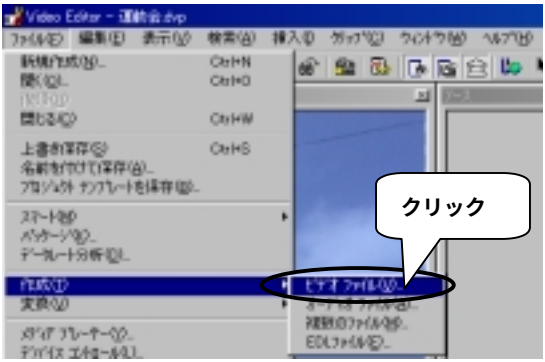
3 同様に、Abトラックの音声をフェードインします。



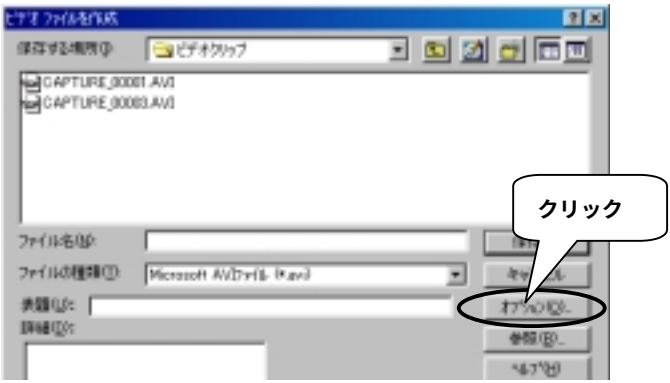
4 編集した作品を保存しよう(レンダリング)

編集が思い通りに出来たら、その結果をAVIファイルとしてハードディスクに保存します。今までプレビューウィンドウで確認してきた内容は一時的な領域に記憶されているもので、AVIファイルとしてハードディスクに保存されているわけではありません。AVIファイルとして保存することを「レンダリング」といいます。

1 **[ファイル]メニューの［作成］から、［ビデオファイル］をクリックします。**

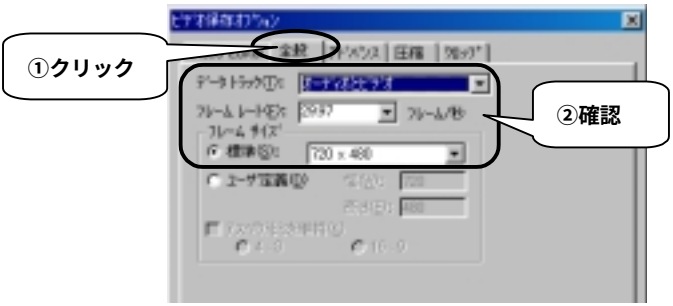


2 **[オプション]をクリックします。**



3 [全般]タブをクリックし、以下の設定を行います。

- データトラック：オーディオとビデオ
- フレームレート：29. 97
- フレームサイズ：720x480

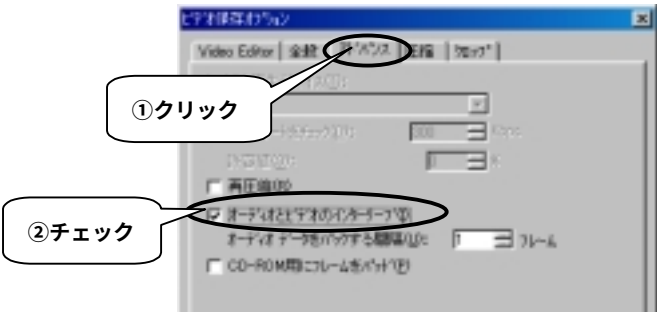


注意

[全般]～[クロップ]までのタブが表示されない場合は、『MediaStudio Pro』CD-ROM 内の「ドライバをインストールする」→「NetShow ツール」をインストールしてください。

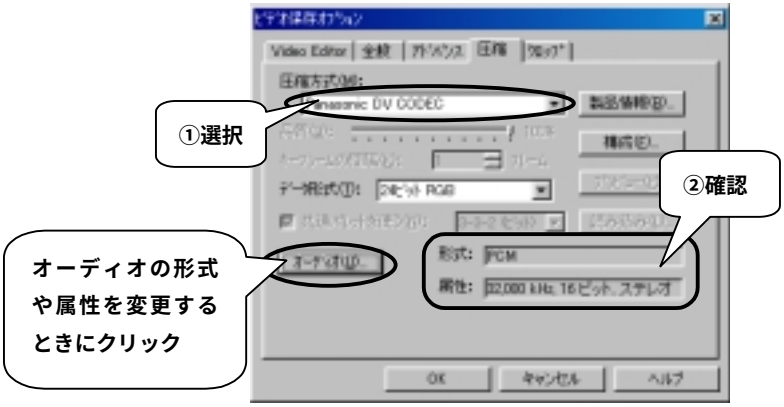
4 [アドバンス]タブをクリックし、[オーディオとビデオのインターリーブ]をチェックします。

[オーディオデータををパックする間隔]は変更不要です。



5 [圧縮]タブをクリックし、以下の設定を行います。

圧縮方式：「Panasonic DV CODEC」または
「Panasonic and I-O DATA DV GigaAVI CODEC」
オーディオの形式：PCM
オーディオの属性：「32.000kHz,16ビット,ステレオ」または
「44.100kHz,16ビット,ステレオ」または
「48.000kHz,16ビット,ステレオ」



注意

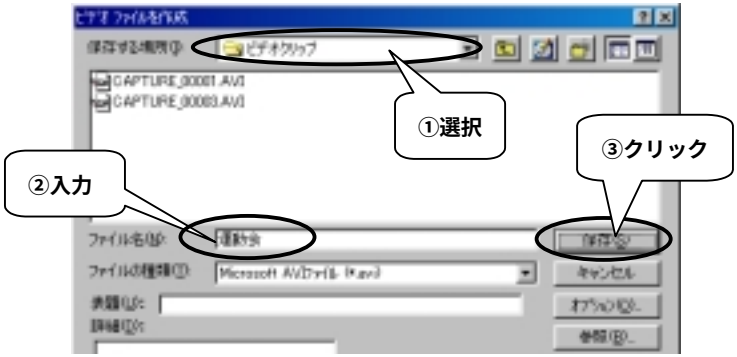
1. **[Panasonic DV CODEC]は２GまでのAVIファイル（約9分30秒以内）を作成します。それ以上のAVIファイルを作成するときは[Panasonic and I-O DATA DV GigaAVI CODEC]を選択してください（GigaAVIファイルについては【付録４　２G以上のAVIファイルを扱うには】177ページ参照）。**
2. **オーディオトラックを使っていないときは［オーディオ］ボタンは選択できません。**
3. **[オーディオ]ボタンをクリックしても画面が表示されないときは『MediaStudio Pro』CD-ROM 内の「ドライバをインストールする」→「NetShow ツール」をインストールしてください。**

6 [OK]をクリックします。

手順2の画面に戻ります。

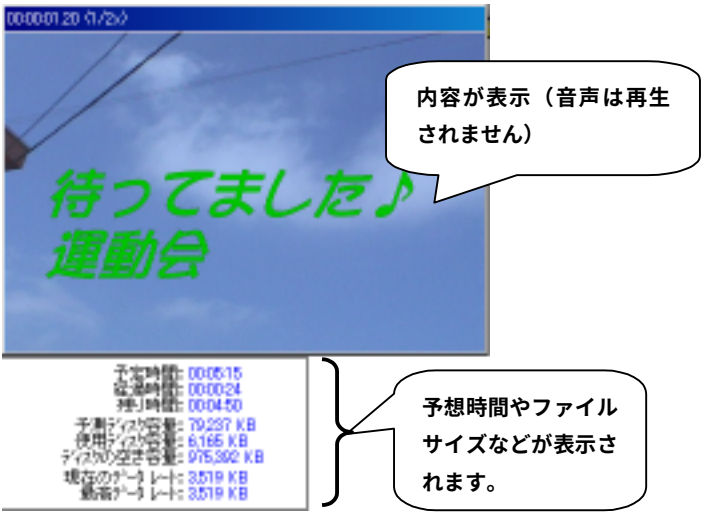
7 保存したいフォルダを選択し、AVIファイルの名前を入力して、[保存]をクリックします。

表題や詳細欄に編集内容メモを入力しておくこともできます。



8 保存（レンダリング作業）を開始します。

お使いの環境や編集内容によって時間がかかる場合があります。



9 保存が終わったら、作成したAVIファイルが自動的に表示されます。内容を確認してください。

以上で、AVIファイル（またはGigaAVIファイル）の作成は終了です。
作成したAVIファイルをDV機器で録画したい場合は、DVworksで録画できます。
【ステップ4】111ページへ進んでください。

注意

保存したAVIおよびGigaAVIファイルを、DV機器へ書き戻す作業は『DVworks』を使って行います（【編集した作品をDV機器で録画しよう】 112ページ参照）。
『MediaStudio Pro』の[ファイル]メニューにある[テープへの録画]は、アナログ機器用のため、DV機器への録画はできません。

ステップ4

ビデオ作品を楽しもう

1 編集した作品を DV機器で録画しよう

編集したビデオ作品（AVIファイル）をDV機器で録画してみましょう。
録画するときには『DVworks』を使います。

注意

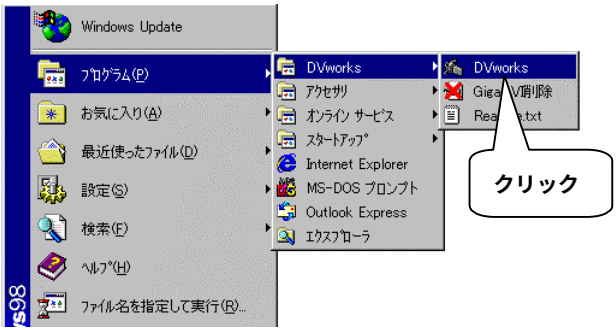
1. **DV機器は「ビデオ（再生）モード」に設定してください。「ビデオ（再生）モード」のまま録画できます。**
2. **使用しているDVメディアは記録（書き込み）可能にしておいてください。**
3. **録画は、テープの停止位置から行われます。**

1 DV機器を本製品に接続し、電源を入れて「ビデオ（再生）モード」にします。

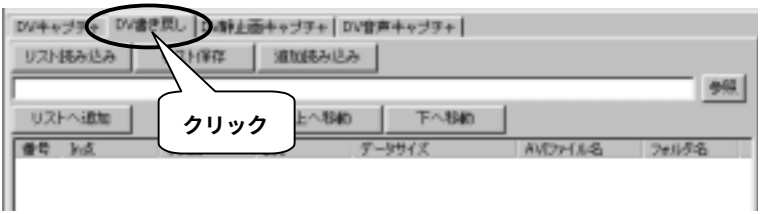
接続方法は【DV機器を接続しよう】44ページ参照

2 DVメディアを入れ、録画を開始したい位置で停止します。

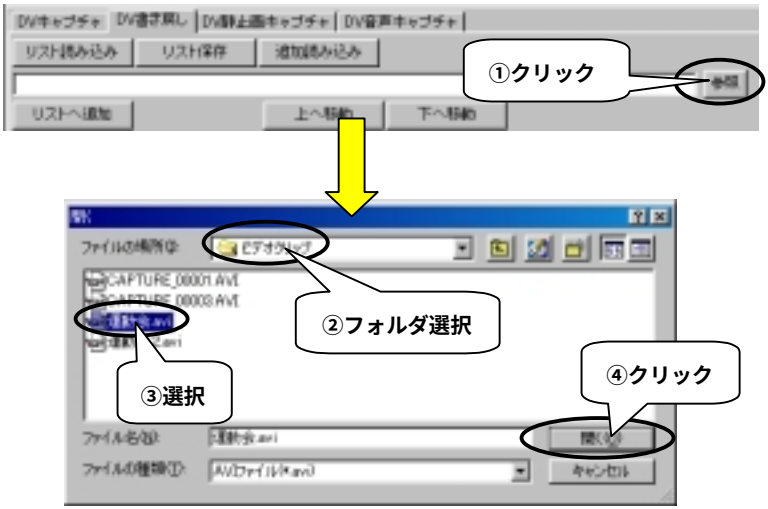
3 [DVworks]を起動します。



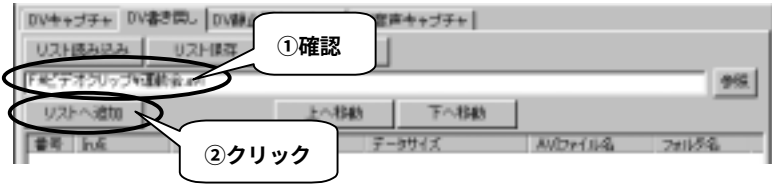
4　［ファンクションパネル］の［DV書き戻し］タブをクリックします。



5　［参照］をクリックします。
録画したいAVIファイルを選択して、［開く］をクリックします。



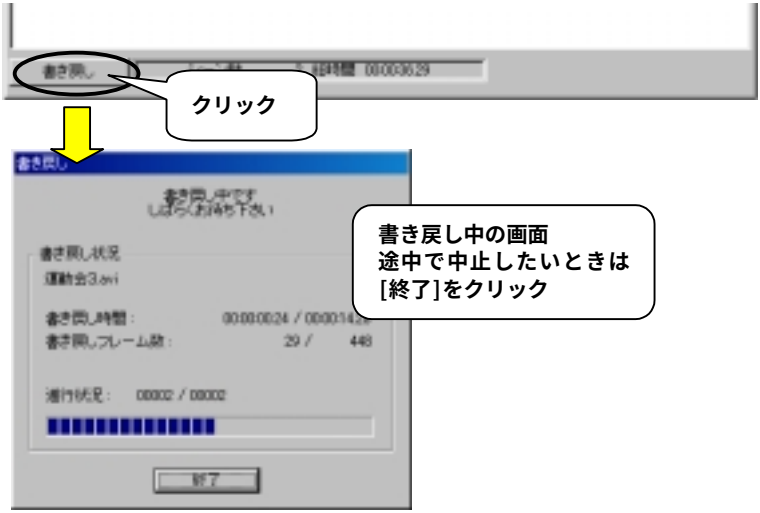
6　表示されたファイル名を確認後、［リストへ追加］をクリックします。



7　つなげて録画したいAVIファイルがあれば、手順5、6を繰り返して、すべて指定します。

録画する順番を変えたいときは、順番を変えたいAVIファイルをクリック後、[上へ移動]や[下へ移動]をクリックしてください。

8　[書き戻し]をクリックすると、DVメディアに書き戻し（録画）を開始します。



9　正常に録画（書き戻し）が終了すると、DV機器は自動的に停止します。

正常に録画（書き戻し）できない場合は…

【正常に動作しない場合】
135ページを参照

以上で、DV機器への録画（書き戻し）は終了です。

参考１：セーフティエリアについて

AVIファイルに、編集ソフトでタイトルやテロップを入れた場合は、「セーフティエリア」を表示して確認することをおすすめします。

■「セーフティエリア」とは？

MediaStudio Pro等のDV編集ソフトや一般的な編集ソフトのプレビュー画面では、撮影した映像は、100%のサイズで表示されます。しかしテレビでは、画面が欠けることを防ぐために一回り小さいサイズでしか表示されません。このため、テレビ上では、編集ソフトを使って入れたタイトルやテロップが消えたり、欠けたりしてしまう場合があります。

DVworksの「セーフティエリア」では、テレビに表示される目安として、「TVセーフティエリア（90%）」および「タイトルセーフティエリア（80%）」の白い枠線を表示させ、タイトルやテロップがエリア内に収まっているか確認することができます。

※ テレビの機種によって多少誤差がありますので、セーフティエリアはあくまで目安としてご利用ください。

■「セーフティエリア」の設定方法

「セーフティエリア」はプレビューウィンドウを右クリックし、表示されたメニュー内の項目をチェックすれば設定できます。

■タイトルやテロップがエリア内に収まっているかの確認方法

前ページ手順**8**の書き戻し中に、プレビュー画面で確認できます。

はみ出している場合は、再度編集ソフトで編集し直してください。

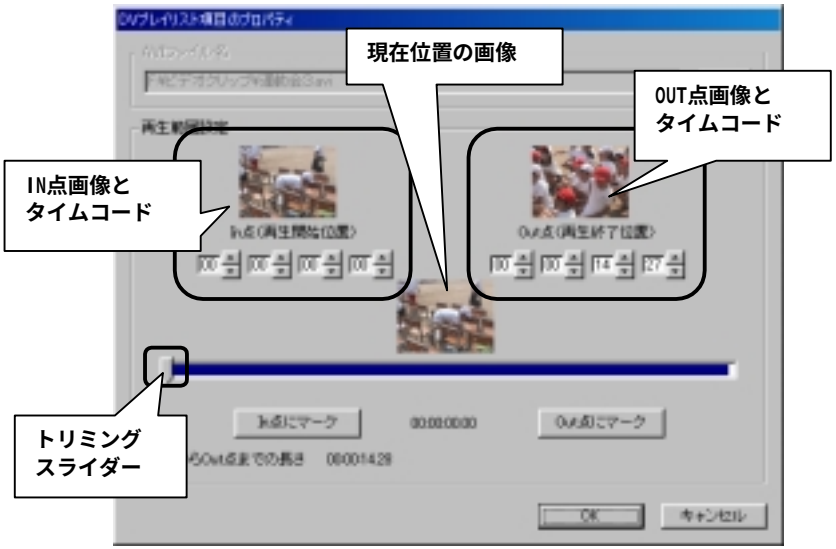
参考２：トリミングについて

DVテープに書き戻す前に、AVIファイルの中の録画したい部分だけを抜き出してから録画することもできます。（トリミング機能）

<トリミング方法>

①書き戻しリストのトリミングを行いたいファイルをダブルクリックします。

②以下の画面が表示されます。



③「トリミングスライダー」をマウスで移動させて、トリミングしたい開始点で「IN点にマーク」、終了点で「OUT点にマーク」をクリックします。

④［OK］をクリックすれば、設定できます。

⑤114ページ手順**8**以降を行って、DV機器へ書き戻します。

2 編集した作品を MPEG形式で保存しよう

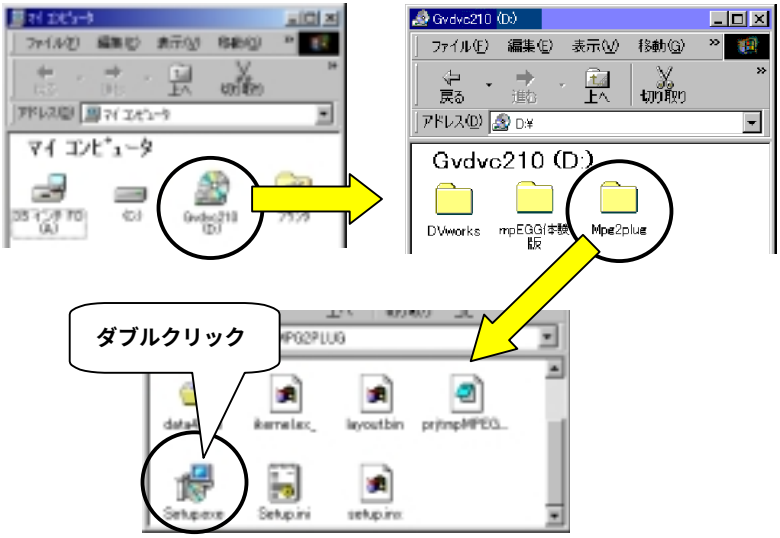
編集したビデオ作品をDV機器に書き戻すのではなく、パソコンで楽しむだけなら、AVIファイルではなく、圧縮率の高いMPEG形式のファイルで保存したほうが、ファイルサイズが少ないので、ハードディスクを節約できます。
本製品に添付されているプラグインをインストールすると、編集した結果を『MediaStudio Pro』から直接、MPEG 1またはMPEG 2ファイルへ出力することができます。

注意

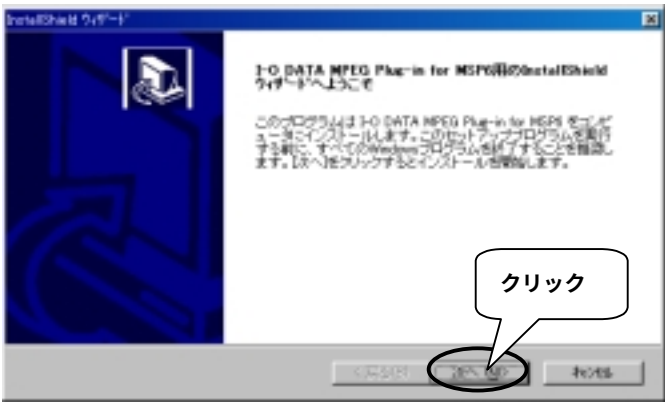
1. **MPEG形式で保存したファイルを、DV機器へ書き戻すことはできません。**
2. **このプラグインは、本製品添付のMediaStudio Pro 6.0 VE SP版にのみ、インストール可能です。**
   MediaStudio Pro VEのフルバージョン版で、このプラグインを使用する場合は、Ulead社から提供されるアップデートプログラムが別途必要です。このプログラムについては、Ulead社にお問い合わせください。
3. **作成したMPEG1ファイルは、Windows標準のメディアプレーヤーで再生することができます。**
4. **作成したMPEG2ファイルを再生するには、MPEG2再生ソフトウェア（本製品添付の「PowerDVD2000」など）がインストールされている必要があります。（PowerDVD2000の使用方法は、添付のクイックガイドか、オンラインヘルプを参照してください。）**
5. **作成したMPEG2ファイルをWindows標準のメディアプレーヤーで再生される場合、ご使用の環境によっては正常に再生できない場合があります。添付の「PowerDVD2000」での再生を推奨します。**
6. **Windows Meでは、MPEG2ファイルをメディアプレーヤーで再生した場合、音声が正常に再生されない場合があります。**
   Windows MeでMPEG2ファイルを再生する場合は、「PowerDVD2000」をご利用ください。

プラグインのインストール

1　**サポートソフトCD-ROMをCD-ROMドライブにセットし、Mpg2plugフォルダのsetup.exeをダブルクリックします。**



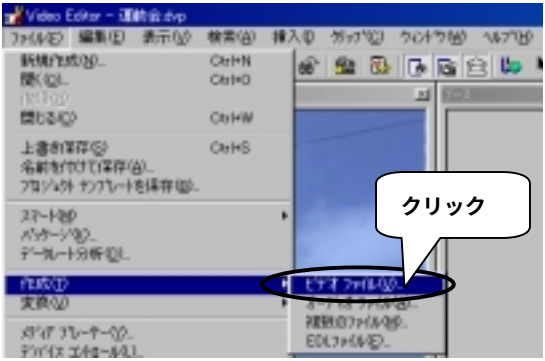
2　**[次へ]をクリックします。画面の指示にしたがって、インストールを進めてください。**
最後にパソコンを再起動したら、インストール終了です。



MPEG形式で保存する

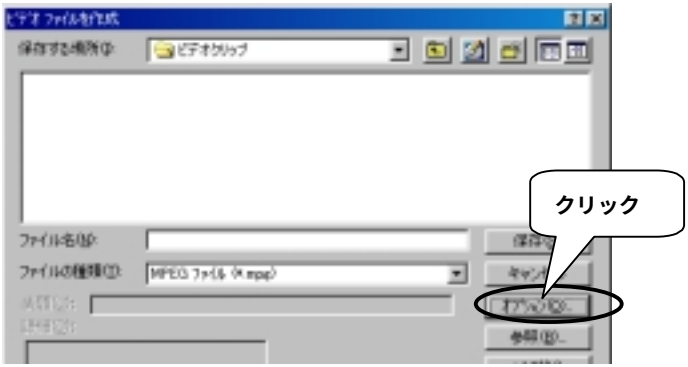
MediaStudio Proで思い通りの編集ができたら、その結果をMPEG形式でハードディスクに保存してみましょう。

1　[ファイル]メニューの［作成］から、［ビデオファイル］をクリックします。



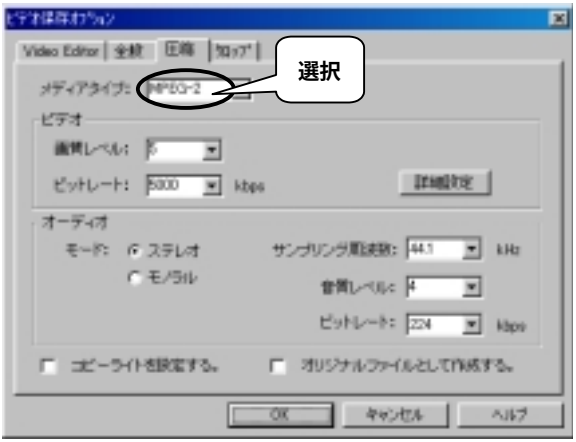
2　[ファイルの種類]から[MPEGファイル]を選択します。

3　[オプション]をクリックします。



4　[圧縮]タブをクリックし、メディアタイプを選択します。

通常は「MPEG-1」または「MPEG-2」を選択します。詳しい設定内容は[ヘルプ]をクリックしてください。



5 [全般]タブをクリックし、以下の設定を行います。

- データトラック：オーディオとビデオ
- フレームレート：29.97
- フレームサイズ：720x480、もしくは352x480（MPEG2の場合）
  352x240、もしくは176x120（MPEG1の場合）
  「4」で「NTSC DVD」、もしくは「NTSC VCD」を選択した場合は変更する必要はありません。

注意

・作成したMPEGファイルを、本製品添付の「DVDit! LE」で使用する場合は、[NTSC DVD]を選択してください。
・作成したMPEGファイルをビデオCDに利用する際は、[NTSC VCD]を選択してください。

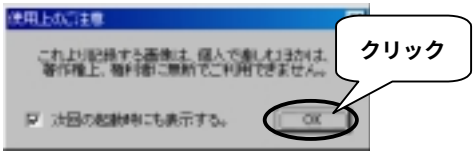
6 [OK]をクリックします。

手順*2*の画面に戻ります。

7 保存したいフォルダを選択し、AVIファイルの名前を入力して、[保存]をクリックします。

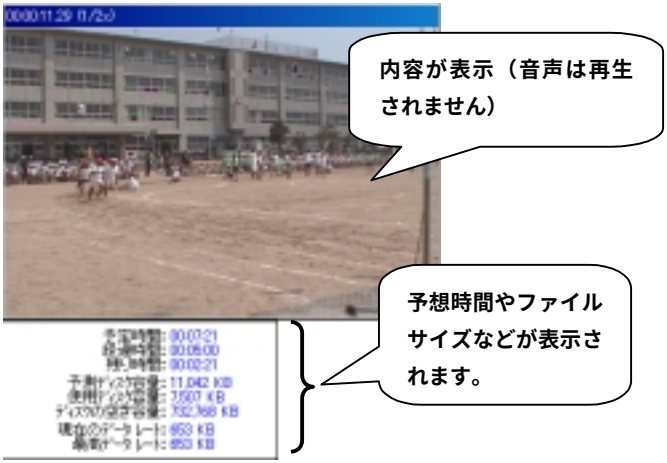
8　[OK]をクリックします。

この注意は必ずお守りください。



9　保存（レンダリング作業）を開始します。

お使いの環境や編集内容によって時間がかかる場合があります。



10　保存が終わったら、作成したMPEGファイルが自動的に表示されます。内容を確認してください。

付録

付1 正常に動作しない場合

本製品を使用していて異常があった場合にご覧ください。

なお、ここでは『DVworks』使用時のトラブルと対処方法を中心に説明しています。本製品添付のサービス品ソフトウェアをお使いの場合は、11ページ「サービス添付品のお問い合わせ先」を参照してください。

＜DV機器接続時＞

状態	参照ページ
『DVworks』がDV機器を認識しない（デバイスマネージャの確認で[イメージングデバイス]が表示されない）	126

＜プレビュー時＞

状態	参照ページ
「プレビューウィンドウ」自体が表示されない	128
「プレビューウィンドウ」に映像が表示されない	
「プレビューウィンドウ」に異常表示したり、エラーメッセージが表示される	129
「プレビューウィンドウ」の映像がぎこちない	
「プレビューウィンドウ」の映像が荒い	130
最大デコードサイズを変更しても反映されない	131
プレビュー時に音がでない	

＜DV機器コントロール時＞

状態	参照ページ
DV機器のコントロールができない	132
DVメディアを最初まで巻き戻したのに、タイムコードの表示が「00:00:00:00」にならない	
バッチキャプチャの自動頭だし処理で、指定したプリロールタイム以上にDVメディアが送られてしまうことがある	133

<DV機器コントロール時>（続き）

状態	参照ページ
１フレームづつフレーム送り・戻しをしていても、タイムコードの値が飛ぶことがある	133
DV機器上で表示されているタイムコードとDVworks上で表示されているタイムコードが一致しない	134
DV機器がおかしな動きをする	

<キャプチャ時、書き戻し時>

状態	参照ページ
キャプチャしたAVIファイルがフレーム落ちしている 書き戻したビデオ画像がフレーム落ちしている	135
シーン検出キャプチャでシーンの検出が行われない	136
キャプチャ中、勝手にキャプチャ処理が終了してしまう	
DVメディアからDVストリームをAVIファイルへキャプチャできない	137
AVIファイルをDVメディアに書き戻せない	
書き戻し時にエラーメッセージが出たり、映像が正しく書き戻せない	138
キャプチャしたAVIファイルに音声が記録されていない	139
『MediaStudio Pro』で「スマートレンダリング」を行って作成したAVIファイルを、DV機器に書き戻ししようとすると、音声が途切れてしまう	140
キャプチャしたAVIファイルをメディアプレーヤーで再生すると、音声が途切れてしまう	

<DV機器全般の問題>

状態	参照ページ
あるDV機器で録画したDVメディアが、別のDV機器で読み込めないことがある	141

DV機器接続時

『DVworks』がDV機器を認識しない

DV機器の電源が入っていない

DV機器の電源を入れてください。

本製品とDV機器が正しくDVケーブルで接続されていない

DV機器が本製品に接続されていません。
DVケーブルで本製品とDV機器を正しく接続し直してください。

OSがDV機器の認識に失敗している

１度DV機器のDVケーブルを抜いてから再接続してみてください。

Windows起動後に、DV機器を接続してみてください。

DVworksをインストールする前に、DV機器を接続していたことが考えられます

DV機器を取り外した後、DVworksを一度削除（アンインストール）し、再度【『DVworks』をインストールする】(34ページ)を参照し、DVworksをインストールし直してみてください。
インストール後にDV機器は接続してください。

《アンインストール方法》

[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順にクリックし、「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックします。
表示されている「DVworks」をクリックし、［追加と削除］ボタンをクリックしてください。後は画面の指示に従ってください。

ドライバソフトが正常にインストールされていない	ドライバソフトを再インストールしてください。 **<再インストール手順>** ①デバイスマネージャで「NEC Firewarden ・ …」をクリックします。 ②削除ボタンで削除後、パソコンを一旦再起動します。 ③後は【ドライバをインストールする】（22ページ～。使用するOSに合わせて）を参照してドライバをインストールしてください。
以前のバージョンのDVworksで使用されていたドライバが認識されている	【確認しよう】（46ページ～。使用するOSに合わせて参照）を行います。イメージングデバイスに[Digital VCR]と表示されていたら、それを選択し、[削除]をクリックします。その後でケーブルを抜き差ししてください。

プレビュー時

「プレビューウィンドウ」自体が表示されない

プレビューウィンドウが隠れている

[表示]メニューから[固定レイアウト]を選んでください。（175ページ参照）。

「プレビューウィンドウ」に映像が表示されない

グラフィックアクセラレータがDirectDrawオーバーレイに対応していない

お使いのグラフィックアクセラレータがDirectDrawおよびDirectDraw オーバーレイ機能に対応しているか、メーカーにご確認ください。

本製品とDV機器が正しくDVケーブルで接続されていない

再度、付属のケーブルを本製品やDV機器から抜き差ししてみてください。

DV機器の電源が入っていない

DV機器の電源を入れてください。

DVメディアの再生位置が正しくない

[コントロールウィンドウ]にある巻戻し、早送りボタンを使って、再生位置を合わせてください（150ページ参照）。

プレビュー設定で映像を再生しない設定になっている

プレビュー画面で右クリックし、プロパティを選んで、「映像を再生する」をチェックしてください（147ページ参照）。

「プレビューウィンドウ」に異常表示したりエラーメッセージが表示される

グラフィックカードのオーバーレイ機能が正常に動作していない

プレビュー画面で右クリックし、プロパティを選んで、「映像を再生する」のチェックを外してください（147ページ参照）。
この設定で（映像は表示されない）改善される場合は、以下の点を確認してください。

- グラフィックカードに新しいバージョンのドライバが提供されている場合は、そちらに更新してみてください。
- Windowsの解像度・色数を低くしてみてください。
- プレビューウィンドウを右クリックし、「NTSC Half（360×240）」を選択（チェック）してみてください。（146ページ参照）
- [画面のプロパティ]→[設定]→[詳細]→[パフォーマンス]を変更してください。
  （「最大」を推奨しますが、問題が生じる場合は、「基本」、もしくは「なし」にしてください。）

「プレビューウィンドウ」の映像がぎこちない

プレビューフレームレートが低く設定されている

プレビュー画面で右クリックし、プロパティを選んで、「フレームレート」をより高い値に設定してみてください（147ページ参照）。ただし、「フレームレート」を高くすると、マシンパワーが不足している場合は、キャプチャ処理などでフレーム落ちが発生する場合があります。

プレビューデコードサイズが大きく設定されている

プレビュー画面で右クリックし、プロパティを選んで、「最大デコードサイズ」をより低い値（水平180画素など）に設定してください（147ページ参照）。

マシンパワーが不足している

プレビュー画像のデコード処理は、ソフトウェアDV Codecによって行われています。マシンパワーが不足していると、プレビュー画像のフレーム落ち、キャプチャしたAVIファイルのフレーム落ちなどが発生する場合があります。

AVIキャプチャ中です

AVIキャプチャ中は、AVIファイルのフレーム落ちを防ぐ事を最優先に処理を行います。従って、プレビュー表示の動きが荒くなる場合があります。

DVメディア書き戻し中です

DVメディア書き戻し中は、出力DVストリームのフレーム落ちを防ぐ事を最優先に処理を行います。従って、プレビュー表示の動きが荒くなる場合があります。

「プレビューウィンドウ」の映像が荒い

プレビュー設定でプレビューデコードサイズが小さく設定されている

プレビュー画面で右クリックし、プロパティを選んで、「最大デコードサイズ」をより高い値（水平720画素など）に設定してください（147ページ参照）。ただし、「最大デコードサイズ」が大きいと、キャプチャ処理などでフレーム落ちが発生する場合があります。

シーン検出中である

シーン検出中は、パソコンへの負荷を軽減するため、表示が荒くなりますが、動作上問題はありません。

最大デコードサイズを変更しても反映されない

プレビューウィンドウが、NTSC Half（360×240）サイズの時に「水平720画素」を指定している

「最大デコードサイズ」の設定は、プレビューウィンドウの実サイズ（この場合は360画素）以上の大きさに指定しても効果はありません。
プレビューウィンドウサイズを大きく（NTSC Full：720×480）してください。

プレビュー時に音がでない

サウンドカードがインストールされていない

サウンドカードを正しくインストールしてください。

オーディオミキサーの WAVE 出力設定がミュートされている、もしくは音量が低くなっている

Windowsのボリュームコントロールを起動し、「ライン入力」もしくは「ボリュームコントロール」のミュートにチェックが付いていないか確認します。チェックが付いていたら外してください。
「ライン入力」もしくは「ボリュームコントロール」が表示されていない場合は［オプション］→［プロパティ］を表示し、“表示するコントロール”にチェックを付けて、表示してください。
※ ご利用のパソコンによって表示される画面は異なります。詳しくはご利用のサウンドカードの取扱説明書をご参照ください。

プレビュー設定で音声を再生しないようになっている

プレビュー画面で右クリックし、プロパティを選んで、「音声を再生する」をチェックしてください（147ページ参照）。

DV機器コントロール時

DV機器のコントロールができない

本製品とDV機器が正しくDVケーブルで接続されていない

再度、付属のケーブルを本製品やDV機器から抜き差しを行ってみてください。

DV機器がビデオ再生モードになっていない

DV機器のモードをビデオ再生モードに設定してください。

DV機器の電源が入っていない

DV機器の電源を入れてください。

DV機器が正しく認識されていない

[コントロールウィンドウ]の[Option]ボタンで、「DV機器の状態を無視する」および「カメラデバイス」をチェックしてください（152ページ参照）。

DVメディアを最初まで巻き戻したのにタイムコードの表示が「00:00:00.00」にならない

DV機器の仕様です

DV機器の動作（モーターの回転）には、機械的な精度の限界があります。従って、DVメディア先頭の頭出しには、数フレーム程度の誤差が出てしまうことがあります。

バッチキャプチャの自動頭出し処理で、指定したプリロールタイム以上にテープが送られてしまうことがある

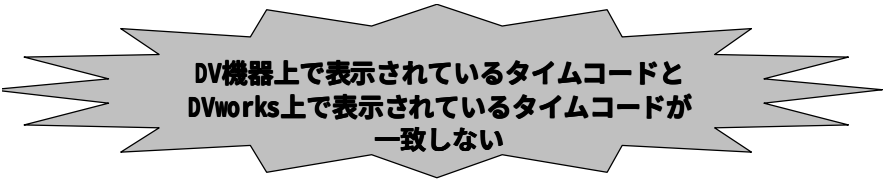
仕様です

パソコンがDVメディアのタイムコードを検出し、DV機器を止めるまでには若干のタイムラグ（時間的なズレ）があります。その間もDVメディアは移動するので、実際のプリロールタイムは指定されたものと厳密には一致しません。[コントロールウィンドウ]の[Option]ボタンで、「頭出しに高速送りを使用しない」をチェックすることによって、頭出し精度を改善できる可能性があります（152ページ参照）。

1フレームずつフレーム送り・戻しをしていても、タイムコードの値が飛ぶことがある

ドロップフレームタイムコード方式を使用しているため

NTSC方式のビデオ信号で一秒間に30フレームの映像としてタイムコードの記録を行うと、一時間あたり108フレーム、約3.6秒の誤差が生じます。
ドロップフレーム方式とは、その誤差を補正し実際の時間とタイムコードの値を一致させるための方法です。
具体的には、１時間分のタイムコードの中で00・10・20・30・40・50分を除く54分間それぞれの先頭2フレームを欠落（ドロップ）させて、合計108フレームの誤差を補正します。



DV機器とDVworksの間でタイムコード形式が一致していない

Dvworksではタイムコードをドロップフレーム形式で扱います。DV機器のタイムコード形式が変更できる場合は、タイムコード形式をドロップフレーム形式に設定してください（方法はDV機器の取扱説明書を参照してください）。

DVworks対応外のDV機器です

キャプチャ時、書き戻し時

キャプチャしたAVIファイルがフレーム落ちしている

書き戻したビデオ画像がフレーム落ちしている

ハードディスクドライブあるいはインターフェースボードの転送速度が不足している

DVストリームの転送には、最低でも一秒間に4.5メガバイト程度の転送速度を必要とします。
お使いのハードディスクドライブやインターフェースボードによっては、転送速度が不足する場合があります。
ハードディスクドライブおよびインターフェースボードを弊社推奨の物に交換してください（8ページ参照）。
また、内蔵ハードディスクにファイルを保存している場合は、DMAの設定も確認してください（16ページ参照）

CPU速度が不足している
（プレビュー表示ではDVストリームのソフトウェアデコード処理を行っています。この処理は非常にマシンパワーを消費するため、キャプチャ処理やDVメディア出力処理に悪影響を与える可能性があります。）

プレビュー画面で右クリックし、プロパティを選んで、「音声を再生する」のチェックを外してください（147ページ参照）。また、「フレームレート」や「最大デコードサイズ」を小さくしてみてください。

使用しているDVケーブルに問題がある

品質の低いDVケーブルや極端に長いケーブルを使用していると、データの送受信が正常に行われない場合があります。付属のケーブルまたは、品質の高いDVケーブルを使用してください。

シーンキャプチャでシーンの検出が行われない

DVworksの対応外のDV機器です

キャプチャ中、勝手にキャプチャ処理が終了してしまう

エラーメッセージが表示された場合は、その内容により、原因を切り分けてください。

メッセージ内容
「オーディオ周波数の変更を検出しました」

エラーが発生した時点のDVメディアで、データの乱れがあるか、その位置から音声記録周波数が変更されています。一つのAVIファイルで設定可能な音声周波数は一種類のみです。AVIキャプチャ中にDVメディアの音声周波数の設定が変わっていると、その時点でキャプチャを終了します。エラー発生時点をさけて、キャプチャしてください。

メッセージ内容
「著作権保護されたDVストリームが入力されました」

著作権保護ビットを検出すると表示されます。この映像はキャプチャできません。

メッセージ内容
「ドライブ容量がなくなりました」

DVworksのバッチキャプチャ処理では、書き込み中のハードディスクドライブ容量が不足している場合に、そのドライブの次のドライブ名をもつハードディスクドライブを書き込み先に変更してキャプチャ処理を続行します。
DVworksは、リムーバブルメディアを書き込み先と認識しない為、リムーバブルメディア以外の全てのハードディスクドライブの容量を使い切った時点でキャプチャ処理を終了します。

メッセージ内容
「フレーム落ちが発生しました」

DVキャプチャのモード設定画面で、[フレーム落ち発生時にキャプチャを中断する]がチェックされている場合で、フレーム落ちエラーが発生した場合に表示されます。
フレーム落ちの原因は、135ページ「キャプチャしたAVIファイルがフレーム落ちしている」を参照してください。

メッセージ内容
「入力信号が乱れています」

何らかの原因で入力DV信号が乱れている場合に表示されます。エラー発生点を避けてキャプチャしてください。

DVメディアからDVストリームをAVIファイルへキャプチャできない

コピープロテクトフラグの設定されたDVストリームを使用している

著作権保護の為、DVworksではコピープロテクトフラグの設定されているDVストリームをキャプチャすることはできません。

AVIファイルをDVメディアに書き戻せない

コピープロテクトフラグの設定されたDVストリームを含むAVIファイルである

著作権保護の為、DVworksではコピープロテクトフラグの設定されているDVストリームをDVメディアに書き戻すことはできません。

反応の遅いDV機器を使用している

一部のDV機器はDVストリームの入力に対する反応が遅く、入力DVストリームの認識と録画コマンドの受信タイミングによってはDVメディアへの書き戻しが正常に行われないことがあります。[コントロールウィンドウ]の[Option]ボタンで、「録画開始マージン」を大きくすることによって、書き戻し処理が正常に行える可能性があります（152ページ参照）。

DV入力やDVWorksに対応していないDV機器である

一部のDV機器は、DVストリームの入力に対応していないため、AVIファイルをDVメディアに書き戻すことができません。DV入力対応のDV機器を使用してください。

書き戻し時にエラーメッセージが出たり、映像が正しく書き戻せない

[コントロールウィンドウ]の[Option]ボタンで、「録画開始マージン」を大きくしてください（152ページ参照）。

『MediaStudio Pro』で編集後のファイルのみが正常に書き戻せない場合は、『MediaStudio Pro』でのファイル保存時のオプション設定に誤りがないかご確認ください。
（【編集した作品を保存しよう】106ページ参照）
例）「圧縮」タブでの「オーディオの属性」の設定に以下のいずれか以外を指定している場合は、［オーディオ］ボタンで以下のいずれかに設定し直してください。
（108ページの手順**5**参照）

- 「32.000kHz,16ビット,ステレオ」
- 「44.100kHz,16ビット,ステレオ」
- 「48.000kHz,16ビット,ステレオ」

※上記項目が表示されない場合は、『MediaStudio Pro』CD-ROM内の「ドライバをインストールする」→「NetShowツール」をインストールしてください。

また、「アドバンス」タブの設定で「ｵｰﾃﾞｨｵとﾋﾞﾃﾞｵのｲﾝﾀｰﾘｰﾌﾞ」にチェックを入れておいてください。
（107ページの手順**4**参照）

3	プレビューウィンドウで右クリックし、[プロパティ]より[映像を再生する]のチェックを外した状態でお試しください。映像は表示されませんが、パソコンへの負荷が軽減されるため、書き戻し時のトラブルが回避される場合があります。
	ご利用のハードディスクがIDE（ATAPI）タイプの場合、【DMAの確認】（16ページ）を参照して、DMAの設定を変更してみてください。
	ご利用のパソコンのBIOS設定に、[PCI Latency Timer(PCI Clocks)]という設定があれば、64に設定してみてください。 （BIOS設定画面の起動や操作詳細についてはパソコン本体の取扱説明書を参照してください。）

キャプチャしたAVIファイルに音声が記録されていない

	・DVメディア上の未録画領域に録画した ・記録データの乱れた領域に録画した
	DVメディアの未録画領域や記録データの乱れた領域をさけてキャプチャしてください。

『MediaStudio Pro』で「スマートレンダリング」を行って作成したAVIファイルを、DV機器に書き戻しようとすると、音声が途切れてしまう

以下を行ってみてください。

- 『MediaStudio Pro』のビデオ作成時の「オプション」→「アドバンス」での「ｵｰﾃﾞｨｵとﾋﾞﾃﾞｵのｲﾝﾀｰﾘｰﾌﾞの設定」にチェックを付け、「ｵｰﾃﾞｨｵﾃﾞｰﾀをﾊﾞｯｸﾞする間隔」を「１」に設定してみてください。
  （107ページの手順**4**参照）
- 書き戻すAVIファイルを、Windowsがインストールされているドライブ以外に作成してみてください。
- AVIファイルをATAPI以外のハードディスク（できればSCSI接続等の高速なドライブ）に作成してみてください。
- AVIの形式がGigaAVI形式ならば、AVIファイルと参照先データファイルを、それぞれ異なるドライブになるようにしてみてください。
- AVIファイルのあるドライブに対し、デフラグを実行してみてください。

キャプチャしたAVIファイルをメディアプレーヤーで再生すると、音声が途切れる

以下を行ってみてください。

『MediaStudio Pro』のタイムライン上に、そのAVIファイルを読み込みます。ビデオ作成時に「オプション」→「アドバンス」での「ｵｰﾃﾞｨｵとﾋﾞﾃﾞｵのｲﾝﾀｰﾘｰﾌﾞの設定」にチェックを付け、「ｵｰﾃﾞｨｵﾃﾞｰﾀをﾊﾞｯｸﾞする間隔」を「30」に設定してみてください。
（107ページの手順**4**参照）

DV機器全般の問題

あるDV機器で録画したテープが、別のDV機器で読み込めないことがある

DVメディアがLPモードで記録されている	
	LP（長時間）モードで記録されたDVメディアは、DV機器とDVメディアの間での相性問題が発生し易くなります。記録にはSP（標準）モードを使用することを推奨します。

リソースの変更方法

本製品と他のデバイスのリソースが競合もしくは共有(シェアリング)されていると正常に動作しない場合があります。
ここでは、リソース（主にIRQ）の変更方法について説明します。

	本製品を取り付けるPCIスロットを変更してお試しください。（取りつけるPCIスロットを変更することでリソースが変更される場合があります。）
	本製品を取り付けた状態で、14ページ【IRQの空きの確認】を行い、本製品に割り当てられているIRQが、他のデバイスでも使用されていないかをご確認ください。（IRQステアリングホルダという表記は、存在しても問題ありません。） 同じIRQを他のデバイスで使用している場合には、そのデバイスのIRQを変更するか、取り外す等してご確認ください。
	パソコン本体のBIOSのリソース設定を変更してみてください。（詳細は各マザーボードパソコン本体の取扱い説明書もご参照ください。） **参考（IRQの変更をするには？）** IRQの変更は、「デバイスマネージャ」上からは行えない事が多く、通常パソコン本体のBIOS設定から行います。 BIOSの設定方法は各メーカにより異なりますが、PCIスロット毎に任意のIRQを割当てられるタイプや、特定のIRQを予め予約設定にするなどというものがあります。詳細は各マザーボードパソコン本体の取扱説明書もご参照ください。
	次ページの手順に従って、本製品のリソースが他のデバイスと競合もしくは共有されていないか確認し、競合もしくは共有しているデバイスのリソースを変更します。 （本製品のリソースは変更できません。） （取り付けるPCIスロットを変更することでリソースが変更される場合があります。）

【IRQの空きの確認】14ページを行って、「GV-DVC2/PCI」と競合または共有しているデバイスがないか確認します。あれば以下に手順で競合もしくは共有しているデバイス側のリソースを変更してみてください。

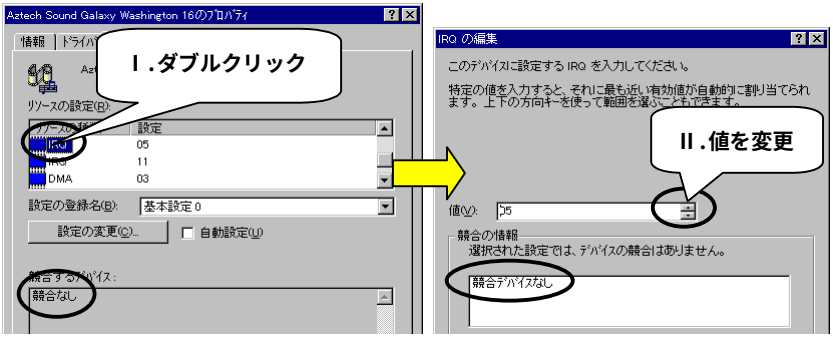
下記はWindows 98の例です。

①. 「ﾃﾞﾊﾞｲｽﾏﾈｰｼﾞｬ」を起動します。

②. 競合もしくは共有しているデバイスをダブルクリックします。

③. [ﾘｿｰｽ]タブをクリックします。

④. 以下のようにリソースを変更します。



[競合するデバイス]に[競合なし]と表示される場合もありますが、【競合先デバイスの確認】で競合していたので、上記左画面の[Ⅰ]をダブルクリックします。上記右画面の[Ⅱ]をクリックして[競合デバイスなし]となる値を選んで、[OK]をクリックしてください。

> パソコンの環境によってはリソースの変更(主にIRQ)ができない場合、パソコン本体(マザーボード)のBIOS設定で、PCI及びISAバスのIRQ割り当てを変更する必要があります。
> 詳細はパソコンメーカーへお問い合わせ頂くか、マザーボードの取扱説明書をご覧ください。（PCIスロットを変更することで、IRQが変更される場合があります。）

⑤. [OK]ボタンを数回押してコントロールパネルを終了すると、Windowsの終了確認画面が表示されるので、[はい]を押して、Windowsを終了します。
（パソコンの電源をOFFにしてください。）

⑥. リソースを変更したデバイス(インターフェイス)の設定をWindowsと合わせるため、ディップスイッチまたはジャンパスイッチで変更してください。
（詳細は、設定変更するデバイスの取扱説明書を参照してください。）

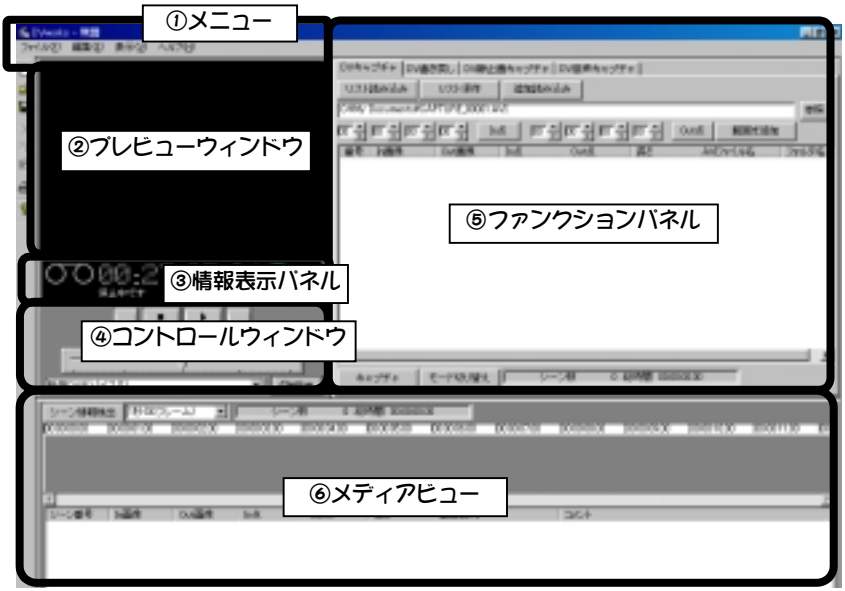
付2 DVworks（デーブイ　ワークス）リファレンス

ここでは、DVworksの詳細を説明します。

DVworksの画面構成・・・・・・・・・・・・・・・・ 145ページ
プレビューウィンドウ ・・・・・・・・・・・・・・ 146ページ
　プレビューウィンドウのプロパティ・・・・・ 147ページ
情報表示パネル ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 149ページ
コントロールウィンドウ ・・・・・・・・・・・・・ 150ページ
　Optionボタン・・・・・・・・・・・・・・・・・ 152ページ
ファンクションパネル（DVキャプチャ） ・・・・・ 155ページ
　キャプチャリストのメニュー・・・・・・・・・ 157ページ
　項目データの確認・修正・・・・・・・・・・・ 158ページ
　モード切り替えボタン・・・・・・・・・・・・ 159ページ
ファンクションパネル（DV書き戻し） ・・・・・・ 161ページ
　項目データの確認・修正（トリミング）・・・ 163ページ
ファンクションパネル（DV静止画キャプチャ） ・・ 165ページ
　連続キャプチャする場合の設定・・・・・・・・ 166ページ
　モード切り替えボタン・・・・・・・・・・・・ 166ページ
ファンクションパネル（DV音声キャプチャ） ・・・ 167ページ
　連続キャプチャする場合の設定・・・・・・・・ 168ページ
　モード切り替えボタン・・・・・・・・・・・・ 168ページ
メディアビュー ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 169ページ
　シーンリストのメニュー・・・・・・・・・・・ 170ページ
　シーン検出ボタン・・・・・・・・・・・・・・ 171ページ
メニュー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 173ページ
　［ファイル］メニュー・・・・・・・・・・・・ 173ページ
　［編集］メニュー・・・・・・・・・・・・・・ 174ページ
　［表示］メニュー・・・・・・・・・・・・・・ 175ページ
　［ヘルプ］メニュー・・・・・・・・・・・・・ 175ページ

DVworksの画面構成

DVworks 2.1の画面は、以下の６つの部分から構成されています。

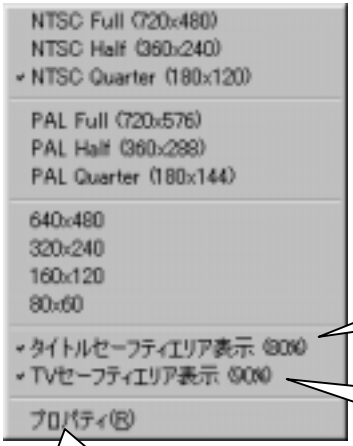


No	項目	説明	詳細
①	メニュー	メニューを表示します。プレビューウィンドウの横のツールバーにはよく使うアイコンが並んでいます。	173
②	プレビューウィンドウ	DV機器からの入力映像や書き戻し時の映像など、プレビュー表示が行われるウィンドウです。	146
③	情報表示パネル	DV機器・メディアに関する情報を表示するパネルです。	149
④	コントロールウィンドウ	DV機器をコントロールするためのボタンが配置されているウィンドウです。ウィンドウサイズは一定の大きさに固定されています。	150
⑤	ファンクションパネル	DVworksの映像・静止画・音声キャプチャ、DVメディアへの書き戻し機能に関する操作を行うためのパネルです。	155
⑥	メディアビュー	DVメディアの内容をシーン毎に情報表示させる領域です。 ※シーンとは、撮影時に録画ボタンのONからOFFにするまで記録される映像のことです。	169

プレビューウィンドウ

DV機器からの入力映像や書き戻し時の映像など、プレビュー表示が行われるウィンドウです。

プレビューウィンドウ上で右クリックすると、以下に示すメニューが表示されます。メニューでプレビューウィンドウの各種設定ができます。



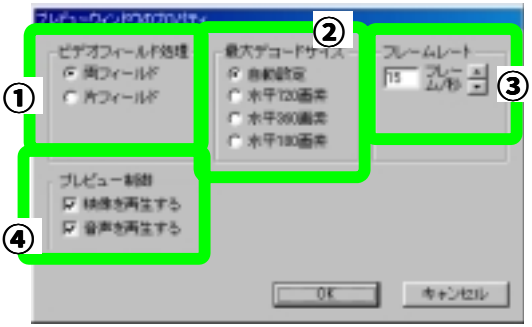
プレビューウィンドウのサイズをチェックした項目で示されるサイズに変更します。（[PAL…]は選択しないでください）

チェックすると、プレビューウィンドウ上にタイトルセーフティエリア（115ページ参照）を示す枠を表示します。

チェックすると、プレビューウィンドウ上にＴＶセーフティエリア（115ページ参照）を示す枠を表示します。

プレビューウィンドウに関する［プロパティ］画面を表示します。（次ページ参照）

プレビューウィンドウのプロパティ

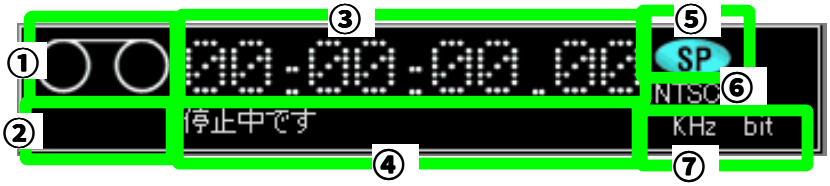


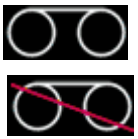
No.	項目	機能
①	**ビデオフィールド処理**	「プレビューウィンドウ」に表示するインターレースビデオ映像のフィールド処理方法を設定します。 **＜両フィールド＞　（初期設定）** 両フィールドの画像をインターリーブ処理します。 **＜片フィールド＞** 片方のフィールドのみを表示します。
②	**最大デコードサイズ**	実際にデコード処理を行う映像サイズを指定します。小さく設定すればプレビュー処理の負荷を軽減することができます。そのため、キャプチャ時にフレーム落ちが発生した場合に、デコードサイズを小さくするとフレーム落ちが軽減する場合があります。 **＜自動設定＞　（初期設定）** 自動的に最適な設定を行います。 **＜水平720画素＞　← 一番大きいサイズ** 水平720画素、DVストリームに含まれる全ての画素をデコードします。 **＜水平360画素＞** 水平360画素、水平画素数を1/2に間引いた形式でのデコードを行います。 **＜水平180画素＞　← 一番小さいサイズ** 水平180画素、水平画素数を1/4に間引いた形式でのデコードを行います。

No.	項目	機能
③	**フレームレート**	プレビュー画像のフレームレートを指定します。 NTSCビデオ信号が入力されている場合は最大30フレーム/秒、PALビデオ信号が入力されている場合は最大25フレーム/秒の指定を行えます。 **（初期設定：15フレーム/秒）** **大きくすると** プレビュー映像の品質が向上しますが、処理の負荷は増大します。 **小さくすると** プレビュー映像のフレーム数は落ちますが、処理の負荷は軽減されます。
④	**プレビュー制御**	**＜映像を再生する＞** チェックを外すと、入力されているDVストリームの映像の再生を行いません。そのため、処理の負荷は最も軽くなります。ただし、映像データ自体のキャプチャ処理は行われます。 **＜音声を再生する＞** チェックを外すと、入力されているDVストリームの音声トラックの再生を行いません。 ただし、音声データ自体のキャプチャ処理は行われます。

情報表示パネル

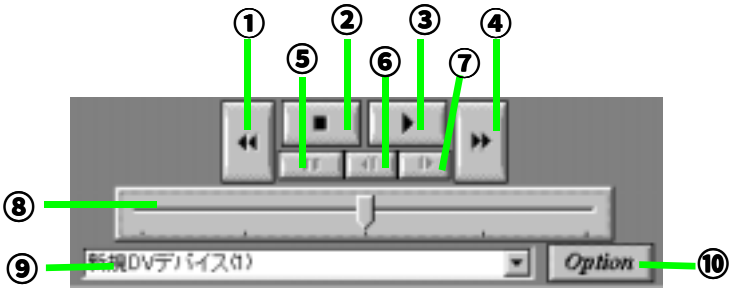
DV機器・メディアに関する情報を表示するパネルです。



No.	表示	内容
①	 **メディア挿入状態**	DV機器に現在メディアが挿入されているかどうかを表示します。 また、DVメディアの走行状態をアニメーション表示します。
②	 **メディアプロテクト表示**	DV機器に現在挿入されているメディアが録画（記録）禁止に設定されている場合に表示されます。
③	**現在のタイムコード**	DVデバイスに挿入されているメディアの現在のタイムコードを表示します。
④	**DVworksステータス**	DVworksの現在の処理内容を表示します。
⑤	 **DV機器記録時間モード**	DV機器の現在の記録時間モード（SP:標準 LP:長時間）を表示します。
⑥	**ビデオ信号形式**	接続しているDV機器がサポートしているビデオ信号形式を表示します。（NTSC　PAL）
⑦	**DV機器オーディオ記録周波数**	DV機器の現在のオーディオ記録周波数を表示します。DV機器から情報が取得できない場合は表示されません。 メディア再生中の場合は、DVストリームのオーディオ記録周波数を表示します。

コントロールウィンドウ

DV機器をコントロールするためのボタンが配置されているウィンドウです。

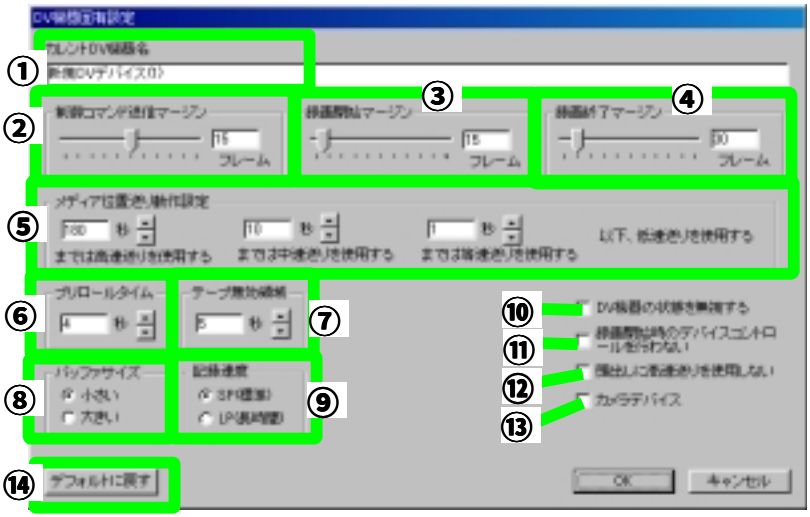


No.	ボタン	機能
①	**巻き戻しボタン**	**メディアが停止中の場合** 映像を表示せずにメディアを高速に巻き戻します。 **メディアが再生中の場合** 映像を表示しながらメディアを巻き戻します。 **メディアが一時停止中の場合** 映像を表示しながらスロー巻き戻しをします。
②	**ストップボタン**	DV機器のメディア再生、AVIファイルキャプチャ、DV機器への録画（書き戻し）を停止します。
③	**再生ボタン**	DV機器のメディアを再生します。
④	**早送りボタン**	**メディアが停止中の場合** 映像を表示せずにメディアを高速に早送りします。 **メディアが再生中の場合** 映像を表示しながらメディアを早送りします。 **メディアが一時停止中の場合** 映像を表示しながらスロー早送りをします。
⑤	**一時停止ボタン**	**メディアが再生中の場合** 再生を一時停止します。 **メディアが一時停止中の場合** 再生後、すぐに一時停止します。

No.	ボタン・項目	機能
⑥	 **フレーム戻し ボタン**	１フレーム前へとフレームを戻し、一時停止します。 ボタンをプレスする（押し続ける）ことによって、連続的にフレームを戻すことができます。
⑦	 **フレーム送り ボタン**	１フレーム先へとフレームを送り、一時停止します。 ボタンをプレスする（押し続ける）ことによって、連続的にフレームを送ることができます。
⑧	**シャトル スライダー**	DVメディア速度を調節するためのスライダーです。（Windows標準のスライダーコントロールと仕様が異なります。）シャトルスライダーはジョグモードとシャトルモードがあります。 **ジョグ機能を使用するにはホイールマウスが必要です。** **＜シャトル機能＞** シャトル機能ではスライダーのつまみを離すと常にスライダーの中央に戻ります。つまみをドラッグして移動させると、つまみの位置に応じた再生速度でDV機器のメディア再生を行います。 **（再生速度）** **中央が静止状態を表します。スライダー中央からつまみを右へ動かすほどDVメディア順方向への速度が大きくなります。スライダー中央からつまみを左へ動かすほどDVメディア逆方向への速度が大きくなります。** **＜ジョグ機能＞** ジョグ機能ではつまみが中央に固定されます。 ホイールマウスを使用している場合には、ホイールを前に回すと１フレーム戻し、後ろに回すと１フレーム送りを行います。
⑨	**DV機器選択 リスト**	本製品に複数のDV機器が接続されている場合に、操作するDV機器のリストを表示します。 リストには、DVworksが機器を初めて認識した時に登録された名前が表示されます。（53ページの手順**2**）
⑩	 **オプション ボタン**	「DV機器固有設定」画面を表示します。 （【Optionボタン】次ページ参照）

Optionボタン

現在対象としているDV機器の設定を行います。



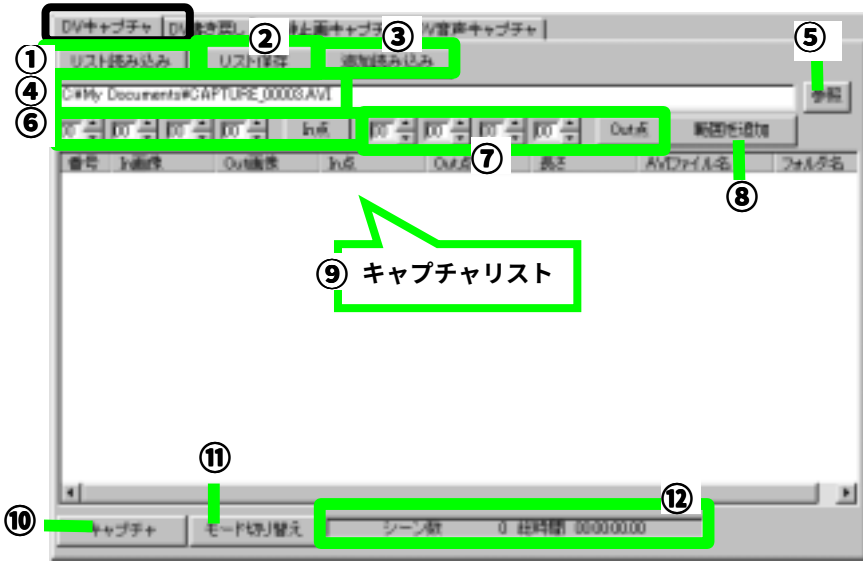
No.	項目	機能
①	**カレントDV機器名**	現在操作対象として選択されているDV機器の名前を示します。編集できます。
②	**制御コマンド送信マージン**	DV機器に連続してコマンドを発行する際の待ち時間を指定します。（単位はフレーム） **通常、初期設定から変更する必要はありません。**
③	**録画開始マージン**	DV機器のメディアにDVデータ出力を開始してから、実際に録画コマンドを発行するまでの待ち時間を指定します。（単位はフレーム） **通常、初期設定から変更する必要はありません。**
④	**録画終了マージン**	DV機器のメディアにDVデータ出力を終了してから、実際にメディア停止コマンドを発行するまでの待ち時間を指定します。（単位はフレーム） **通常、初期設定から変更する必要はありません。**

No.	項目	機能
⑤	**メディア位置送り動作設定**	バッチキャプチャやシーンジャンプ時のメディア頭出しを早めるための設定です。 設定は３つの数値で行います。 **＜一番左の数値＞** メディア現在位置と目標位置の時間差が、ここで指定されているよりも大きい場合にメディアの高速送りを使用します。 **＜中央の数値＞** メディア現在位置と目標位置の時間差が、ここで指定されているよりも大きく、かつ高速送り適用時間間隔よりも小さい場合にメディアの中速送りを使用します。 **＜一番右の数値＞** メディア現在位置と目標位置の時間差が、ここで指定されているよりも大きく、かつ中速送り適用時間間隔よりも小さい場合にメディアの低速送りを使用します。 それぞれの数値は常に高速送り時間＞中速送り時間＞低速送り時間という関係を保つように数値を自動的に制限します。
⑥	**プリロールタイム**	シーン検出キャプチャやタイムコードによるキャプチャを行うとき、指定されたキャプチャ開始点から何秒前へメディアを送るかを指定します。
⑦	**テープ無効領域**	シーン検出キャプチャやタイムコードによるキャプチャを行うとき、メディア先頭から何秒間までを処理しないかを指定します。 メディア先頭のデータが不正な場合にキャプチャ処理が誤動作しないようにします。
⑧	**バッファサイズ**	DVデータを扱うバッファのサイズを指定します。 **サイズを小さくすると** DV機器側のモニタによる表示とパソコン側の表示間のズレが小さくなりますが、DVデータを取りこぼしたり、書き戻しに失敗したりすることがあります。 **サイズを大きくすると** DVデータを取りこぼしにくくなりますが、DV機器側のモニタによる表示とパソコン側の表示間のズレが大きくなります。

No.	項目	機能
⑨	**記録速度**	接続されているDV機器の現在の記録時間モードを、SP（標準）,LP（長時間）で表示します。 接続されているDV機器が、外部機器からの記録時間モードの変更をサポートしている場合、ボタン操作が可能となり、記録時間モードを変更できます。
⑩	**DV機器の状態を無視する**	チェックを付けると、メディアのライトプロテクトと挿入状態を無視するようになります。
⑪	**録画開始時にデバイスコントロールを行わない**	チェックを付けると、DV機器への書き戻し開始時にDV機器をコントロールしなくなります。
⑫	**頭出しに高速送りを使用しない**	チェックを付けると、シーン検出やタイムコードキャプチャ時のメディア頭出し処理に、高速早送り・高速巻き戻しを使用しないようになります。DVメディア送り精度が向上する可能性があります。
⑬	**カメラデバイス**	チェックを付けると、接続DV機器をカメラとみなします。
⑭	**デフォルトに戻す**	DVworksインストール時の設定に戻します。

ファンクションパネル（DVキャプチャ）

[DVキャプチャ]タブが最前面になっているときのファンクションパネルです。キャプチャする項目は、メディアビューからドラッグしてキャプチャリストに登録することもできます。



No.	ボタン・項目	機能
①	**リスト読み込みボタン**	あらかじめ保存しておいた「キャプチャリストファイル」を読み込み、キャプチャリスト項目を表示します。初期設定時のフォルダは、My Documentsフォルダです。キャプチャリストファイルの拡張子は「BLS」です。
②	**リスト保存ボタン**	現在表示中のキャプチャリスト項目を「キャプチャリストファイル」として保存します。 保存時の初期設定のフォルダはMy Documentsフォルダです。キャプチャリストファイルの拡張子は「BLS」です。
③	**追加読み込みボタン**	別のキャプチャリストファイルを読み込み、現在表示中のキャプチャリストの項目に追加します。

No.	ボタン・項目	機能
④	**AVIファイルパス名**	リストに追加したいファイル名を表示します。
⑤	**参照**	AVIファイルを選択するためのファイル選択画面を開きます。
⑥	**In点（キャプチャ開始位置）**	バッチキャプチャ開始点をタイムコード形式で指定します。[In点]ボタンはタイムコードによるキャプチャを指定するときに使います。
⑦	**Out点（キャプチャ終了位置）**	バッチキャプチャ終了点をタイムコード形式で指定します。OUT点を無制限指定（制限の無い指定）したい場合は、OUT点のタイムコード値のすべてに「0」（ゼロ）を入力すれば設定されます。 [Out点]ボタンはタイムコードによるキャプチャを指定するときに使います。
⑧	**範囲を追加ボタン**	IN点およびOUT点で設定されたキャプチャ領域を、キャプチャリストに追加します。タイムコードによるキャプチャを行うときに使います。
⑨	**キャプチャリスト**	キャプチャリストは、登録されているキャプチャ項目のデータを列挙する領域です。 メディアビュー（169ページ参照）からドラッグすることもできます。 キャプチャ項目ごとに表示される情報は、項目番号、In画像、Out画像、In点タイムコード、Out点タイムコード、 長さ、 AVIファイル名、 フォルダ名です。 タイトル行をドラッグすることで各情報の表示順を変えたり、表示幅を変更することができます。
⑩	**キャプチャボタン**	キャプチャリストに登録された情報でキャプチャを開始します。キャプチャ開始時に、リスト内のキャプチャ項目の検査もします。
⑪	**モード切り替えボタン**	「DVキャプチャモード設定」画面を表示します。 （【モード切り替え】ボタン】159ページ参照）
⑫	**キャプチャリスト情報**	キャプチャ項目登録数、全項目をキャプチャすると仮定した場合の総キャプチャ時間を表示します。

参考

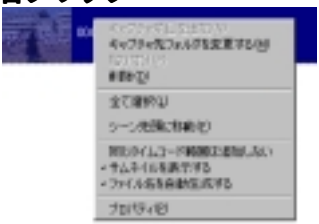
キャプチャリスト項目を選択した状態でメインフレームウィンドウの編集メニューでの切り取り・コピー・貼り付けを使って、キャプチャ項目を追加・削除することもできます。

キャプチャリストのメニュー

キャプチャリスト内で右クリックすると、以下のようなメニューが表示されます。クリック位置で使用できる機能が異なります。

●キャプチャ項目がない箇所で右クリック

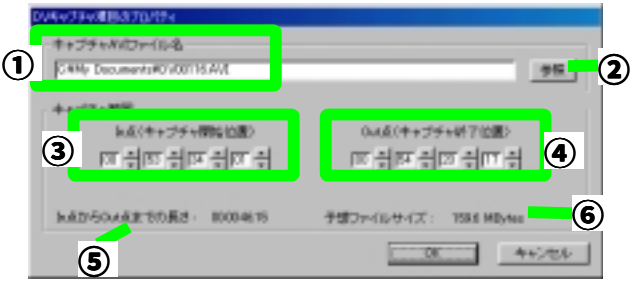
●キャプチャ項目上で右クリック



メニュー項目	機能
キャプチャ項目を追加	「DVキャプチャ項目の追加」画面を表示し、キャプチャ項目を追加することができます。
キャプチャ先フォルダを変更する	選択しているキャプチャ項目のキャプチャ先フォルダ名を変更することができます。
貼り付け	メディアビュー上でコピーしたキャプチャ項目をを貼りつけます。
削除	選択しているキャプチャ項目を削除します。
全て選択	キャプチャリスト内の全てのキャプチャ項目を選択状態にします。
シーン先頭に移動	その時点で選択しているシーンのIN点へメディア位置を移動させます。
同じタイムコード範囲は追加しない	キャプチャリストに項目を追加する際、既にリスト中に同じ範囲のタイムコードが設定された項目が存在している時には項目追加を行いません。
サムネイルを表示する	キャプチャリストに開始と終了のサムネイル画像を表示します。ただし、サムネイル画像が表示されるのはメディアビューのシーンリストから登録された項目のみで、それ以外のときは黒一色です。
ファイル名を自動生成する	［範囲を追加］ボタンでキャプチャ項目を追加した後、次のキャプチャ先ファイル名を自動的に設定するようになります。
プロパティ	「DVキャプチャ項目のプロパティ」画面を表示します。（次ページ参照）

項目データの確認・修正

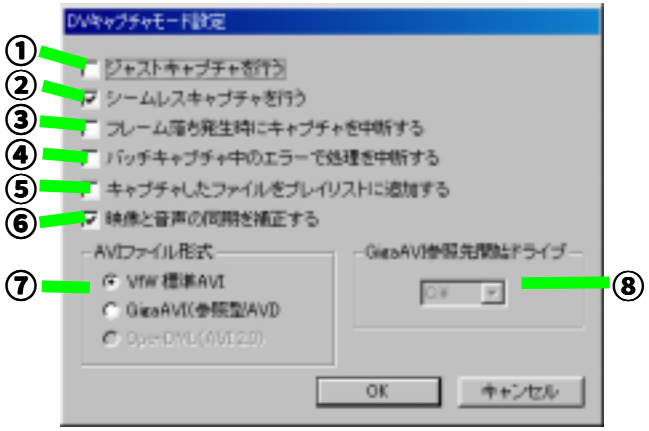
キャプチャ項目を右クリックしてメニュー内の「プロパティ」を選択、あるいはキャプチャ項目をダブルクリックすると、そのキャプチャ項目のデータの確認・修正を行うことができます。右クリックしたメニュー内の「キャプチャ項目を追加」を選択した場合には、ファイル名以外のデータが何も設定されていない画面が表示されます。



No.	項目	機能
①	キャプチャ先AVIファイル	このキャプチャ項目をキャプチャした場合、設定されるAVIファイルのファイルパス名を指定します。
②	参照ボタン	キャプチャ先AVIファイルを選択するためのファイル選択画面を開きます。
③	In点（キャプチャ開始位置）	この項目のキャプチャ開始点をタイムコード形式で指定します。
④	Out点（キャプチャ終了位置）	この項目のキャプチャ終了点をタイムコード形式で指定します。Out点無制限指定のされたキャプチャ項目の場合は設定できません。
⑤	In点からOut点までの長さ	現在設定されているIn点とOut点の間の時間の長さをタイムコード形式で表示します。キャプチャ範囲無制限の場合は「無制限」と表示されます。
⑥	予想ファイルサイズ	現在設定されているIn点とOut点の間をキャプチャした場合に生成されるAVIファイルの予想ファイルサイズを表示します。キャプチャ範囲無制限指定の場合は「不確定」と表示されます。

モード切り替えボタン

「モード切り替え」ボタンをクリックすると、以下の「DVキャプチャモード設定」画面が表示されます。

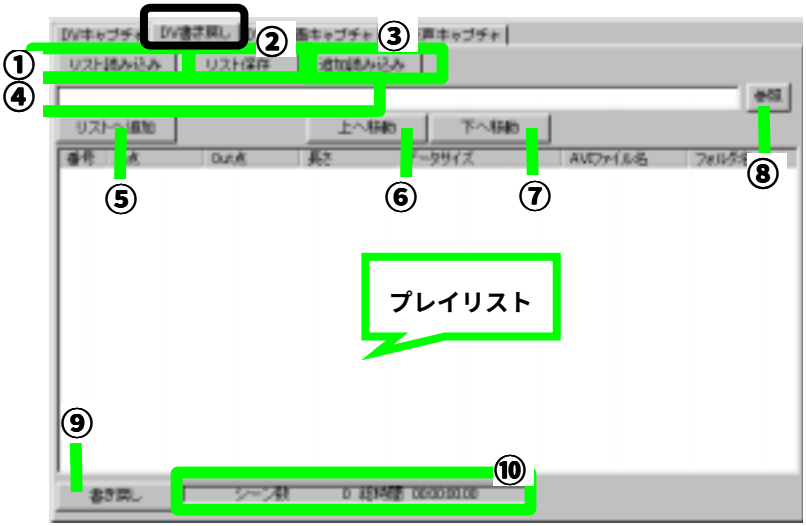


No.	項目	機能
①	**ジャストキャプチャを行う**	チェックを付けると、DV機器からのキャプチャ処理時にジャストキャプチャを行います。（77ページ参照）ジャストキャプチャとは、キャプチャ開始時のメディア位置から１フレームの誤差もなくキャプチャを開始する機能です。
②	**シームレスキャプチャを行う**	チェックを付けると、DV機器からのキャプチャ処理時にシームレスキャプチャを行います。（179ページ参照）シームレスキャプチャとは、ファイルとファイルの間を１フレームの途切れもなくキャプチャを続行する機能です。
③	**フレーム落ち発生時にキャプチャを中断する**	チェックを付けると、DV機器からのキャプチャ処理中に１フレームでもキャプチャし損なった場合、直ちにキャプチャ処理を終了します。
④	**バッチキャプチャ中のエラーで処理を中断する**	チェックを付けると、DV機器からのバッチキャプチャ処理中にディスク入出力エラー以外のエラー（音声記録周波数変更の検出、コピープロテクション信号の検出）が発生した場合にもバッチキャプチャ処理を中断します。

No.	項目	機能
⑤	**キャプチャしたファイルをプレイリストに追加する**	チェックを付けると、キャプチャしたファイルをプレイリスト（DV書き戻しのリスト）に追加登録します。
⑥	**映像と音声の同期を補正する**	チェックを付けると、映像と音声の同期をとりながら、キャプチャを行います。
⑦	**AVIファイル形式**	**＜VfW標準AVI＞** チェックを付けると、キャプチャ先AVIファイルの形式としてVfW（Video for Windows）標準AVIファイルを選択します。（179ページ参照） **＜GigaAVI（参照型AVI）＞** チェックを付けると、キャプチャ先AVIファイルの形式としてGigaAVI形式を選択します。（179ページ参照） **＜OpenDML（AVI2.0）＞** チェックを付けると、キャプチャ先AVIファイルの形式としてOpenDML形式を選択します。 現在のバージョンでは常に無効となっています。
⑧	**GigaAVI参照先開始ドライブ**	ここでGigaAVIの参照先データファイルの格納を開始するドライブを指定します。「GigaAVI（参照型AVI）」にチェックが付いていない場合は無効です。 **※参照先ドライブは、インデックスファイルとは別ドライブにすることをおすすめします。**

ファンクションパネル（DV書き戻し）

[DV書き戻し]タブが最前面になっているときのファンクションパネルです。DVメディアへの書き戻しを行う際に使用されるプレイリストを設定するパネルです。複数のAVIファイルを書き戻しする際の書き戻し順序を指定します。書き戻す項目は、エクスプローラからAVIファイルをドラッグして登録するか、[参照]ボタンを押してファイル名を指定し、[リストへ追加]ボタンをクリックして登録します。



No.	ボタン・項目	機能
①	**リスト読み込みボタン**	あらかじめ保存しておいた「プレイリストファイル」を読み込み、プレイリストに表示します。 初期設定時のフォルダは、My Documentsフォルダです。キャプチャリストファイルの拡張子は「PLS」です。
②	**リスト保存ボタン**	現在表示中のプレイリスト項目を「プレイリストファイル」として保存します。 初期設定時のフォルダは、My Documentsフォルダです。キャプチャリストファイルの拡張子は「PLS」です。

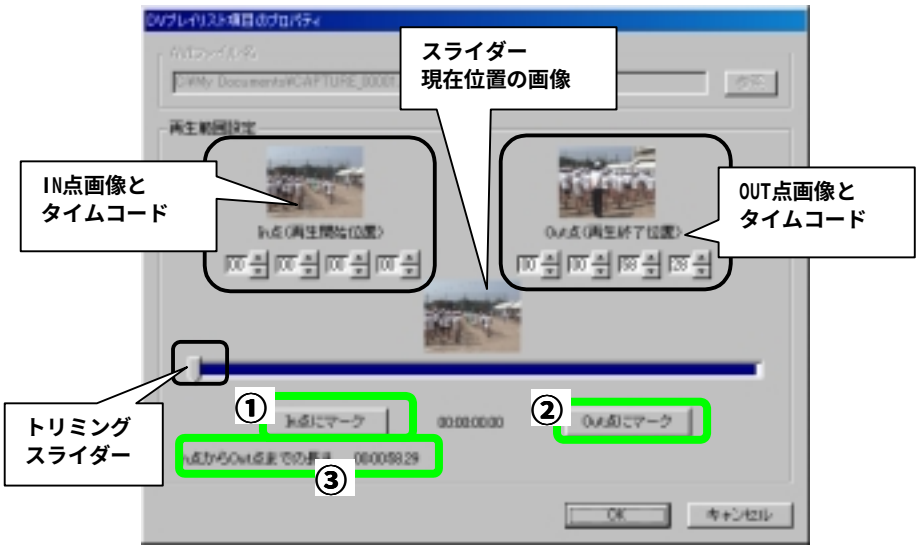
No.	ボタン・項目	機能
③	**追加読み込みボタン**	別のキャプチャリストファイルを読み込み、現在表示中のキャプチャリストの項目に追加します。
④	**ファイル名エディットボックス**	ここにファイル名を指定し、以下の「⑤リストへ追加ボタン」で項目を追加することができます。（ファイルは既に存在するファイル名を指定する必要があります。）
⑤	**リストへ追加ボタン**	ファイル名エディットボックスで指定されているAVIファイルをプレイリストに追加します。ただし、もしプレイリストに既にプレイリスト項目が指定されていた場合には、それらのAVIファイルの音声記録周波数とAVIファイル形式が一致していなければプレイリストに追加することはできません。
⑥	**上へ移動ボタン**	その時点に選択していたプレイリスト項目の位置を１つ分上に移動させます。
⑦	**下へ移動ボタン**	その時点に選択していたプレイリスト項目の位置を１つ分下に移動させます。
⑧	**参照ボタン**	ファイル名エディットボックスに表示するファイルを選択します。
⑨	**書き戻しボタン**	プレイリストに登録された情報で書き戻しを開始します。
⑩	**プレイリスト情報**	プレイリストの情報をリアルタイムに反映した形で表示します。表示される情報は、書き戻し項目登録数、全項目を書き戻すと仮定した場合の総時間です。

参考

プレイリスト項目を選択した状態でメインフレームウィンドウの編集メニューでの切り取り・コピー・貼り付けを使って、DVメディアレイリスト項目を追加・削除することもできます。

項目データの確認・修正（トリミング）

プレイリスト項目を右クリックしてメニュー内の「プロパティ」を選択、あるいはプレイリスト項目をダブルクリックすると、そのプレイリスト項目の書き戻し範囲の確認・修正を行うことができます。



開始位置と終了位置を調節して、前後の余計な部分を切り取って書き戻すことができます。（トリミング機能）開始位置は終了位置よりも後には指定できません。また、終了位置は開始位置より前に指定することはできません。

※トリミング設定は、実際のAVIファイル自体には影響を与えません。

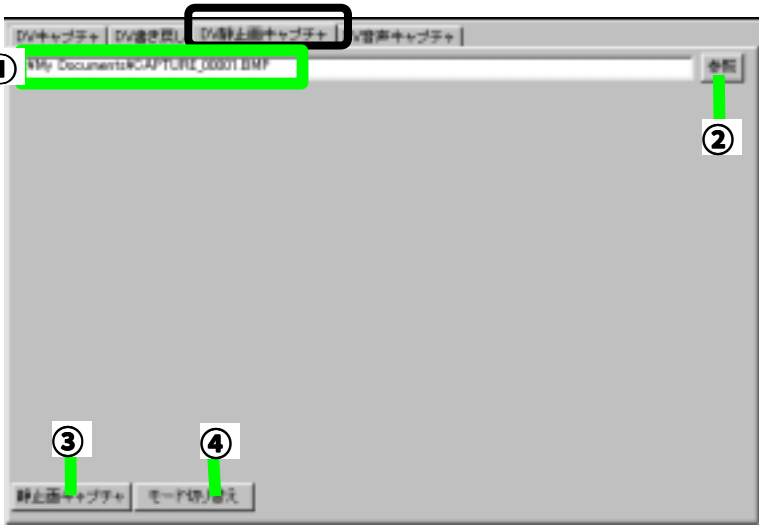
No.	ボタン・項目	機能
①	In点にマーク	トリミングスライダーの現在の位置をIn点として登録します。
②	Out点にマーク	トリミングスライダーの現在の位置をOut点として登録します。
③	In点からOut点までの長さ	AVIファイルの再生時間をタイムコード形式で表示します。既にトリミングが成されている場合は、その状態での再生時間を表示します。

プレイリスト項目を右クリックしたメニュー内の「AVIファイルを追加」を選択した場合、あるいはリスト余白部分をダブルクリックした場合には、ファイルを選択できる画面が表示されます。

項目	機能
AVIファイル	このプレイリスト項目で再生するAVIファイルのファイルパス名を指定します。

ファンクションパネル（DV静止画キャプチャ）

[DV静止画キャプチャ]タブが最前面になっているときのファンクションパネルです。DV機器から静止画をキャプチャする際に使用するパネルです。



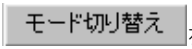
No.	ボタン・項目	機能
①	**ファイル名エディットボックス**	キャプチャした静止画を保存するファイル名です。「ファイル名を自動生成する」モード（次ページ参照）になっていた場合には「CAPTURE_00001.BMP」から始まり、後半の五桁整数値を自動的に加算していきます。
②	**参照ボタン**	ファイル名エディットボックスに表示するファイルを選択します。
②	**静止画キャプチャボタン**	クリックした時点でプレビューウィンドウに表示されている画像を720x480 24bitRGBカラーの画像として保存します。
③	**モード切り替えボタン**	「静止画キャプチャ設定」画面を表示します。（次ページ参照）

連続キャプチャする場合の設定

静止画キャプチャパネル上で右クリックすると、以下のメニューが表示されます。

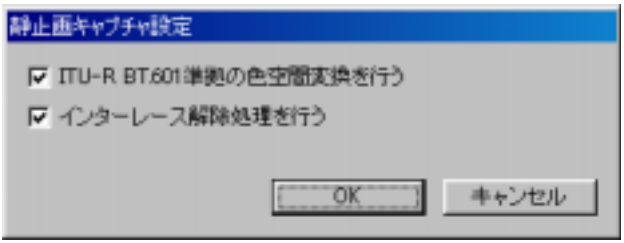
「ファイル名を自動生成する」にチェックすると、静止画ファイルキャプチャ時には「CAPTURE_00001.BMP」から始まり、後半の五桁整数値を自動的に加算したファイル名を新しく設定します。
チェックした場合、「ファイル名エディットボックス」は無効になります。

モード切り替えボタン



をクリックすると以下の画面が表示されます。

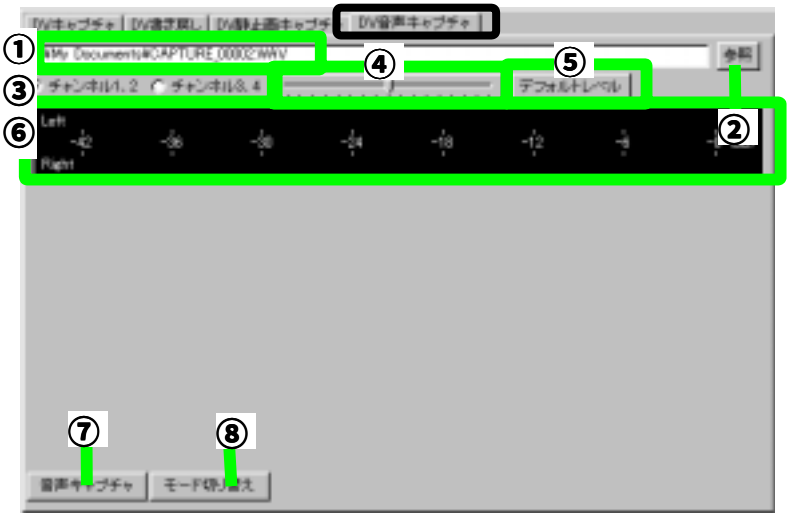
※通常は、変更する必要はありません。



項目	機能
ITU-R BT.601準拠の色空間変換を行う	チェックを付けると、DVデータを静止画像に変換する際の色空間変換方式を「ITU-R BT.601規格」に準拠するようにします。
インターレース解除処理を行う	DVのインターレース方式の画像をノンインターレース方式に近い画像に変換します。

ファンクションパネル（DV音声キャプチャ）

[DV音声キャプチャ]タブが最前面になっているときのファンクションパネルです。DV機器から音声のみをキャプチャする際に使用するパネルです。



No.	ボタン・項目	機能
①	**ファイル名エディットボックス**	キャプチャした音声を保存するファイル名です。「ファイル名を自動生成する」モード（次ページ参照）になっていた場合には「CAPTURE_00001.WAV」から始まり、後半の五桁整数値を自動的に加算していきます。
②	**参照ボタン**	ファイル名エディットボックスに表示するファイルを選択します。
③	**チャンネル選択**	キャプチャするチャンネルを選択します。
④	**ボリュームレベル**	キャプチャする音声のボリュームレベルを指定します。つまみを右方向にスライドすると大きくなります。左方向にスライドすると小さくなります。
⑤	**デフォルトレベルボタン**	キャプチャする音声のボリュームレベルをデフォルト値に戻します。
⑥	**音声レベル**	プレビューウィンドウで再生中のときやキャプチャ中のとき、音声のレベルを表示します。

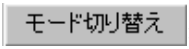
No.	ボタン・項目	機能
⑦	**音声キャプチャボタン**	音声キャプチャを開始します。
⑧	**モード切り替えボタン**	「DV音声キャプチャモード設定」画面を表示します。

連続キャプチャする場合の設定

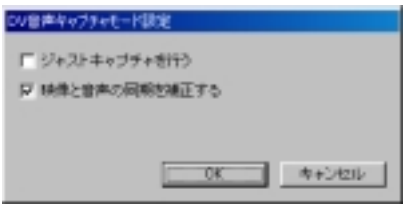
音声キャプチャパネル上で右クリックすると、以下のメニューが表示されます。

「ファイル名を自動生成する」にチェックすると、音声キャプチャ時には「CAPTURE_00001.WAV」から始まり、後半の五桁整数値を自動的に加算したファイル名を新しく設定します。チェックした場合、「ファイル名エディットボックス」は無効になります。

モード切り替えボタン



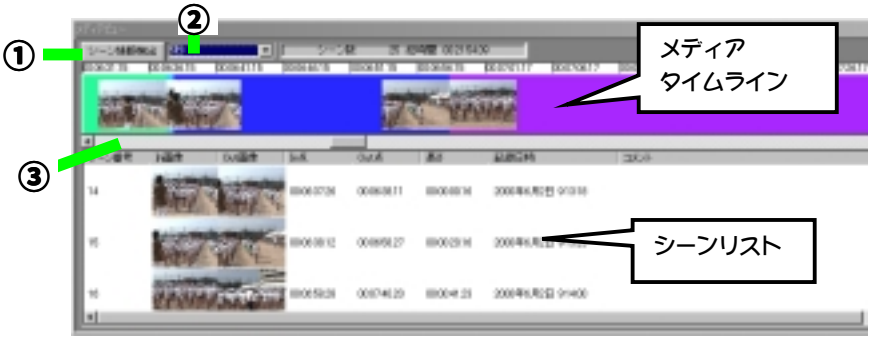
をクリックすると以下の画面が表示されます。



項目	機能
ジャストキャプチャを行う	チェックを付けると、DV機器からのキャプチャ処理時にジャストキャプチャを行います。 ジャストキャプチャとは、キャプチャ開始時のメディア位置から１フレームの誤差もなくキャプチャを開始する機能です。
映像と音声の同期を補正する	チェックを付けると、映像と音声の同期をとりながら、キャプチャを行います。通常はチェックを付けておいてください。

メディアビュー

メディアの内容を、シーンのIn/Out点をサムネイル画像等で表示します。シーンはシーンリスト上でIn/Out点のタイムコードに従って順番に1から始まる通し番号が付けられます。



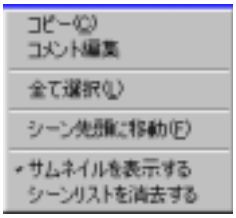
参考

1. **サムネイル画像とは、メディアタイムライン上での動画データの画像サンプルを縮小表示したものです。サムネイルの基本サイズは80x60です。**
2. **メディアタイムライン上のシーンは、シーンは順に以下のように色分けされて表示されます（青→紫→赤→橙→黄→緑→水色　　以後、青に戻る）。**

No.	ボタン・項目	機能
①	**シーン情報検出**	［シーン検出］画面を表示し、シーンの検出を行います。（【シーン検出ボタン】171ページ参照）
②	**スケール切り替え**	メディアタイムラインの表示縮尺を変更します。検出する映像に合わせて指定してください。 （初期設定は１秒30フレーム）
③	**横スクロールバー**	メディアタイムラインの表示位置を変更します。スクロールバーの１単位量がタイムラインスケールに相当します。例えば、タイムラインスケールが30(fps)の時にスクロールバーを１単位量移動させると、タイムライン表示は30フレーム移動します。

シーンリストのメニュー

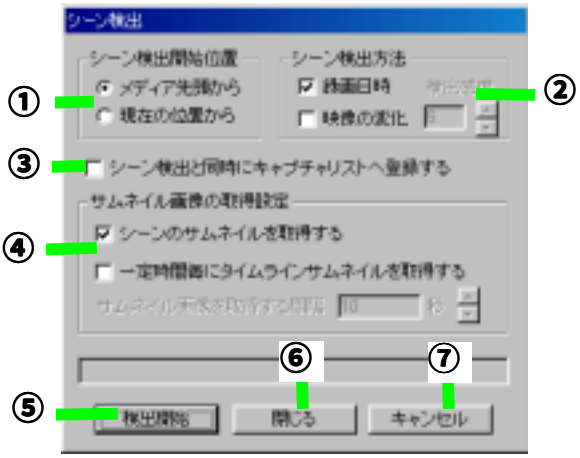
シーンリスト項目の右クリックで以下のメニューが表示されます。



項目	機能
コピー	その時点で選択されているシーン項目がDVworksシーンインデックスデータとしてクリップボードにコピーされます。コピーされたシーン項目はキャプチャリストを右クリックし、メニュー内の［貼り付け］をクリックして登録できます。
コメント編集	以下の画面が開き、選択シーンのコメントを編集することができます。
全て選択	その時点でシーンリストに登録されている全てのシーンが選択状態となります。
シーン先頭に移動	その時点で選択しているシーンのIn点へメディア位置を移動させます。
サムネイルを表示する	チェックを付けると、シーンリストのカラムに「In点画像」「Out点画像」が追加され、このカラムに対応するシーンのIn点のサムネイル画像、Out点のサムネイル画像が表示されます。
シーンリストを消去する	シーンリストの項目全てを削除し、シーンリストおよびキャプチャリストを初期化します。

シーン検出ボタン

シーン情報検出 をクリックすると以下の画面が表示されます。



No.	項目	機能
①	**シーン検出開始位置**	**メディア先頭から始める** シーンの検出をメディアの先頭から開始します。シーン検出開始時にメディア位置がメディア先頭でない場合、自動的にメディアの巻き戻しを行います。 **現在の位置から始める** 現在のメディア位置からシーンの検出を開始します。
②	**シーン検出方法**	**録画日時** 録画ボタンを押した部分から録画日時の情報を読み取り、録画日時が1秒以上飛んでいる部分をシーンの切れ目と判断します。標準で設定されているシーン検出方法です。 **映像の変化** チェックを付けると、映像に大きな変化（色合い・明るさ等）があった場合、その部分をシーンの切れ目と判断します。検出感度を高くすればするほど、変化を検出しやすくなります。

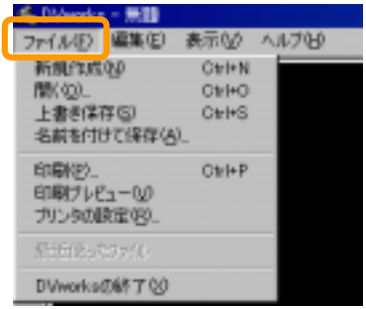
No.	項目	機能
③	**検出と同時にバッチキャプチャリストへ登録する**	チェックを付けると、シーンを検出した時点でそのシーンをキャプチャリストへも登録します。
④	**サムネイル画像の取得設定**	**シーンのサムネイルを取得する** チェックを付けると、シーンのIn・Out点の１フレーム分の画像をサムネイルとして取得します。 **一定時間毎にサムネイルを取得する** チェックを付けると、シーンのIn・Out点の画像だけでなく、以下の「サムネイル画像を取得する間隔」で指定された時間毎にサムネイル画像を取得する様になります。 **サムネイル画像を取得する間隔** 一定時間毎にサムネイルを取得する場合の時間間隔を指定します。単位は秒です。
⑤	**検出開始**	シーンの検出を開始します。処理中は［キャンセル］ボタンをクリックすれば中断できます。
⑥	**閉じる**	現在の「シーン検出」画面の設定を保存してから画面を閉じます。
⑦	**キャンセル**	「シーン検出」画面の設定を「シーン検出」画面を開いた時点に戻してから、画面を閉じます。

メニュー

DVworksには、［ファイル］、［編集］、［表示］、［ヘルプ］の４つのメニューがあります。

［ファイル］メニュー

「ファイル」メニューは、プロジェクトファイルの新規作成、保存等を行うための項目があります。プロジェクトファイルとは検出したシーン情報やキャプチャリスト、プレイリストなどの内容を保存しておくファイルのことです。プロジェクトを保存しておくことにより、作業を中断したときでも、すぐに再開することができます。



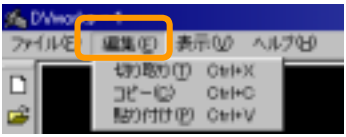
メニュー項目	機能
新規作成	新規のプロジェクトを開きます。アイコンメニューの と同じです。
開く	指定したプロジェクトファイル開くことができます。アイコンメニューの と同じです。
上書き保存	現在編集中のプロジェクトの内容を上書き保存します。アイコンメニューの と同じです。
名前を付けて保存	現在編集中のプロジェクトの内容を、新しい名前を付けたプロジェクトファイルへと保存します。

メニュー項目	機能
印刷	現在のメディアタイムラインの内容を印刷します。 印刷される内容は、メディアタイムラインに保持されているメディアのインデックス情報・クリップIn/Out点情報・クリップ長・In/Out点サムネイル画像をリストにしたものです。
印刷プレビュー	実際に印刷されるイメージのプレビュー画像を表示します。
プリンタの設定	プリンタの設定画面でプリンタの設定を行います。
DVworksの終了	DVworksを終了します。 何の変更も加えられていないプロジェクトが開かれているならば、そのまま終了します。 編集中のプロジェクトが開かれているならば、そのプロジェクトの保存を行うかどうかを確認してからDVworksを終了します。

［編集］メニュー

編集メニューでの編集操作対象となるアイテムは、以下の通りです。

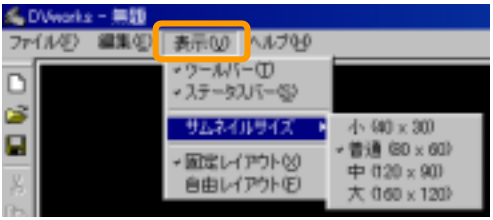
- バッチリスト項目
- プレイリスト項目
- シーンリスト項目



メニュー項目	機能
切り取り	現在選択されている項目をクリップボード上にコピーし、選択された項目自体は削除します。 切り取りの対象とならない項目が選択されている場合、このメニュー項目は無効化されます。
コピー	現在選択されている項目をクリップボード上にコピーします。 コピーの対象とならない項目が選択されている場合、このメニュー項目は無効化されます。
貼り付け	現在選択されている項目にクリップボードの内容を転送します。貼り付けの対象とならない項目が選択されている場合、このメニュー項目は無効化されます。

［表示］メニュー

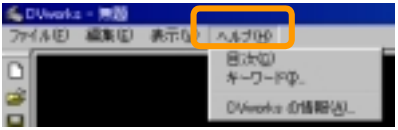
ツールバー、ステータスバーの表示・非表示を選択します。チェックマークの付いている項目が選択済みです。



メニュー項目	機能
ツールバー	ツールバー（標準では、DVworksウィンドウ左端にドッキングし、アイコンの並んでいるバー）の表示・非表示を選択します。
ステータスバー	ウィンドウ下端のステータスバーの表示・非表示を選択します。
サムネイルサイズ	メディアビュー・キャプチャリスト・プレイリストのサムネイルサイズを、 小（40×30）、普通（80×60）、中（120×90）、大（160×120）から選択します。
固定レイアウト	DVworksウィンドウレイアウトを標準のものに固定します。
自由レイアウト	DVworksウィンドウレイアウトを自由に変更できるようにします。

［ヘルプ］メニュー

ヘルプに関するメニューを表示します。



メニュー項目	機能
目次	ヘルプの目次を表示します。
キーワード	ヘルプのキーワード入力画面を表示します。
DVworksの情報	DVworksのバージョン情報などを表示します。

付3 DV機器からの映像をなめらかに表示するには

本製品に搭載したソフトウェアDVコーデックでも高品質で高速な映像再生ができますが、弊社製ビデオキャプチャボード『GV-VCPシリーズ』や『GV-BCTVシリーズ』と併用する事でDV機器からのビデオ映像を利用したオーバーレイ表示が行えます。
CPUの負荷を軽減し、フルモーションの表示が可能です。

注意

GV-VCPシリーズやGV-BCTVシリーズと併用する場合は、DVworksのプレビューウィンドウを右クリックし、[プロパティ]の「映像を再生する」のチェックを外してください。
（【プレビューウィンドウのプロパティ】147ページ参照）

付4

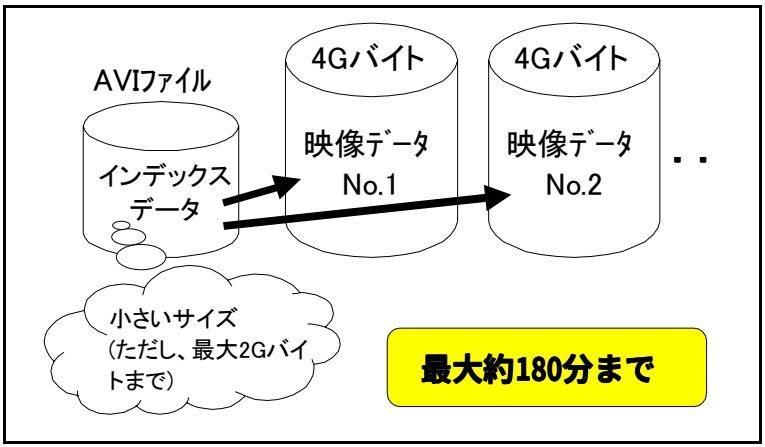
2G以上のAVIファイルを扱うには

AVIファイルはVideo for Windowsの仕様制限により、ファイルサイズが2Gバイトまでとなっています。
DVの映像データ（約3.6Mバイト/秒）の場合、このファイル制限内で記録できる時間は約9分30秒となります。
参照型AVI方式(GigaAVIフォーマット)は、この制限を回避し2Gバイト以上の長時間AVIファイル（最大で約180分）を実現するために弊社が開発した方式です。

GigaAVI フォーマット	今までの AVIフォーマット
最大約180分	最大約9分30秒

●参照型AVI方式

圧縮した映像データ部分（複数）と、その映像データファイルの参照先パス（インデックスデータ）を格納したAVIファイルから構成されています。



インデックスデータファイル

外部に作成する映像データの参照先のみを格納したファイルです。
参照先の映像データファイルが増える度に参照先パスを追加していきます。映像データと比較すると非常に小さいので大量のインデックスを持つことができます。ただし、最大2Gバイトの制限があります。

映像データファイル

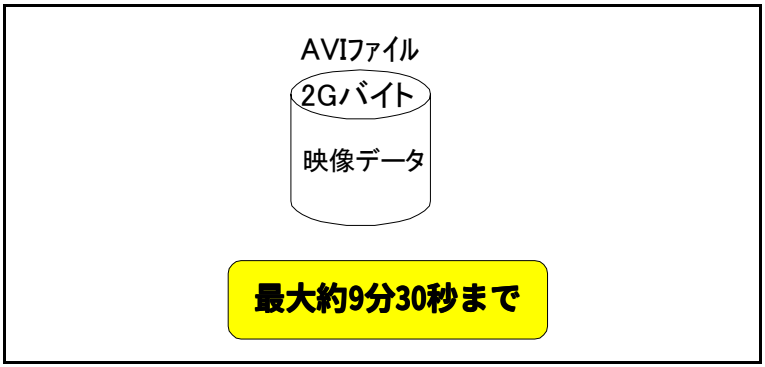
インデックスデータの外部にできる実際の映像データです。
2Gバイトの制限やファイル数の制限を受けません。
（Windowsのファイルシステムの制限で、１つのデータファイルの大きさは4Gバイトまでとなります）

参考

キャプチャ時には、インデックスデータファイルと映像データファイルは別のドライブにすることをおすすめします。

●今までの方式

映像データが圧縮されたAVIファイルのみです。



DVworksの設定とAVIファイルの関係

「DVworks」の設定によって作成されるAVIファイル（フォーマット）は異なります。

設定は、[DVキャプチャ]タブを選んだファンクションパネルの[モード切り替え]ボタンで行います。

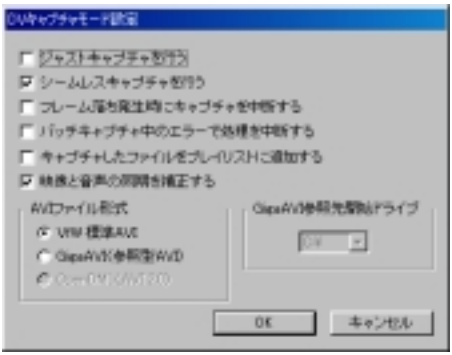
- **シームレスキャプチャを行う**
- **AVIファイル形式**

  VfW標準AVI　　←・・・・・・・VfW（Video for Windowsの略）

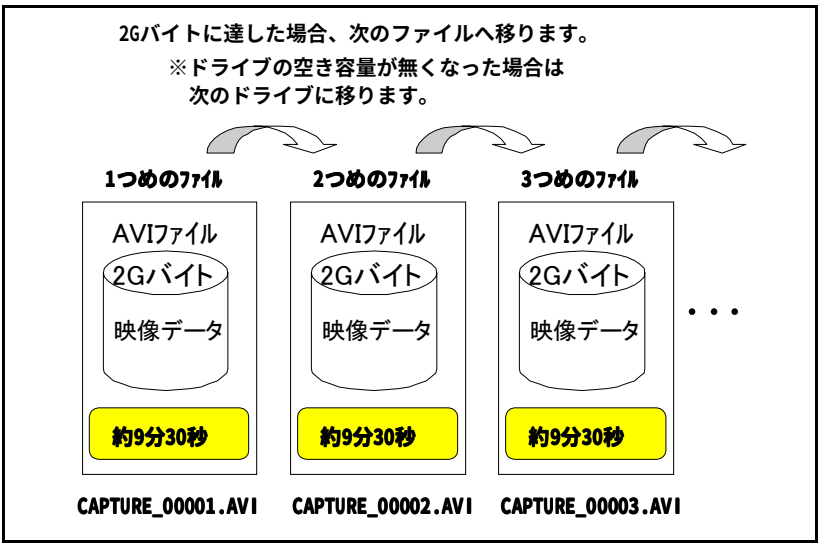
  GigaAVI（参照型AVI）

（初期設定：「シームレスキャプチャを行う」「VfW標準AVI」がチェックされています。）

＜シームレスキャプチャを行う＞と＜VfW標準AVI＞をチェックした場合　（初期設定）

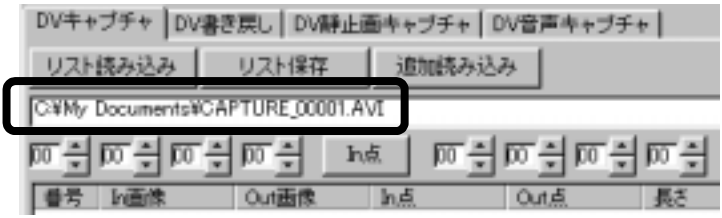


従来のAVIファイルを作成します。
ただし、AVIファイルが2Gバイトに達した時、自動的に新たなAVIファイルを作成してフレーム落ちなく、ドライブの空き容量があるまで続行します。
2Gバイトに達する前にドライブの空き容量が無くなった場合は、次のドライブ（ドライブ名順）のルートフォルダにファイルを作成していきます。
（次のドライブがリムーバブルドライブの場合は処理を終了します。）



<AVIファイル名について>

ファイルエディットボックスでベースファイル名を指定します。



作成されるファイル名は以下の様になります。

ベースファイル名 ＋ 5桁のカウンタ

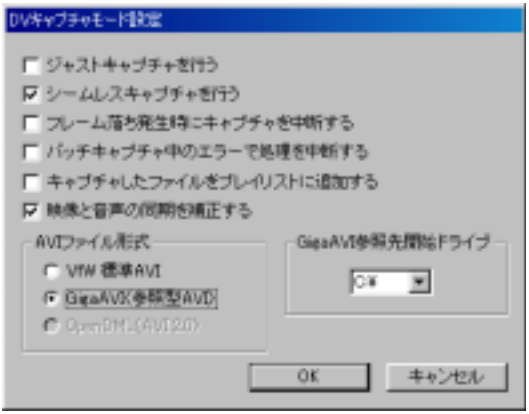
拡張子はAVI固定です。5桁のカウンタの番号は、キャプチャするたびに自動的に加算されていきます。

例）ベースファイル名をCAPTURE_00001.AVIとした場合、以下の様に作成されます。

CAPTURE_00001.AVI
CAPTURE_00002.AVI
CAPTURE_00003.AVI
・・・・・・・・・・・・・・・

※ 連続番号のカウンタをもつファイル群のうち、途中のファイルを削除した場合でも、次にキャプチャされるファイルのカウンタ部分は、最後の番号になります。
例えば、上記の例ではCAPTURE_00002を削除した場合でも、次にカウントされる番号はCAPTURE_00004.AVIとなります。

＜シームレスキャプチャを行う＞と＜GigaAVI（参照型AVI）＞をチェックした場合



GigaAVIファイルを作成します。

＜映像データファイル＞

4Gバイトに達した時、自動的に新たな映像ファイルを作成してフレーム落ちなく、ドライブの空き容量があるまで続行します。

4Gバイトに達する前にドライブの空き容量が無くなった場合は、次のドライブ（ドライブ名順）のルートフォルダにファイルを作成していきます。（次のドライブがリムーバブルドライブの場合は処理を終了します。）

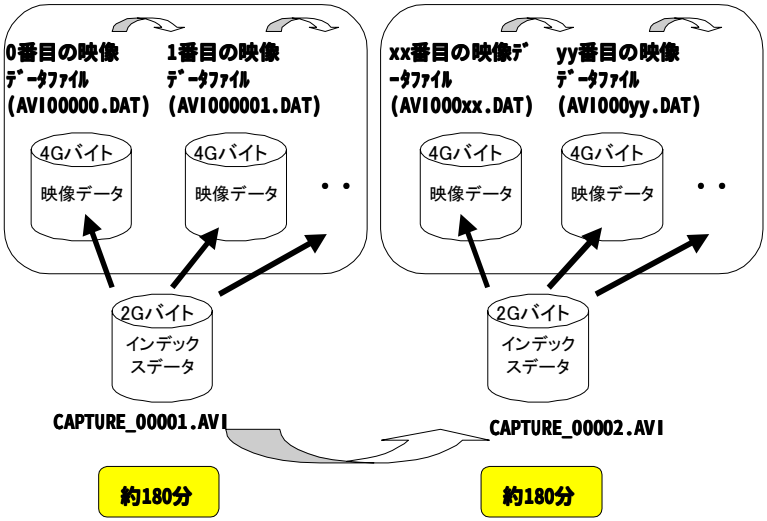
＜インデックスファイル＞

2Gバイトに達した時、自動的に新たなインデックスファイルを作成してフレーム、ドライブの空き容量があるまで続行します。

※ 映像データファイルは、「GigaAVI参照先開始ドライブ」のルートフォルダに作成されます。
保存先フォルダの変更はできません。また、作成されたファイルは移動しないでください。

映像データファイルは4Gバイトに達した場合、
次のファイルへ移ります。

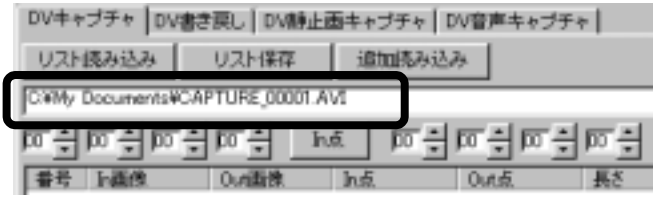
※ドライブの空き容量が無くなった場合は
次のドライブに移ります。



インデックスデータファイルは2Gバイトに達した場
合、次のファイルへ移ります。

＜インデックスファイル名について＞

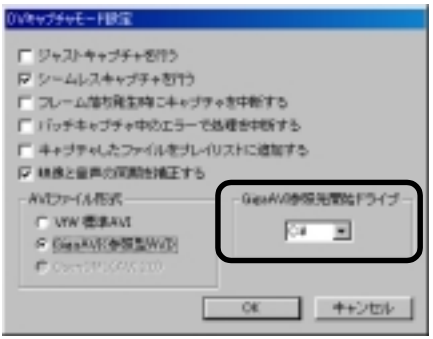
ファイルエディットボックスでベースファイル名を指定します。



作成されるファイル名は以下の様になります。
　　ベースファイル名 ＋ 5桁のカウンタ
拡張子はAVI固定です。5桁のカウンタの番号は、キャプチャするたびに自動的に加算されていきます。
　　例）ベースファイル名をCAPTURE_00001.AVIとした場合、以下の様に作成されます。
　　CAPTURE_00001.AVI
　　CAPTURE_00002.AVI
　　CAPTURE_00003.AVI
　　・・・・・・・・・・・・・・・

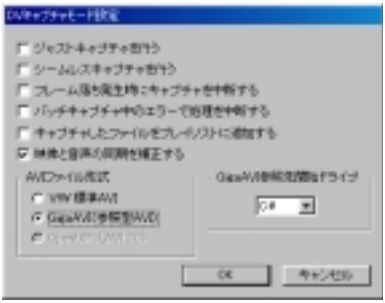
＜映像データの保存先ドライブの設定＞

映像データは、「AVIファイル入出力方式」の
「GigaAVI参照先開始ドライブ」で指定したドライブに保存されます。



※ 映像データファイルは、「GigaAVI参照先開始ドライブ」のルートフォルダに作成されます。
保存先フォルダの変更はできません。また、作成されたファイルは移動しないでください。

＜シームレスキャプチャを行う＞のチェックを外し＜GigaAVI（参照型AVI）＞をチェックした場合



GigaAVIファイルを作成します。

＜映像データファイル＞

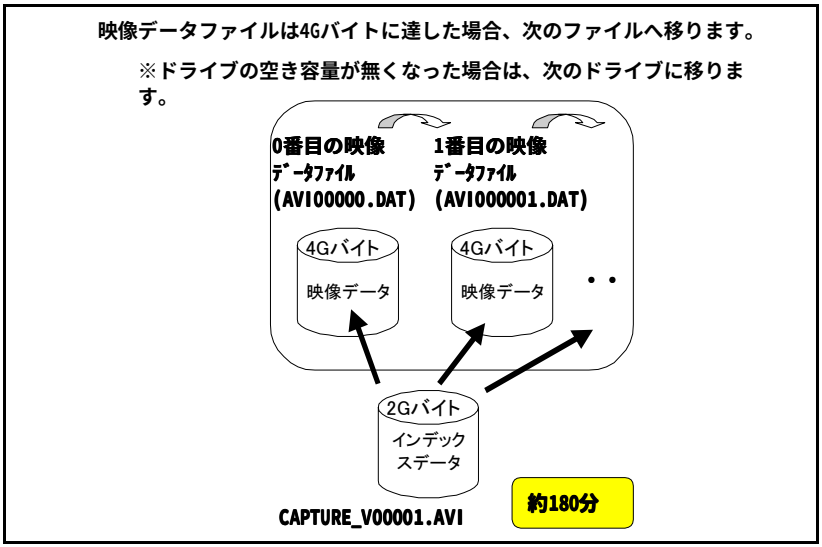
4Gバイトに達した時、自動的に新たな映像ファイルを作成してフレーム落ちなく、ドライブの空き容量があるまで続行します。

4Gバイトに達する前にドライブの空き容量が無くなった場合は、次のドライブ（ドライブ名順）のルートフォルダにファイルを作成していきます。

（次のドライブがリムーバブルドライブの場合は処理を終了します。）

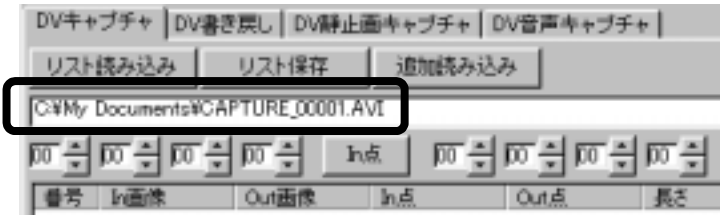
＜インデックスファイル＞

2Gバイトに達するまで続行します。



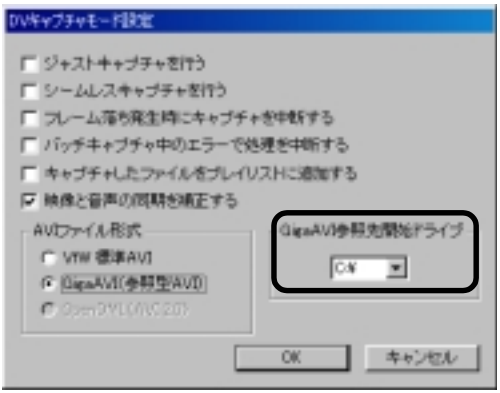
＜インデックスファイル名について＞

ファイルエディットボックスでベースファイル名を指定します。



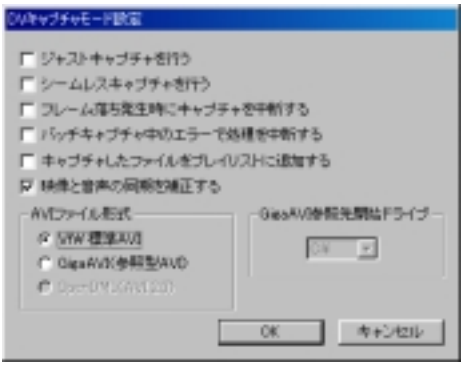
＜映像データの保存先ドライブの設定＞

映像データは、「AVIファイル入出力方式」の
「GigaAVI参照先開始ドライブ」で指定したドライブに保存されます。



※ 映像データファイルは、「GigaAVI参照先開始ドライブ」のルートフォルダに作成されます。
保存先フォルダの変更はできません。また、作成されたファイルは移動しないでください。

＜シームレスキャプチャを行う＞のチェックを外し＜VfW標準AVI＞をチェックした場合



従来のAVIファイルを作成します。
最大約9分30秒のファイル（サイズは2Gバイト）を作成できます。
2Gバイトに達する前にドライブの空き容量が無くなった場合は、その時点までのファイルを作成し、処理を終了します。

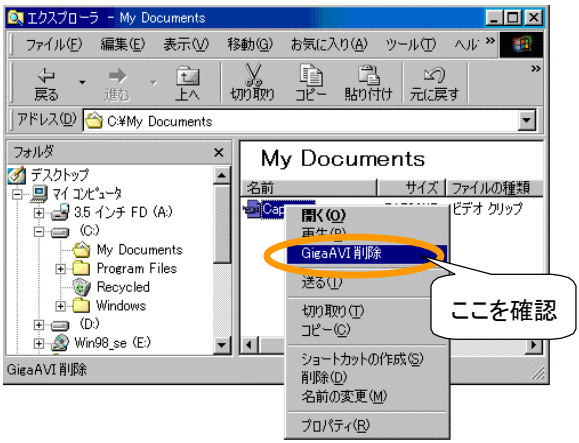
＜AVIファイル名について＞

ファイルエディットボックスでベースファイル名を指定します。

GigaAVIファイルの確認方法

AVIファイルが「GigaAVIファイル」か「従来のAVIファイル」かは以下の手順で確認できます。

『エクスプローラ』上で確認したいAVIファイルを右クリックします。



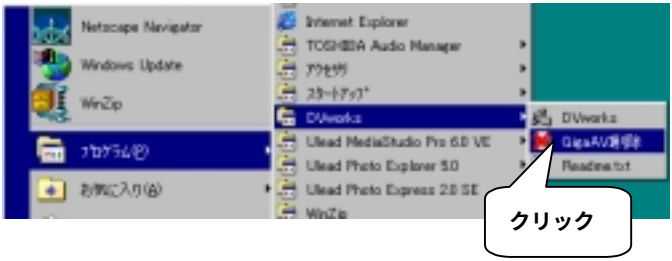
メニュー内に「GigaAVI削除」の項目のあるファイルがGigaAVIファイルです。
確認後は、［Esc］キーでメニューを閉じてください。

GigaAVIファイルを削除する場合

本製品には、GigaAVI形式のAVIファイルと、それに関連する参照先データファイルをまとめて削除するためのユーティリティが付属しています。

＜起動方法＞

1　[スタート]→[プログラム]→[DVworks]→[GigaAVI削除]を順にクリックします。

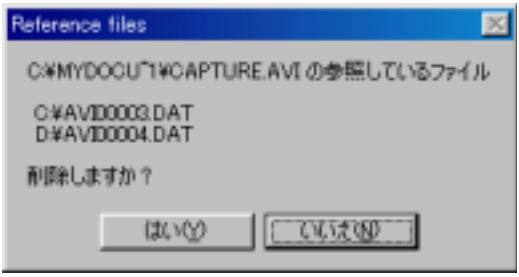


＜使用方法＞

1　削除したいGigaAVIファイル名を入力、あるいは参照ボタンをクリックし、「ファイル選択」画面から削除したいGigaAVIファイルを選択してください。

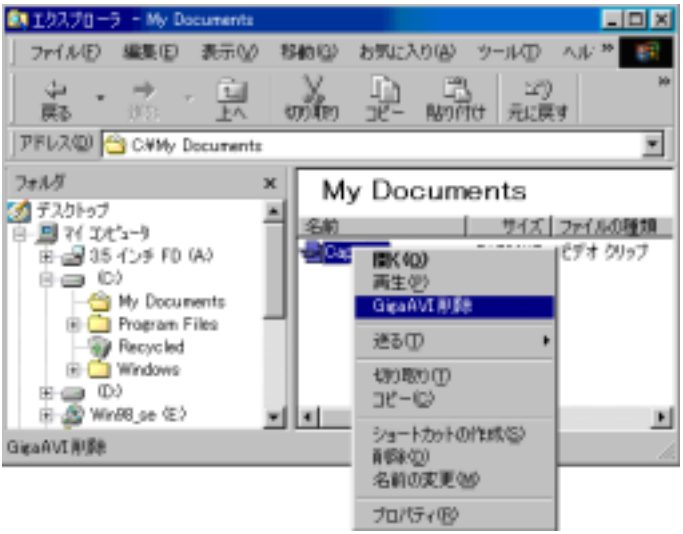
2　[削除]ボタンをクリックします。

3　“削除しますか?”では、[はい]をクリックすれば指定したGigaAVIファイルを削除して終了します。



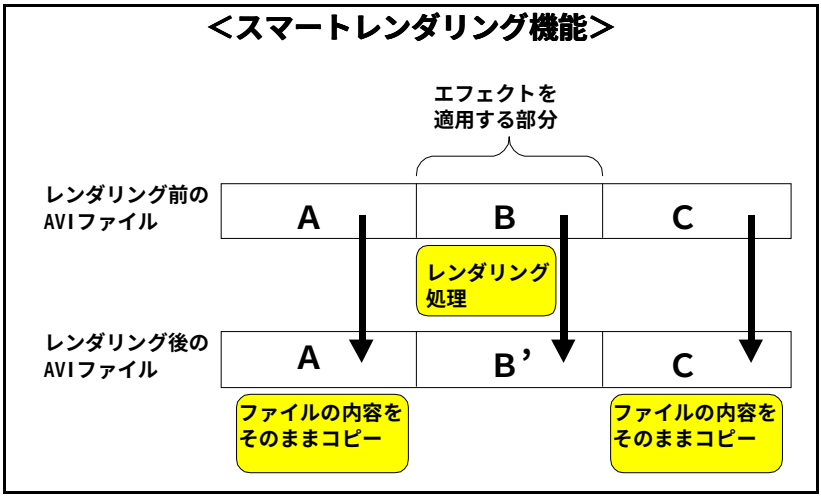
参考

AVIファイルを右クリックすることによって開くメニューの項目に、「GigaAVI削除」がありますので、そこからもプログラムを起動することができます。その時は、自動的にGigaAVIファイル名が指定されます。



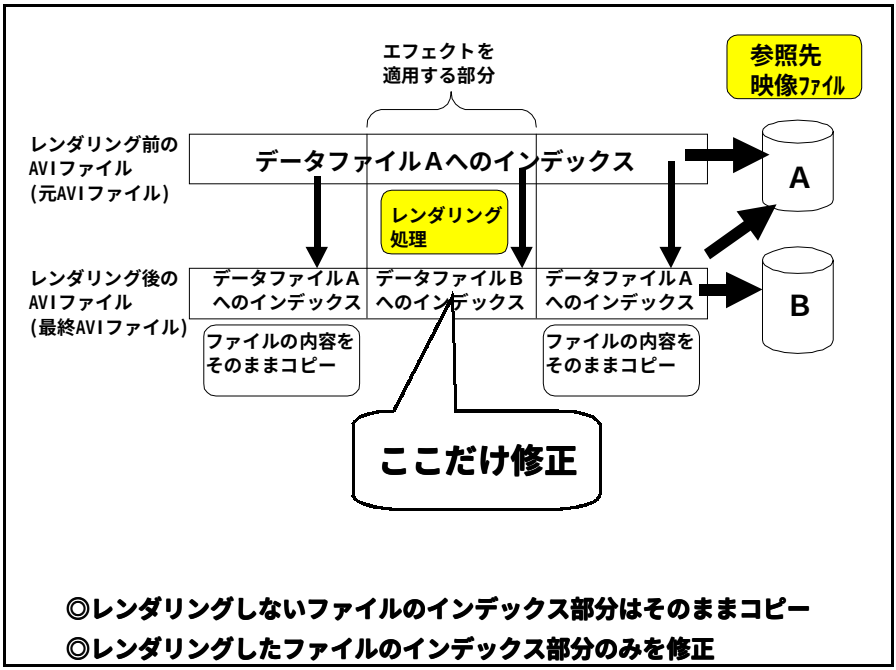
MediaStudio Proでの注意事項

MediaStudio Proでは「ビデオ圧縮方式」（CODEC方式：108ページの手順**5**参照）がレンダリング前と後とで同じ場合、レンダリング時間を短縮するためのスマートレンダリング機能を持っています。
これはエフェクト効果のない部分などの演算処理の必要がない映像データについては、元のAVIファイルから直接データを抜き出してレンダリング後のAVIファイルに保存する事で、レンダリングにかかる時間を短縮する機能です。

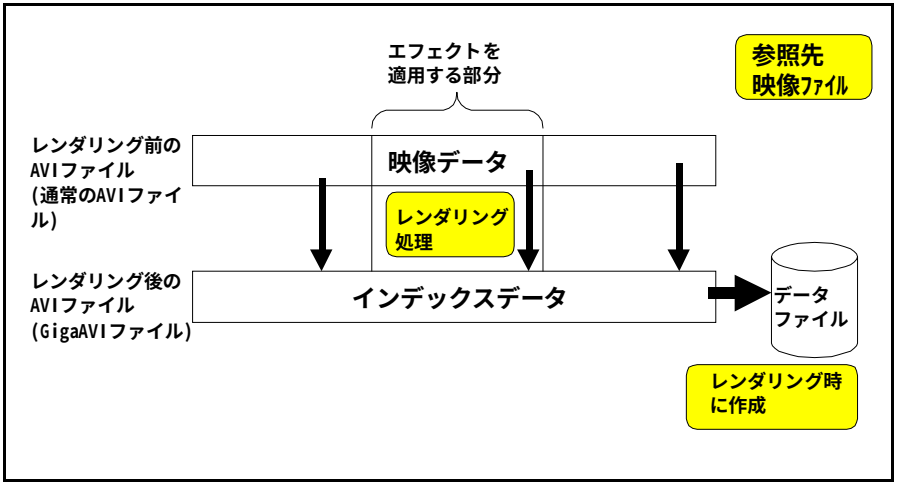


レンダリング前と後のAVIファイルが両方ともGigaAVI（参照型AVI）の場合、ファイル内部は映像データではなく、映像データファイルの参照先のインデックスデータです。そのため、レンダリング処理を行っても元AVIファイルと最終AVIファイルで共通で参照する映像データ（以下の図の参照先Ａ）を持つこととなります。

「GigaAVI削除ユーティリティ」（189ページ参照）で、元AVIファイル（レンダリング前のAVIファイル）を削除してしまった場合、ユーティリティが参照先映像ファイル（以下の図の参照先Ａ）のファイルも削除してしまうため、最終AVIファイル（レンダリング後のAVIファイル）の参照先映像データファイルがないため、レンダリング後のAVIファイルを正常に再生できなくなります。



これを回避するためには、編集前のAVIファイルは通常型のAVIファイルを複数使用し、最終的に参照型AVIファイルを作成する方法を推奨します。



注意

レンダリング前がGigaAVIで、レンダリング後に通常のAVIファイルを作成した場合は、最大2Gバイト（約9分30秒）までのファイルとなります。

付5 用語解説

Codec（コーデック）

ビデオ画像の圧縮・伸張処理を行うプログラム。

DV方式

HDデジタルVCR評議会により標準化されたビデオ映像をデジタルデータの形式で圧縮しDVメディアに記録する規格。SD仕様と高品位規格のHD仕様があり、本製品ではSD仕様に対応している。
このDV規格は規格書の色から通称"Blue Book"と呼ばれることも多い。

DV-SD仕様の特徴
・映像データ形式はYUV=4:1:1(NTSC)または4:2:0(PAL)で圧縮率1/5
・音声データ形式は16bit/48KHz(2ch)と12bit/32KHz(4ch)の２種類

DV端子

主に民生用のDV機器に使われているデジタル映像の入出力端子で、4pin形状のコネクタが採用されている。

FireWire（ファイヤワイヤ）

Apple社が提唱しているIEEE1394仕様の呼称。

IEEE1394（アイトリプルイー）

パソコン周辺機器の高速データ転送用の技術としてApple社で開発が始まり、IEEE(米国電気電子技術者協会)により正式規格として制定された規格。
その規格番号から一般的にIEEE1394と呼ばれる。
SONYがデジタルビデオカメラのインターフェイスとして採用したことで家電業界を中心に普及が進んでいる。

In点／Out点

ビデオ映像の中で範囲を指定する際のキャプチャの開始点(In点)と終了点(Out点)のこと。In点とOut点はタイムコードの数値で指定する。

i.LINK

IEEE1394-1995仕様およびその拡張仕様の名称としてSONYが提唱している呼称。

NTSC方式

日本や北米で採用されている放送方式で、走査線の数は525本、フレームレートは29.97フレーム/秒。

PAL方式

主として欧州で採用されている放送方式で、走査線の数は625本、フレームレートは25フレーム/秒。

SP（Standard Play）
LP（Long Play）

DVの記録時間モード。60分のミニDVカセットにおいて、SP（標準モード）で約60分、LP（長時間モード）で約90分の記録が可能。

※ LPモードでは、DVメディアの回転速度を遅くする事で、長時間の録画を可能にしているため、若干、映像データの記録精度に問題が発生する場合があります。通常はSPモードでの使用を推奨します。

頭だし

目標とする映像の位置に合わせること。

オーバーレイ

Windowsの画面上に別の映像を重ね合わせて表示する方式。

参照型AVI（エーブイアイ）ファイル

『Video for Windows』による2Gバイトのファイルサイズの制限を回避するために考案されたAVIファイルの形式。
弊社のGigaAVIフォーマットを含め、各社がさまざまなフォーマットを開発している。（詳細については177ページ参照）

シームレスキャプチャ

複数のAVIファイルに渡って映像のキャプチャを行う際に、各AVIファイルの間でフレーム落ちを起こさない方式のこと。

シームレス再生

複数のAVIファイルを連続して再生する際に、切れ間なく連続して再生を行う方式のこと。

タイムコード

ビデオ編集を行う場合、映像の位置決めを容易にするために用いられる時刻（時、分、秒）とフレーム番号からなる位置情報。

ドロップフレーム
ノンドロップフレーム

NTSC方式の場合、ビデオ信号は正確には29.97フレーム/秒 のため、
30フレーム/秒とすると，1時間に108フレーム(3.6秒)の誤差が生じる。
この誤差を補正するため、0，10，20，30，40，50 分を除く毎正分の
開始から２つのフレーム番号(00,01)をカウントせず飛ばすタイムコード
方式をドロップフレーム方式と呼ぶ。
一方、この補正を行わない方式をノンドロップフレーム方式と呼ぶ。

ノンリニア編集

映像素材をハードディスクに持ち、パソコン上で編集を行う方式のこと。
映像編集の自由度が非常に高い編集方式である。

バッチキャプチャ

あらかじめキャプチャ範囲を指定しておき、あとで一括して取り込みを行う
キャプチャ方式のこと。

フィールド

１回の走査で作られる画面のこと。
一般的に奇数フィールドと偶数フィールドの２つのフィールドで１フレームの
画面が構成される。

フレーム

ひとつの完全な画面のこと。
一般的に奇数フィールドと偶数フィールドの２つのフィールドで１フレームの
画面が構成される。

プリロール

VTRなどを使用する際に、再生を開始してからDVメディア走行が安定するまでに必要な時間や動作。

ミニDVカセット

DVメディアには、主として業務用のスタンダード（標準）DVカセットと民生用のDVカメラで使われる小型のミニDVカセットの２種類がある。
一部のDV機器にはスタンダードとミニの両方のDVカセットが使用できる機種もある。

レンダリング

ビデオ編集ソフトで映像データにエフェクトなどを適用する際に行われる演算処理。

付6 仕 様

データ形式	民生用デジタルVCR SD仕様/NTSC方式 （Blue Book準拠 DV-SD/NTSC）
データ処理方式	ソフトウェアDVコーデック
ビデオサイズ	720×480ピクセル(NTSC)
割り込み（IRQ）	Plug & Playシステムによる自動設定(1ケ使用)
コネクタ	DV入出力端子：IEEE1394(i.LINK)　4ピン×２
消費電流	+5.0V±10%　最大0.5A
温度	0℃～+40℃
湿度	20%～80%
サイズ	119.91mm×106.68mm （スロットカバー、コネクタ含まず）
付属ケーブルのケーブル長	1.5m

サポートセンターへのお問い合わせ

サービス添付のソフトウェアに関するお問い合わせ先については、11ページか、裏表紙を参照してください。

■お知らせいただく事項

1. お客様の住所・氏名・郵便番号・連絡先の電話番号及び FAX 番号
2. ご使用の弊社製品名と、サポートソフトウェアディスクのシリアル No.
   (Ver シールに印刷されています。)
3. ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番。
4. ご使用の OS とアプリケーションの名称、バージョン及びメーカー名。
5. 現在の状態(どのようなときに、どうなり、今はどうなっているか。画面の状態やエラーメッセージなどの内容)。

■オンライン

インターネット http://www.iodata.co.jp/support/
「サポートセンターお問い合わせ」内のフォームを使用して、
E-mailをお送りください。

@nifty アイ・オー・データステーション(SIODATA) サポート会議室

■郵便

〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地 ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀ第２ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
サポートセンター「GV-DVC2/PCI」係 宛

■電話

電話番号 金沢 076-260-3646
東京 03-3254-1036

受付時間 9:30～19:00 月～金曜日（祝祭日を除く）

■FAX

FAX 番号 金沢 076-260-3360
東京 03-3254-9055

宛先 株式会社アイ・オー・データ機器
サポートセンター「GV-DVC2/PCI」係 宛

本製品に関するお問い合わせはサポートセンターのみで行っています。
予めご了承ください。

サポートソフトウェアのバージョンアップ

入手方法は以下の通りです。なお、当サービスはユーザー登録された方のみが対象です。

■オンライン

インターネット　http://www.iodata.co.jp/　→「サポートライブラリ」
@nifty　　ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀｽﾃｰｼｮﾝ（SIODATA）　ライブラリ 7（LIB 7）

■サービス窓口からの郵送

下記の窓口までお問い合わせください。（送料及び手数料はお客様負担）

〒920-8513　石川県金沢市桜田町2丁目84番地 ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
「GV-DVC2/PCI」 サービス窓口　宛

電話番号　076-260-3663
受付時間　9:30～12:00　13:00～17:00
月～金曜日（祝祭日を除く）

■ご注意

オンラインによるダウンロードはお客様の責任のもとで行ってください。
添付ソフトウェアの中には、当サービス対象外のソフトウェアもあります。

保証について

■保証期間

・保証期間は、お買い上げの日より１年間です。保証期間を過ぎたものや、保証書に販売店印とお買い上げ日の記述のないものは、有償修理となります。お送りいただいた製品を検査後、有償となる場合のみ往復ハガキにて修理金額をご案内致しますので、修理するか否かをご検討の上、往復ハガキにご記入いただきご返送ください。また、修理を受ける場合には保証書が必要になりますので、大切に保管してください。

・弊社が販売終了を決定してから、一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。
詳細は、ハードウェア保証書をご覧ください。

■保証範囲

次のような場合は、保証の責任を負いかねます。予めご了承ください。

・本製品の使用によって生じた、データの消失及び破損。

・本製品の使用によって生じた、いかなる結果やその他の異常。

・弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障。

修理について

弊社製品の修理につきましては、以下の事項をご確認の上、販売店へご依頼いただくか、または下記修理品送付先までお送りくださいます様、お願い致します。

- 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。
  また、修理品のデータにつきましては、故障症状確認の際にすべて消去されます。
- 修理品にはご使用の環境や現在の状態（『サポートセンターへのお問い合わせ』の「お知らせいただく事項」）をお書き添えください。
- 保証期間中は無償で修理いたします。ただし、次の場合は有償となります。
  ◇保証書がない場合
  ◇保証書の所定事項が未記入の場合
  ◇電源 ON で挿入、抜去、逆挿入など誤った操作方法や、お買い上げ後の輸送、
  落下、取り付け場所の移設による破損、故障の場合
  ◇落雷などの事故による破損の場合
  ◇本製品を改造した場合
- 保証期間後は有償で修理いたします。
  製品によっては主要部品がユニット化（一体化）されている場合があります。これらの製品で故障が主要部品におよんでいた場合、各ユニットの交換を実費で行います。
- 修理品送付先

住所　〒920-8513
石川県金沢市桜田町 2 丁目 84 番地 アイ・オー・データ第２ビル
株式会社アイ・オー・データ機器
「GV-DVC2/PCI」 修理係　宛

※修理品を送付される場合は、輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材を使用してください。また、紛失等のトラブルを避けるため、**宅配便**または**書留郵便小包**でのご送付をお願いいたします。

- 修理品納期問い合わせについて

受付窓口	**「GV-DVC2/PCI」　サービス窓口**
電話番号	**金沢　076-260-3663**
受付時間	**9:30～12:00　13:00～17:00**
	月～金曜日（祝祭日を除く）

※申し込まれた修理品の納期をお知りになりたい場合は、上記までお問い合わせください。

サービス添付のソフトウェア に関するお問い合わせ

● Ulead MediaStudio Pro 6.0 VE SP、Ulead PhotoImpact 5 BE、Ulead Cool3D 3 SEに関するお問い合わせ

ユーリードシステムズ（株）ユーザーサポート係
住所：東京都世田谷区用賀**4-5-16　TE**ビル
TEL：**03-5491-5662　　FAX**：**03-5491-5663**
受付時間：月～金曜日（祝祭日を除く）　**10:00**～**12:00**、**13:00**～**17:00**
※「**Ulead**製品お客様保管用カード」も合わせてご確認ください。

● Sonic DVDit! LE に関するお問い合わせ

DVDit! サポートセンター
住所：〒**105-0022**東京都港区海岸**2-6-30** 浜松町エメラルドビル**5F**
ソニック・ソルーションズ東京事務所　**DVDit!**サポートセンター
TEL：**03-5232-5065**
受付時間：月～金曜日（祝祭日を除く）　**10:00**～**12:00**、**13:00**～**17:00**

● DigiOnSound Light に関するお問い合わせ

デジオンサポートセンター
住所　：福岡市早良区百道浜**2**丁目**3**番**8**号 **RKB**放送会館**4F**
TEL　：**092-833-6288　FAX**：**092-833-6278**
E-Mail　：**support@digion.com**
受付時間：月～金曜日（祝祭日を除く）　**10:00**～**12:00**、**13:00**～**17:00**
※「**DigionSound Light**ユーザー登録のご案内」も合わせてご確認ください。

● PowerDVD 2000 に関するお問い合わせ

Cyber Link社ユーザーサポート係
TEL　　：**03-3662-8076　FAX**：**03-3662-8009**
ホームページ：**http://www.cli.co.jp/support/**